

# V 教員の研究・調査活動

## 【凡例】

### ●基礎情報

- ①氏名 (family name, first name) ②所属・職名・役職・兼任 ③生年 (任意) ④学歴・職歴 ⑤最終学位  
⑥専門分野 ⑦主な研究テーマ ⑧所属学会 ⑨研究目的・研究状況・メールアドレス (任意)

### ●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

- ・著書 (単著・共著・編著・監修)
- ・論文
- ・調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
- ・展示図録・資料図録・映像・DB
- ・学会・外部研究会発表
- ・総研大リーフレット
- ・その他

### ●2023年度の研究教育活動 (成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

#### 一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 1 著書 (単著・共著・編著・監修)
- 2 論文 (査読あり, なしを明記)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
- 6 総研大リーフレット
- 7 その他 (『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

#### 二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

- 1 主な共同研究等参加状況 (歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)
  - ① 歴博 (基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)
  - ② 他の機関
  - ③ 機構 (基幹研究プロジェクト)
- 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自団体による研究)
- 3 国際交流事業 (国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)
- 4 主な展示・資料活動 (展示・資料・DBなど)
- 5 教育 (総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

#### 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員 (学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)
- 2 講演・カルチャーセンターなど (友の会も含む)
- 3 マスコミ (テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)
- 4 社会連携 (国内)
  - ① 刊行物 (自治体など地方公共団体刊行のもの: 市史, 発掘調査報告書など)
  - ② 共同研究 (自治体からの委託研究や産業界との共同研究)
  - ③ 講演会・シンポジウム (自治体など地方公共団体主催のもの)
  - ④ デジタル・コンテンツ開発 (自治体の経費で開発したもの)
- 5 国際連携 (日本国内で行われたものも含む)
  - ① JICA
  - ② 国際交流基金
  - ③ その他

四 活動報告

- 1 受賞歴
- 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
- 3 研究・調査プロジェクト報告
- 4 その他（研究の目的、意義など）\*任意

## 西谷 大 NISHITANI Masaru 館長 (2020.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～) 生年：1959

【学歴】熊本大学文学部史学科 (1984年卒業)、熊本大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了 (1986年単位取得退学)、中華人民共和国天津師範大学普通進修生修了 (1987年)、中華人民共和国中山大学人類学系高級進修生修了 (1989年) 【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手 (1989)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2012)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2012)、博物館資源センター長併任 (2013～2015)、副館長併任 (2017～2019)、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】文学修士 (熊本大学) (1986年取得)、文学博士 (総合研究大学院大学) (2008年取得)

【専門分野】東アジア人類史【主な研究テーマ】東アジアの生業に関わる歴史 日本の地域研究 (人と自然の関係史)

【所属学会】中国考古学会、東南アジア考古学会【研究目的・研究状況・メールアドレス】東アジアにおける生業の歴史を主な研究目的とする。中国海南省のリー族、中国雲南省紅河州の者米谷でフィールド調査を行ってきた。近年は、千葉県房総丘陵地域で、近世から現代までの人と自然の関係史を、様々な分野の研究者と共同でフィールド調査を行っている。

### ●主要業績

1. 【編著】「[共同研究] 東アジアにおける多様な自然利用—水田農耕民と焼畑農耕民」『国立歴史民俗博物館研究報告』第164集、国立歴史民俗博物館、A4版、177頁、2011年3月
2. 【単著】『多民族の住む谷間の民族誌—生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』角川学芸出版、A5版、335頁、2011年9月
3. 【論文】Nishitani Masaru and Nathan Badenoch 「Why Periodic Markets Are Held : Considering Products, People, and Place in the Yunnan-Vietnam Border Area 」 Vol 2. No 1. of Southeast Asian Studies, pp.171-192, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2013年4月 (査読有)
4. 【論文】西谷 大・島立理子・大久保悟「共同研究 [日本の中山間地域における人と自然の文化誌] 中間報告—二号穴からみた水利用—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第186集、pp.295-309、国立歴史民俗博物館、2014年3月 (査読有)
5. 【論文】西谷 大「豚便所—飼養形態からみた豚文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第90集、pp.79-149、国立歴史民俗博物館、2001年3月 (査読有)

### ●2023年度の研究教育活動

#### 三 社会活動等

##### 1 館外における各種委員

日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会 委員、公益財団法人佐倉国際交流基金 評議員、公益財団法人味の素の文化センター 評議員、大和郡山市 水木十五堂賞選考委員会委員、千葉県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール (千葉県立佐倉高等学校) 運営指導協議員、千葉県生涯学習審議会委員、日本郵便株式会社 郵便切手アドバイザー・グループ委員、公益財団法人千葉県教育振興財団 評議員

##### 3 マスコミ

「模倣対策最前線 ニセモノぞくぞく！ 模倣品が照らす人の『本性』は？」、発明 THE INVENTION 第120巻 第11号、pp.7-13、一般社団法人 発明推進協会、2023年11月1日

「読書日和 細谷和海著『シーボルトが持ち帰った琵琶湖の魚たち』の紹介」、一般社団法人共同通信社配信、2023年12月3日 (伊勢新聞掲載)・9日 (高知新聞、日本海新聞、京都新聞掲載)・10日 (北國新聞、徳島新聞掲載)・17日 (福井新聞、佐賀新聞、山陽新聞掲載)・23日 (中部経済新聞掲載)・2024年1月20日 (東奥日報掲載)

「水の余話 水と棚田」、ミツカン水の文化センター機関誌 水の文化第76号、pp.35、ミツカン水の文化センター、2024年2月

##### 4 社会連携

###### ③ 講演会・シンポジウム

令和5年度佐倉市民カレッジ「これからの博物館で必要なこと・歴博を楽しむ」、佐倉市立中央公民館、

2023年11月29日

第5回リベラルアーツラーニング「歴博とはどのような博物館なのか？—歴史を展示する意味とは？—」,  
公益財団法人福武財団オフィス, 2023年12月20日

令和5年度国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会「イヌとブタと帝国と—中国のイヌとブタたちの  
1000年物語—」, 国立歴史民俗博物館 講堂, 2024年2月17日

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

2024年2月に開幕した国立台湾歴史博物館の特別展示「跨ぐ・1624：世界の島台湾」の開幕セレモニーに参加し開催挨拶を行うとともに、展示視察を行った。さらに国立台湾歴史博物館の張館長および台湾側の研究者とともに研究会を開催し、歴博での11月の特集展示「歴史・文化の中の鄭成功」開催に向けた鄭成功関連資料の情報共有および展示資料の具体的な内容に関し意見交換を行った。また、現地での鄭成功関連の史跡に関して、巡検・調査を通じて資料・情報収集を行った。

## 天野 真志 AMANO Masashi 准教授 (2022.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術専攻日本歴史研究コース准教授 (2023～)

【学歴】富山大学人文学部人文学科 (2004年卒業), 東北大学大学院文学研究科博士前期課程 (2006年修了), 東北大学大学院文学研究科博士後期課程 (2010年単位取得退学)

【職歴】東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者 (2010-2012), 東北大学災害科学国際研究所助教 (2012-2017), 人間文化研究機構研究推進センター研究員 (2017.7～2022.03), 併任国立歴史民俗博物館特任准教授 (2017.7～2022.03), 国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2022.04～)

【学位】博士 (文学, 東北大学), 【専門分野】日本近世・近代史, 資料保存, 【主な研究テーマ】日本近世近代移行期における政治・社会史研究, 近世・近代社会における地域の由緒に関する研究, 地域歴史文化の保全・継承に関する研究, 地域歴史文化資料の災害対策に関する研究, 【所属学会】文化財保存修復学会, 明治維新史学会, 歴史学研究会, 東北史学会, 日本古文書学会, 日本アーカイブズ学会, 歴史科学協議会

#### ●主要業績

1. 【著書】『幕末の学問・思想と政治運動』吉川弘文館, 260頁, 2021年4月10日
2. 【共編著】『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信, 248頁, 2022年3月8日
3. 【共編著】『地域歴史文化のまもりかた』文学通信, 295頁, 2024年3月31日
4. 【論文】「災害経験をめぐる記憶の行方」, 『歴史学研究』1005, pp.28-33, 2021年2月

#### ●2023年度の研究教育活動

##### 一 研究業績

##### 1 著書

共編著：天野真志, 吉村郊子『REKIHAKU 特集：歴史をつなぐ』112頁, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月26日

共編著：天野真志, 松下正和『地域歴史文化のまもりかた 災害時の救済方法とその考え方』295頁, 文学通信, 2024年3月31日

##### 2 論文

「明治期の災害情報と記録化—遠藤允信の情報活動とその背景—」『文明動態学』3, pp.67-78, 岡山大学文明動態学研究所, 2024年3月25日, 査読有

「料紙研究を語る」記録から」『東京大学史料編纂所研究紀要』34, pp.127-142, 東京大学史料編纂所, 2024年3月, 査読有

「自治体史編纂と震災資料—『岩沼市史11特別編Ⅲ震災』における震災叙述—」『LINK』15, pp.120-126, 2023年12月28日

「平田篤胤の残像—秋田藩士としての平田家とその周辺—」『現代思想』51-16, pp.346-356, 2023年12月3日

##### 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

## 5 学会・外部研究会発表

「地域資料保存・継承の潮流と可能性」国際シンポジウム「大災害時代における地域存続と歴史文化 —地域歴史資料学を機軸として—」, 神戸大学, 2024年3月2日

「巨理町における被災資料の救出・整理」日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究 2023年度第2回地域歴史協働ユニット研究会, 巨理町立郷土資料館, 2024年2月29日

「歴史文化資料保全首都圏大学協議会の目的と展望」第10回全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏, 一橋大学, 2024年2月17日

「政治議論の地域的展開 —戊辰戦争前後の秋田藩仙北地域を中心に—」明治維新史学会例会, オンライン, 2023年12月9日

「固着文書等資料の取り扱い・開披処置に向けた考え方について」水損固着文書開披に関わる研究会, 九州国立博物館, 2023年11月29日

「明治期の災害情報と記録化 —遠藤允信の情報活動とその背景—」第22回「災害文化と地域社会形成史」研究会, オンライン, 2023年9月9日

「被災資料救済の現状と課題」東北北海道保存科学研究会, 福島県富岡町文化交流センター学びの森, 2023年7月2日

「紙媒体資料の救済を想定したシミュレーションワークショップの検討と実践」文化財保存修復学会 第45回大会, 国立民族学博物館, 2023年6月25日

## 7 その他

「西日本豪雨と資料保存—広島県立文書館での取り組みから考える—」『広島県立文書館だより』48, pp.2-3, 2024年2月29日

「国立歴史民俗博物館の愉悦16『形勢聞見録』」『文部科学教育通信』554, p.2, 2023年4月24日

## 二 主な研究教育活動

## 1 主な共同研究等参加状況

## ① 歴博

課題設定型共同研究「中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究」(代表者: 田中大喜)

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」(代表者: 上野祥史)

## ② 他の機関

東京大学史料編纂所一般共同研究「中近世古文書の料紙に関する総合的科学研究」(代表者: 貫井裕恵)(2022~2023年度)

岡山大学文明動態学研究所共同研究「地域社会を支える歴史認識及び地域歴史資料学の基礎的研究」(代表者: 今津勝紀)(2023年度)

## ③ 機構

ネットワーク型機関研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点「共創的資料保存の構築に向けたネットワーク研究拠点」(代表者: 天野真志)

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」(代表者: 後藤真)

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開: 新たな社会の創発を目指して」歴博ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」(代表者: 川村清志)

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開: 新たな社会の創発を目指して」民博ユニット「地域文化の効率的な活用モデルの構築」(代表者: 日高真吾)

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開: 新たな社会の創発を目指して」国文研ユニット「人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築」(代表者: 西村慎太郎)

## 2 外部資金による研究

科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(代表者: 奥村弘)(2019~2023年度)

科学研究費基盤研究(A)「古文書科学」の応用実践」(代表者: 渋谷綾子)(2023~2027年度)

科学研究費基盤研究(A)「恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築」(代表者: 松井敏也)(2020~2024年度)

科学研究費基盤研究(A)「現実世界と電子世界の融合で被災地復興に寄与する次世代MLA」(代表者:白井哲哉)  
(2022~2027年度)

科学研究費基盤研究(B)「近世・近代日本における「富国」論の政治的・社会的機能に関する研究」(代表者:  
小関悠一郎)(2021~2024年度)

## 5 教育

立教大学文学部

京都芸術大学藝術学舎

福島大学行政政策学類

山形大学人文社会科学部

国文学研究資料館アーカイブズカレッジ

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

国立文化財機構文化財防災センター客員研究員

島根県古代文化センター, 客員研究員

福島県相馬市史編さん室調査執筆員

茨城県常陸大宮市史編さん委員会専門部会協力員宮城県名取市史編さん専門部会専門部員

一般社団法人文化財保存修復学会 災害対策調査部会拡大委員

鹿角市教育委員会・小坂町教育委員会 鹿角地域文化財保存活用計画策定協議会委員

秋田県仙北市文化財保存活用地域計画協議会委員

歴史科学協議会編集委員

明治維新史学会大会運営委員 2 講演・カルチャーセンターなど

歴博友の会古文書講座(2023年4月27日~2024年3月22日)

「淀川洪水にみる明治期の災害情報」泉大津市立図書館「地域の歴史・文化再発見講座」, 泉大津市立図書館,  
2024年2月8日

「学びの交流と幕末維新の政治運動 一矢野玄道とその周辺から」古学堂復活プロジェクト事業講演会, 大洲  
市久米公民館, 2024年1月27日

「被災・汚損資料の取り扱いとその考え方」パルテノン多摩ミュージアム市民学芸員および文化財関係者研修・  
被災資料クリーニング研修会, パルテノン多摩, 2023年12月11日

「災害時における資料の取り扱いを考える」令和5年度被災文化財レスキューボランティア研修会, 埼玉県立  
歴史と民俗の博物館, 2023年11月27日

「変化にさらされる地域の歴史と文化を考える—地域・大学・専門機関のネットワークが生み出す未来—」大  
手町アカデミア×人間文化研究機構特別講座, オンライン, 2023年10月27日

## 四 活動報告

### 2 特別委員会委員など館長からの委嘱をうけたもの

## 荒川 章二 ARAKAWA Shoji 特任教授(2022~)

【学歴】早稲田大学第一文学部(1976年卒業), 立教大学大学院文学研究科修士課程(1978年修了), 一橋大学大学院  
社会学研究科博士課程(1983年単位取得退学)

【職歴】日本学術振興会奨励研究員(1984年度), 法政大学大原社会問題研究所嘱託・兼任研究員(1985~1987年度),  
静岡大学教育学部助教授(1988年4月), 静岡大学情報学部教授(1995年10月), 大学共同利用機関法人人間文化研  
究機構国立歴史民俗博物館客員教授(2004~2007年度), 静岡大学情報学部副学部長(2008~2009年度), 静岡大学  
情報学部学部長(2010~2012年度), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2013  
年4月), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任(2014年4月), 早稲田大学文学学術院非  
常勤講師(2014~2016年度), 静岡大学非常勤講師(2019~2021年度), 放送大学(静岡学習センター所属)客員教  
授(2021年4月~2024年3月), 国立歴史民俗博物館客員教授(2021年6月~2022年3月), 千葉大学文学部非常勤  
講師(2022年度)

【学位】文学修士（立教大学）【専門分野】日本近現代史【主な研究テーマ】近代日本の軍隊と地域関係史，戦後日本社会史【所属学会】歴史学研究会，日本史研究会，歴史科学協議会，同時代史学会【研究目的・研究状況】軍隊と地域関係史の研究では，編著『地域の中の軍隊2 関東 軍都としての帝都』（吉川弘文館）を2014年度に刊行，2021年度に『増補 軍隊と地域—郷土部隊と民衆意識のゆくえ』を岩波現代文庫版として刊行した。また，沖縄軍事史に関し，『沖縄県史 各論編 第六巻 沖縄戦』（沖縄県，2017年3月刊）第1章，および「内地と外地の間で—戦前沖縄の軍事的特色」（杉原達編『戦後日本の＜帝国＞経験』（日本学叢書⑤，青弓社，2018年11月，pp.21- 65）を執筆，戦後研究では，2017年度に「1968年」をテーマとする国立歴史民俗博物館企画展示を実施し，2018年度に「1968年」共同研究の研究報告書を刊行した。

### ●主要業績

1. 【単著】『軍隊と地域』青木書店，358頁，2001年7月（2021年4月『増補 軍隊と地域—郷土部隊と民衆意識のゆくえ』岩波現代文庫，428頁として補章を加えた増補版刊行）
2. 【単著】『軍用地と都市・民衆』（日本史リブレット95）山川出版社，107頁，2007年10月
3. 【単著】『全集日本の歴史16 豊かさへの渴望』小学館，382頁，2009年3月
4. 【編著】『地域の中の軍隊2 関東 軍都としての帝都』吉川弘文館，201頁，2015年2月
5. 【編著】『国立歴史民俗博物館研究報告「1968年」社会運動の資料と展示に関する総合的研究』第216集，国立歴史民俗博物館，347頁，2019年3月
6. 【展示図録】『企画展示「1968年」無数の問いの噴出の時代』（展示代表），国立歴史民俗博物館，228頁，2017年10月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 1 （共著）徐珊恵総編輯『近代東亜体育世界與身体』（国立成功大学人文社会科学中心，216頁，2023年12月）担当：第3章（51～64頁），第4章（65～73頁）
- 2 総武地域史研究会第4回シンポジウム報告書『軍隊・戦争と地域社会』（東海大学文学部歴史学科日本史専攻発行，56頁，2024年3月20日）担当：コメント報告（33～41ページ頁）
- 3 （書評）土田宏成・吉田律人・西村健編著『関東大洪水—忘れられた1910年の大災害』（『國學院雑誌』第124巻第9号，2023年9月）38～41頁
- 4 （紹介）清水亮著『「軍都」を生きる』（『歴史評論』884号，2023年12月）105～106頁

#### 二 主な研究教育活動

- 4 主な展示・資料活動  
総合展示第5・6室リニューアル委員会展示代表

#### 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員  
静岡県史編さん専門委員（2020年11月～），浜松市文化財保護審議会委員（2021年7月～），沼津市明治史料館協議会委員（2022年11月～），放送大学客員教授（静岡学習センター所属，2021年4月～2024年3月）

## アルト ヨアヒム ALT Joachim 特任助教（2022～） 生年：1986

【学歴】ケンプテン応用科学大学経済学部経済学科〔ドイツ〕（2008年3月中退），アーカンソー中央大学〔米国〕（2007年8月～12月交換留学），龍谷大学留学生別科（2012年3月卒業），龍谷大学国際文化学部国際文化学科（2014年3月卒業），北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻修士課程（2016年修了），北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻博士課程（2020年単位修得退学）

【職歴】横浜国立大学教育学部非常勤講師（2019年4月～9月），神奈川県立保土ヶ谷高等学校非常勤講師（2020年4月～2021年9月），神奈川県立相模原弥栄高等学校非常勤講師（2020年4月～2022年9月），東京福祉大学教育学部非常勤講師（2021年4月～2022年9月），桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群非常勤講師（2021年9月～），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任助教（2022年10月～），早稲田大学理工

学部非常勤講師（2023年4月～）、筑波大学大学院人文社会系非常勤講師（2023年9月～）

【学位】博士（国際文化学）（論文博士、龍谷大学、2021年取得）【専門分野】地域研究（日本学）【主な研究テーマ】日本アニメにおける第二次世界大戦の表象およびその表象により構成される集合的記憶【所属学会】国際日本学会、日本アニメーション学会、日本マンガ学会、戦争社会学研究会、表象文化論学会、日本独文学会ドイツ語教育部会【研究目的・研究状況】アニメに代表される視聴メディアが集団アイデンティティーにどのような影響を与えるかを明確にすること。[https://researchmap.jp/joachim\\_alt](https://researchmap.jp/joachim_alt)

### ●主要業績

1. 【分担執筆】「No Hope in 1945? - Story Framing and Film Semiotics in Anime on Japan's War」Joff P. N. Bradley・Catherine Ju-Yu Cheng編『Thinking with Animation』Cambridge Scholars Publishing（2021年8月）pp.227-246
2. 【分担執筆】「戦争アニメと反戦メッセージとしてのトラウマ」森 茂起・川口茂雄 編『〈戦い〉と〈トラウマ〉のアニメ表象史 — 「アトム」から「まどか☆マギカ」以後へ』日本評論社（2023年7月）pp.84-87
3. 【論文】「広島原爆投下を語る戦争アニメにおける変化」『アニメーション研究』第20巻1号（2019年3月、査読有）pp.31-41
4. 【論文】「World War II in Anime - A Portfolio Based Analysis」『The IAJS Journal』第4号（2019年11月、査読有）pp.3-14
5. 【論文】「Schlüssel- und Wendejahr 1993 - Anime zu Japans Weltkrieg um und ab Heisei」『MINIKOMI:Austrian Journal of Japanese Studies』第88号（2020年12月、査読有）pp.42-57

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 5 学会・外部研究会発表
  - 「第二次世界大戦／アジア太平洋戦争をテーマにした日本アニメに描かれている「外地」と被害者／加害者のダイナミック」戦争社会学研究会 第14回研究発表大会、2023年4月22日
  - 「Reading "Victimhood" in Anime on WW2」Mechademia Asian Conference 2023: Aftermath、2023年5月29日
  - 「戦争を描くアニメと平和教育」同志社大学文化情報学部、2023年7月20日
  - 「プロとアマの表現としてスポーツ系アニメにおけるプレーの主体」日本アニメーション学会 第25回大会、2023年8月20日
  - 「Discussing the (Re-) Presentation of World War 2 in Anime」JSAA-ICNTJ 2023 Conference、2023年9月2日
  - 「1945 als Ende aller Hoffnung? - Wenn in Anime Kinder sterben」ドイツ東洋文化研究協会 公開講演、2023年9月20日
  - 「What does "Victimhood" mean in Anime on World War II?」北海道大学現代日本学プログラム、2023年10月18日
  - 「海外での日本アニメ・マンガのチャレンジ」星槎道都大学美術学部、2023年10月19日
  - 「日本アニメにおける戦争表象と登場キャラの役割」龍谷大学大学院交際文化研究科、2024年1月16日
  - 「戦争アニメを登場キャラクターから分析する」新潟大学大学院現代社会文化研究科、2024年1月18日
  - 「日本アニメが描く第二次世界大戦：生と死の多面的な表現」第41回人文機構シンポジウム『戦争をめぐる生と死』、2024年1月28日
- 7 その他
  - 「国民の「性格」を形成するメディア、そして記憶」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』第226号（2023年4月）、p.4
  - 「山本昭宏 著『残されたものたちの戦後日本表現史』」書評『週刊書評紙図書新聞』第3597号（2023年7月）p.5
  - 「乾淑子 著『着物になった〈戦争〉時代が求めた戦争柄』」書評『週刊読書人』第3528号（2024年2月）p.3
  - 「小池淳一 著『The Exquisite Products of the Namiki Seisakusho (now PILOT) - The History and Beauty of Maki-e Fountain Pens』」翻訳『REKIHAKU』第10号（2023年10月）、pp.106-110
  - 「これは〈被害者意識〉なのか？アニメから戦争記憶を考える」『REKIHAKU』第10号（2023年10月）、pp.88-90



## 二 主な研究教育活動

### 5 教育

桜美林大学非常勤講師（「日本文化：Family」「日本文化：Gender Representation」）

早稲田大学非常勤講師（「初級独語ⅠB」「初級独語ⅡB」）

筑波大学大学院系非常勤講師（「人文知コミュニケーション」）

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

日本アニメーション学会大会企画委員会委員（改名）

### 2 講演・カルチャーセンターなど

「日本とドイツを繋がるマンガとアニメドイツ人のアニメ研究者が語るエピソード」日独協会東京 第3回日独漫画コンクール展示「～いただきます～」開会・表彰式 基調講演, 2024年1月23日

「ドイツで観られる日本アニメ」神奈川県立横浜翠嵐高校, 2024年2月9日

「歴史ではなく、記憶：日本アニメが作る第二次世界大戦のイメージ」第450回目『歴博講演会』, 2024年2月10日

## 上野 祥史 UENO Yoshifumi 准教授（2009.10～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023～）

【学歴】京都大学文学部史学科考古学専攻（1996年卒業）、京都大学大学院文学研究科考古学専修修士課程（1999年修了）、京都大学大学院文学研究科考古学専修博士後期課程（2000年中退）

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（2000）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（京都大学）（1999年取得）【専門分野】東アジア考古学【主な研究テーマ】漢三国六朝期の古代東アジア世界の展開Archaeological Study of Ancient East Asia【所属学会】史学研究会、考古学研究会、日本中国考古学会【研究目的・研究状況】漢三国六朝期、つまり弥生時代から古墳時代にかけての時期を対象に、東アジア世界各地の相互交渉を研究の目的の一つとしている。鏡や装身具などの金工具を検討し、価値・観念・製作技術という視点から、中国大陸と日本列島の社会動態を描き出すことに取り組んでいる。

### ●主要業績

1. 【共編著】『秦帝国と封泥』六一書房、総178頁、2024年
2. 【編著】『金鈴塚古墳と古墳時代社会の終焉』六一書房、総274頁、2022年
3. 【編著】『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』国立歴史民俗博物館研究叢7、朝倉書店、総192頁、2020年
4. 【編著】『古代東アジアにおける倭世界の実態』国立歴史民俗博物館研究報告第211集、総512頁、2018年
5. 【編著】『祇園大塚山古墳と5世紀という時代』六一書房、総136頁、2013年

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

#### 2 論文

「鏡の分与と器物の伝世について」『器物の「伝世・長期保有」「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持』岩本崇編、島根大学法文学部、pp.37-54、2023年6月

「六朝装身具の復元的研究」『鹿島美術研究』、pp.423-434、2023年7月

「観峰館所蔵封泥が提起する秦封泥の検討視点」『秦帝国と封泥』上野祥史・下田誠編、六一書房、pp.17-38、2024年3月

「封泥から復元する「捺印」の所作 —外面形態情報と内部透過情報—」『秦帝国と封泥』上野祥史・下田誠編、

- 六一書房, pp.39-55, 2024年3月
- 「本間美術館蔵の古墳時代資料—奈良盆地の前期古墳資料を中心として—」『器物の「伝世・長期保有」「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持』岩本崇編, 島根大学法文学部, pp.219-246, 2023年6月(岩本崇, 谷澤亜里, 二村真司, 水野敏典, 林弘幸, 阿部誠司と共著)
- 「山口県白鳥古墳と阿多田古墳の副葬品」『器物の「伝世・長期保有」「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持』岩本崇編, 島根大学法文学部, pp.247-262, 2023年6月(岩本崇, 谷澤亜里と共著)
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 「古墳の彩り～「もの」と「空間」～」『歴博色尽くし』企画展示図録, pp.57-72, 2024年3月
- 「紺碧と朱」(3Dデータ映像, 2024年3月, 『歴博色尽くし』にて上映)
- 「金の龍と鳳凰」(3Dデータ映像, 2024年3月, 『歴博色尽くし』にて上映)
- 考古資料のホログラム映像(3Dデータ映像, 2024年3月, 『歴博色尽くし』にて上映)
- 5 学会・外部研究会発表
- 「死者への行為が形成する認識と社会変容: 研究視座と分担課題」歴博共同研究, 国立歴史民俗博物館, 2023年5月13日
- 「コメント(Session 5 Information accumulation in text and iconography)」『出ユーラシアにおける王権の創成: 超越的力出現のメカニズム』国際シンポジウム/第9回全体会議(新学術領域「出ユーラシアの統合人類史学」), 明治大学, 2023年7月1・2日
- 「ワークショップを介した封泥にかかわる所作の検討」歴博共同研究, 国立歴史民俗博物館, 2023年7月15日
- 「秦漢の皇帝陵とひとびとの意識」歴博共同研究, 国立歴史民俗博物館, 2023年11月6日
- 「造形から復元した行為・認識と社会変革の評価」科研新学術領域研究, オンライン, 2024年2月25日～3月31日
- 「捺印」の所作とその史的評価」歴博共同研究, 国立歴史民俗博物館, 2024年3月28日

## 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
- ① 歴博
- 基盤研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」副代表(2021～2023年度)
- 基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」研究代表(2023～2025年度)
- ③ 機構(基幹研究プロジェクト)
- 広領域連携型基幹研究プロジェクト「フィールドサイエンスの統合と地域文化の創発」共同研究員(2022年度～)
- 2 外部資金による研究
- 基盤研究(C)「高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究」研究分担者(2021～2023年度)
- 基盤研究(B)「三関周辺における古墳時代から古代の地域動態に関する総合的研究」研究分担者(2023～2026年度)
- 新学術領域研究(研究領域提案型)「心・身体・社会をつなぐアート/技術」研究分担者(2019～2023年度)
- 4 主な展示・資料活動
- 総合展示第1室「IV倭の登場」「V倭の前方後円墳と東アジア」展示プロジェクト委員
- 企画展示「歴博色尽くし」展示プロジェクト委員
- 5 教育
- 上智大学非常勤講師「東洋考古学」
- 女子美術大学非常勤講師「文化遺産学」「比較文化論」

## 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
- 日本中国考古学会副会長・木更津市史編集委員会
- 2 講演・カルチャーセンターなど
- 「弥生時代から古墳時代への移り変わりをどうみるか」朝日カルチャーセンター, 2023年7月31日
- 「造形美に人の動きと古代の心を探る」朝日カルチャーセンター, 2024年1月22日, 2月13日, 3月11日

#### 四 活動報告

##### 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

Webサイトリニューアル業務選定委員会委員／ホームページリニューアルプロジェクト

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

共同研究と関連して、『秦帝国と封泥』（六一書房）を刊行し、企画展示『歴博色尽くし』において、3Dデータを活用したデジタルコンテンツを制作し情報公開という形で、研究実践をおこなった。特に、ホログラム機器を導入し、3Dデータの新たな体感と認知の方法を実践した。

##### 4 その他

今年度は、3次元情報の作成及び分析を一つの核として研究活動を展開した。共同研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」では、昨年度より着手している高精度X—CT装置を利用した封泥の内部透過情報分析を進め、内部透過情報を含めた3次元情報をもとに人間の所作・関与への検討を進めた。その成果は、書籍『秦帝国と封泥』掲載の諸論考として公開した。

新学術領域研究（科研）や研究・調査プロジェクトを通じて、各種の考古資料の3次元情報作成に取組み、考古学研究における3次元情報の活用を実践した。積極的に3Dデータの作成に取組み、企画展示を通じて一般に向けて広く情報発信した。3Dデータについては、研究での活用は積極的に展開しているが、一般に向けた活用・普及は十分に果たされているとはいえ、映像制作やホログラム機器の導入により、その実践に取組んだ。

一方、新学術領域研究（科研）では、国際シンポジウム及びポスター発表において、造形と時間概念とを対照し、行為と認知の相互作用から文明を比較検討する視点を提示した。身体感覚を複合して造形の変化を評価することと、造形の変化を時間の認識、概念と対照してとらえることで、これまでの研究成果を統合して示した。物証と行為の相互浸潤関係で歴史を評価する取組みは、秦漢時代の文字利用を身体感覚とリテラシーという視点で評価した共同研究においても実践している。今年度は、『秦帝国と封泥』という書籍を刊行し、考古学、文献史学、美術史学（書芸）、理科学分析を統合した研究成果を公開した。

## 内田 順子 UCHIDA Junko 教授（2020.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～）

【学歴】東京芸術大学音楽学部楽理科（1990年卒業）、東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻（1993年修了、総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程（1997年修了）

【職歴】国際日本文化研究センター中核的研究機関研究員（1997）、日本学術振興会特別研究員（1997）、国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1999）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2009）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部教授（2020）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2020）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（学術）（総合研究大学院大学）（1997年取得）【専門分野】音楽学、民俗学【主な研究テーマ】音楽の伝承過程についての研究／資料批判に基づいた映像研究【所属学会】東洋音楽学会、日本音楽学会、沖縄文化協会、日本民俗学会【研究目的・研究状況】ある社会において神聖なものの位地に置かれている音楽の伝承過程や伝承方法を明らかにするため、宮古島をフィールドとして調査研究を継続している。また、歴史的な映像を資料批判的研究に基づいて再解釈することをとおして、映像の歴史資料としての可能性と限界を考察する研究を実施している。

### ●主要業績

#### 1. 【著書】

内田順子（編）・国立歴史民俗博物館（監修）『映し出されたアイヌ文化—英国人医師マンローの伝えた映像』160頁、吉川弘文館、2020年

『宮古島狩侯の神歌—その継承と創成—』思文閣出版、2000年 2. 【論文】

「与えられたことば—宮古島狩侯における神歌の継承—」、斎藤英喜編『呪術の知とテクネー—世界と主体の変

- 容一], 森話社, pp.107-136,2003年
3. 【調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など】  
『国立歴史民俗博物館研究報告』第168集 (「マンローコレクション研究—写真・映画・文書を中心に—」), 299頁, 2011年
  4. 【展示図録・資料図録・映像・DB】  
民俗研究映像「AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてくるもの」(ビデオ, 102分, 監督: 内田順子・鈴木由紀, 制作: 内田順子・岡田一男), 2007年
  5. 【その他】  
「平成17年度 国立歴史民俗博物館 民俗研究映像『AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてくるもの—』: 映画フィルムの資料批判的研究に関連する研究ノート」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』150, 国立歴史民俗博物館, pp.179-192,2009年

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 7 その他

- 映像: N.G.マンロー「The KAMUI IOMANDE or DIVINE DISPATCH commonly called The AINU BEAR FESTIVAL」の日本語ナレーションによる再構成版, 2023年11月25日
- 映像: 福地唯方フィルム 宮古No.03「ジューロクニツヨイ」音声追加編集版, 2024年1月20日
- 映像: 福地唯方フィルム 宮古No.08「トゥディアギ」音声追加編集版, 2024年1月20日
- 映像: 国立歴史民俗博物館 第1展示室 特集展示「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」展示解説映像, 2024年3月5日

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

##### ① 歴博

「歴博研究映像の総合的活用の方法論の構築—沖縄地域の映像を中心に」(2022年度~2024年度) 研究副代表  
「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究—制作とアーカイブスの実践的方法論の検討」(2021年度~2023年度) 共同研究員

##### ② 他の機関

国立民族学博物館共同研究「民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化」(2021年10月~2024年3月) 共同研究員

国立アイヌ民族博物館調査研究プロジェクト「近現代アイヌ民族史(誌)と博物館展示をめぐる実証的研究」(2023年度) 共同研究員

##### ③ 機構

機構基幹研究プロジェクト(広領域連携型基幹研究プロジェクト: 横断的・融合的地域文化研究の領域展開: 新たな社会の創発を目指して)「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」(2022~2027年度) 共同研究員

#### 2 外部資金による研究

科研挑戦的研究(萌芽)「沖縄/日本/アメリカ, 女/男の分断を超えた視点の構築—作曲家・金井喜久子を中心に」(2021~2023年度) 研究代表者

#### 4 主な展示・資料活動

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員, 総合展示第5室「近代」展示プロジェクト委員

#### 5 教育

國學院大学非常勤講師「映像文化論」

### 三 社会活動等

#### 2 講演・カルチャーセンターなど

「ニール・ゴードン・マンローの二風谷での生活—手紙資料からわかることを中心に—」平取町立二風谷アイヌ文化博物館 特別展「二風谷に生きたマンロー先生」関連講座, 平取町立二風谷アイヌ文化博物館, 2023年

10月15日

「デジタル復元の成果を地域研究に活かす」, 歴博映像フォーラム17「地域文化の再構築における映像の活用」, 国立歴史民俗博物館, 2024年1月20日

「狩俣の音が聞こえる—狩俣の音風景—」, ウブグフムトゥフアーマー会主催, 狩俣集落センター, 2024年2月24日

## 大井 将生 OI Masao 特任准教授 (2023～)

【学歴】 東京大学大学院学際情報学府修士課程卒業【職歴】 公立高等学校教諭 (2009), 東京大学大学院情報学環特任研究員 (2022.8), 人間文化研究機構人間文化研究創発センター特任准教授 (2023.7)【学位】 修士 (学際情報学)【専門分野】 情報学, 教育学【主な研究テーマ】 デジタルアーカイブの教育活用【所属学会】 デジタルアーカイブ学会, 情報処理学会, 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会, 日本社会科教育学会【メールアドレス】 masao-oi@rekihaku.ac.jp

### ●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの) (5点)

1. 【著書】 (共編・分担執筆) 井上透, 大井将生, 細川季穂 責任編集, 特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構 編『デジタルアーカイブの理論と実践—デジタルアーキビスト入門—』樹村房. ISBN: 978-4-88367-379-7 (担当:共編著者,分担執筆 / 範囲: 責任編集, 2章-1, 2章-2, 6章-8) 2023年4月
2. 【論文】「「問い」の創発と多面的な学びを支援するデジタルアーカイブ展示と実空間の架橋」大井将生, 宮田論志, 中森康人, 榎本剛治. デジタルアーカイブ学会誌, 2024, Vol.8, No.1, p.15-20. 2024. 2
3. 【論文】「S×UKILAM教材アーカイブのLOD化: RDFとSPARQLによるデジタルアーカイブを活用した教材と多様な教育情報の接続・構造化」大井将生, 中村覚, 大向一輝, 渡邊英徳. 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) 2023論文集, 情報処理学会, 2023, Vol.2023, No.1, p.73-80. 2023. 12
4. 【論文】「S × UKILAM」 collaboration to connect local digital resources and school education: Workshop and Archiving to construct network of "people" and "data" Masao Oi (筆頭), Boyoung Kim, Hidenori Watanabe. From Born-Physical to Born-Virtual: Augmenting Intelligence in Digital Libraries. ICADL 2022. Lecture Notes in Computer Science, vol. 13636, p.125-134, Springer, Cham. 2022. 12
5. 【論文】「デジタルアーカイブを活用したキュレーション学習モデル: 探究学習における「問い」と「資料」の接続」大井将生, 宮田論志, 大野健人, 大向一輝, 渡邊英徳. デジタルアーカイブ学会誌, 2023, Vol. 7, No. 1, p.e 1-e9. 2022. 11

### ●2023年度の研究教育活動 (成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

#### 一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 1 著書 (単著・共著・編著・監修)
  - ・井上透, 大井将生, 細川季穂 責任編集, 特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構 編:『デジタルアーカイブの理論と実践—デジタルアーキビスト入門—』; 樹村房. ISBN: 978-4-88367-379-7 (担当: 共編著者, 分担執筆 / 範囲: 責任編集, 2章-1, 2章-2, 6章-8) 2023年4月.
- 2 論文 (査読あり, なしを明記)
  - ・(招待有) 大井将生, 宮田論志, 中森康人, 榎本剛治: 「「問い」の創発と多面的な学びを支援するデジタルアーカイブ展示と実空間の架橋」, 特集: デジタルアーカイブと実展示, デジタルアーカイブ学会誌, 2024, Vol.8, No.1, p.15-20. 2024年2月.
  - ・(査読有) 大井将生, 中村覚, 大向一輝, 渡邊英徳: 「S×UKILAM教材アーカイブのLOD化: RDFとSPARQLによるデジタルアーカイブを活用した教材と多様な教育情報の接続・構造化」, 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) 2023論文集, 人文科学のためのデータインフラストラクチャ構築に向けて, 情報処理学会, 2023, Vol.2023, No.1, p.73-80. 2023年12月.
  - ・榎本聡, 大井将生, 高久雅生, 阿見雄之, 有山裕美子, 江草由佳: 「学習指導要領コードを介した教科書間連携システムの試案」, 第49回 全日本教育工学研究協議会 (JAET) 全国大会論文集, 2023, 3-G-4. 2023年10月.

- ・ 大井将生 : 「Europeanaとの連携を進展するためのdigital cultural heritageの共創的な教育活用 : 国際版S×UKILAM (スキラム) 連携ワークショップの実践から」, デジタルアーカイブ学会誌, 2023, Vol. 7, No. S2, p. s154-s157. 2023年10月.
  - ・ 大井将生 : 「多様な資料の教材化ワークショップで繋がり広がるデジタル教材開発ネットワーク」: 2023, 全歴研研究紀要 第60集, p.122-125.
  - ・ (査読有) 大井将生, 渡邊英徳: デジタルアーカイブ資料の活用を促進する二次利用条件のあり方; デジタルアーカイブ学会誌 (実践論文-フルペーパー), 2023, Vol.7, No.3, p. e24-e32. 2023年7月.
- 5 学会・外部研究会発表
- ・ Masao Oi, Ping Kong, Jonas Etten: "Introduction of each institute and the latest trends in educational use of digital cultural heritage in Japan and Germany"; The 2nd International S×UKILAM Conference on collaboration to link Europe and Japanese digital cultural heritage from the perspective of educational utilization, Session 1, Organized by Heritage & Education gGmbH, S×UKILAM Collaboration and NIHDH Core Member, Venue at the Heritage & Education gGmbH's offices (Berlin, Germany and Hybrid), March 20, 2024.
  - ・ 大井将生, 勝亦あき子, 田村由希, 尾上珠希, 桑崎里咲: 「歴史教育と研究で生成AIをどのように使うか? -中等教育における防災学習と古典教育の実践から」; 歴史フェス, 第二部セッション7, 名古屋大学 東山キャンパス 文学部本館・文系共同館, 2024年3月17日.
  - ・ 大井将生 : 「DAの教育活用研究における「主体」が象徴的な場面のキャプチャと事例の概念化-DAの概念エンジニアリングのための予備的作業へのレスポンス」; デジタルアーカイブ学会理論研究会, 一橋大学千代田キャンパス, 2024年3月8日.
  - ・ (招待有) 大井将生 : 「博物館のデジタルアーカイブと学校教育」; 令和5年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修, 文化庁 主催, 湯島地方合同庁舎, 2024年3月8日.
  - ・ 大井将生 : 「Linked pasts and school education」; Linked Pasts Japan Kick-off, Session 1-1 Public and Linked Data, ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター主催, 国立情報学研究所 国際高等セミナーハウス, 2024年3月7日.
  - ・ (招待有) 大井将生 : 「デジタルアーカイブの学校教育での活用について」; 博物館DXに関する研修「デジタルミュージアムの今後の活用を見据えて~教育活用, 博物館機能と収益機会」, ミュージアム活性化実行委員会 (地方独立行政法人大阪市博物館機構・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・一般財団法人大阪市文化財協会) 主催, 文化庁 令和5年度 Innovate MUSEUM事業 (博物館 DX推進事業), オンライン開催, 2024年2月15日.
  - ・ (査読有) Masao Oi: "Connecting and structuring learning materials and diverse information using digital cultural heritage by RDF and SPARQL for connecting arts, humanities and education"; Winter Institute in Digital Humanities (WIDH) 2024, Research Poster Session, NYU Abu Dhabi (UAE), January 17, 2024.
  - ・ 大井将生, 中村覚: 「S×UKILAM (スキラム) 教育メタデータLOD」; LODチャレンジ2023授賞式シンポジウム, LODチャレンジJapan実行委員会主催, 国立情報学研究所, 2023年12月16日.
  - ・ 大井将生 : 「開いて 繋いで 使う, 歴史データ利用の「その先」」; 歴博共同研究「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」2023年度第2回人文情報ユニット研究会 -DHのデータ構築の先にあるもの, 研究の促進と広がり-, 歴博共同研究「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」研究会主催, TIME SHARING 新御茶ノ水, 2023年12月15日.
  - ・ (査読有) 大井将生, 中村覚, 大向一輝, 渡邊英徳: 「S×UKILAM教材アーカイブのLOD化: RDFとSPARQLによるデジタルアーカイブを活用した教材と多様な教育情報の接続・構造化」, 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) 2023, 人文学のためのデータインフラストラクチャ構築に向けて, 情報処理学会 (IPSJ) 人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH) 主催, オンライン開催, 2023年12月9日.
  - ・ (招待有) 大井将生 : 「GIGA スクール時代の学校に図書館コンテンツをつなげる, 活かす」(基調講演); 第71回 大阪公共図書館大会, GIGA スクール時代の子どもの読書活動支援, 大阪公共図書館協会 主催, 大阪市立中央図書館, 2023年11月22日.
  - ・ 大井将生 : 「Europeanaとの連携を進展するためのdigital cultural heritageの共創的な教育活用 : 国際版S×UKILAM (スキラム) 連携ワークショップの実践から」; デジタルアーカイブ学会 第8回研究大会, 石川県立図書館, 2023年11月10日.
  - ・ 榎本聡, 大井将生, 高久雅生, 阿児雄之, 有山裕美子, 江草由佳: 「学習指導要領コードを介した教科書間連携シ

- システムの試案」, 第49回 全日本教育工学研究協議会 (JAET) 全国大会 (青森大会), 三沢市公会堂, 2023年10月28日.
- ・ 関野樹, 宮川創, 鈴木親彦, 中俣尚己, 北本朝展, 石田友梨, 宮川創, 海野圭介, 中川奈津子, 金甫榮, 大井将生: 「DH データ基盤としてのデータセット ~ 利用と提供から考える」; 第 3 回人間文化研究機構DH研究会, JADH2023ワークショップ, 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 人間文化研究創発センターDH推進室・JADH2023実行委員会 主催, オンライン開催, 2023年9月20日.
  - ・ (招待有) 大井将生: 「豊かで創造的な文化活動の日常的な教育実践を実現するためのデジタルアーカイブの活用法; これからの学びを支える学校図書館とDA」; 令和5年度 石狩管内教育研究会 課題部会研究協議会 文化活動部会, 北海道教育委員会 石狩管内教育研究会 主催, 北海道北広島市立北の台小学校, 2023年9月5日.
  - ・ (招待有) 大井将生: 「教科指導が広がり深まる, 児童生徒の「問い」を誘発するデジタルアーカイブの教育活用法」; 令和5年度 東京都歴史教育研究会 教科指導法研修会 第1部, 東京都歴史教育研究会 主催, 東京都立大泉高等学校附属中学校, 2023年8月1日.
  - ・ (招待有) 大井将生: 「みんなで社会の授業をつくる 学校外の機関と連携したオンラインでの教材開発 -S×UKILAM (スキラム連携) 多様な資料の教材化ワークショップ-」; 全国歴史教育研協議会 第64回研究大会 (東京大会) 第5分科会, 全国歴史教育研究協議会・東京都歴史教育研究会 主催, なかのZEROホール, 2023年7月27日.
- 7 その他 (『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』 など)
- (アーカイブ・データセット・コンテンツ制作)
- ・ 大井将生, 中村覚: 「S×UKILAM LOD Easy アプリ: らくらく検索で繋がるわくわく」の開発, 公開, 2023年10月11日.
  - ・ 大井将生, 中村覚: 「S×UKILAM (スキラム) 教育メタデータLOD: RDFデータセット / SPARQLエンドポイント (Snorql) 2.0」の開発, 公開, 2023年6月.
- (ワークショップ/ シンポジウム開催・運営)
- ・ Masao Oji, Ping Kong, Jonas Etten, Gargi Guchhait, Miho Aoki: “Collaborative workshop by utilizing JAPAN SEARCH and European: Creation of learning scenarios and exchange on the educational landscape in Europe and Japan”; The 2nd International S×UKILAM Conference on collaboration to link Europe and Japanese digital cultural heritage from the perspective of educational utilization, Session 2, Organized by Heritage & Education gGmbH, S×UKILAM Collaboration and NIHU DH Core Member, Venue at the Heritage & Education gGmbH's offices (Berlin, Germany and Hybrid) , March 20, 2024.
  - ・ 大井将生, 大知聖子, 菊池信彦: 「歴史教育と研究で生成AIをどのように使うか?」; 歴史フェス, 第二部セッション7, 名古屋大学 東山キャンパス文学部本館・文系共同館, 2024年3月17日.
  - ・ 大井将生: 「デジタル資料を活用した防災教材・学習コンクール-未来へつなげる-」の企画・運営/同 授賞式シンポジウムの開催, 東京大学情報学環渡邊研究室, S×UKILAM連携主催, オンライン開催, コンクール募集期間 2023年9月~2024年1月/授賞式シンポジウム 2024年3月1日.
  - ・ 永井正勝, 後藤真, 北岡タマ子, 大井将生, 鈴木康平, 亀田堯宙, 堀浩一: 「DH若手の会 デジタル・ヒューマニティーズで“繋がる×広がる”人文学」, 人間文化研究機構DH推進室主催, 一橋大学一橋講堂, 2024年2月9日.
  - ・ 大井将生: 「S×UKILAM (スキラム連携): 第7回 多様な資料の教材化ワークショップ」; TRC-ADEAC主催, オンライン開催, 2023年12月27日.
  - ・ 大井将生, 宮田諭志: 「学校の全職員で取り組むJAPAN SEARCHと地域のデジタルアーカイブを活用した教材化ワークショップ (ICT活用研修会)」; S×UKILAM連携・泉大津市教育委員会主催, 泉大津市立楠木小学校, 2023年11月24日.
  - ・ 大井将生, 加納靖之, 大邑潤三, 奥村牧人, 宮田諭志, 堀井美里: 「S×UKILAM (スキラム) 連携: 石川県と災害に関するデジタル資料を活用した教材化ワークショップ」; デジタルアーカイブ学会 第8回研究大会 サテライト企画セッション, オンライン開催, 2023年11月5日.
  - ・ 大井将生, 宮田諭志, 大野健人, 江藤徹: 「ジャパンサーチのキュレーション機能を活用して災害・防災について探究するワークショップ」; 成城学園初等学校, 東京都立大泉高等学校・附属中学校, 2023年9月-10月.
  - ・ 大井将生, 宮田諭志, 高橋菜奈子: 「デジタルアーカイブを活用して授業で子どもたちの「問い」を引き出す「教材化」ワークショップ」; 東京学芸大学 Explayground Dolphin主催, 東京学芸大学附属図書館・S×UKILAM (スキラム) 連携 共催・協力, 東京学芸大学 附属図書館ラーニングcommons, 2023年8月24日.
  - ・ 大井将生: 「泉大津のデジタルアーカイブ資料を活用した「教材化」ワークショップ」, 泉大津市教育委員会・

TRC-ADEAC主催, 泉大津市立図書館シーブラ, 2023年8月9日.

- ・大井将生:「教科指導を広げて深める, 児童生徒の「問い」を誘発するジャパンサーチを活用した教材化ワークショップ ―災害資料を題材に―」; 令和5年度 東京都歴史教育研究会 教科指導法研修会 第2部, 東京都歴史教育研究会 主催, 東京都立大泉高等学校附属中学校, 2023年8月1日.
- ・大井将生:「S×UKILAM (スキラム連携): 第6回 多様な資料の教材化ワークショップ」; TRC-ADEAC主催, オンライン開催, 2023年7月29日.
- ・大井将生:「RIAS II 防災講座: ジャパンサーチを用いた資料収集と構造化機能についてのワークショップ」講師. 大分県立佐伯鶴城高等学校. 2023年7月24日.
- ・大井将生, 国立国会図書館:「デジタル資料を活用した防災教材・学習コンクール ―未来へ繋げる― 説明会&ハンズオンワークショップ」の企画・運営. S×UKILAM連携・国立国会図書館主催, オンライン開催, 2023年7月15日・21日.
- ・大井将生:2023年度 第2回BAIRAL研究会「情報バイアスを擦り抜ける情報デザイン:大衆情報とマイノリティオピニオンの可視化」の企画・運営. 東京大学Beyond AI研究推進機構B'AI Global Forum 主催, オンライン開催, 2023年6月22日.

(学術貢献)

- ・デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会 (作成協力). 「デジタルアーカイブ活動」のためのガイドライン」, 2023年9月.
- ・デジタルアーカイブ学会 (作成協力) 「デジタルアーカイブ憲章」, 2023年6月.

(MISC)

- ・JAPAN SEARCH「【ジャパンサーチを授業で活用】デジタルアーカイブの教材化ワークショップ」(作成協力), JAPAN SEARCH公式YouTubeチャンネル, 2024年3月.
- ・大井将生:「デジタルアーカイブでワクワクを引き出す, 新しい美術・図画工作教育の可能性」, 教育美術 (ART in EDUCATION), 84巻, 12号 (第978号), 特集: アートを鑑賞する, 教育美術振興会発行, p.35. 2023年12月.

## 二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

### 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究)

- ・大井将生 (研究代表者): 日本学術振興会 科学研究費助成事業 (科研費) 2023年度 基盤研究 (C) (一般, 図書館情報学および人文社会情報学関連): 「学校教育と多様なデジタル文化資源を繋ぐネットワークとLODモデルの設計」, 課題番号24K15673. 令和6年度~令和8年度.
- ・阿見雄之, 高久雅生, 江草由佳, 榎本聡, 有山裕美子, 大井将生 (研究分担者): 日本学術振興会 科学研究費助成事業 (科研費) 2023年度 基盤研究 (B) (一般, 図書館情報学および人文社会情報学関連): 「学校教育とデジタル・アーカイブを結ぶ学習内容情報LODを用いた架橋モデルの設計」, 課題番号 23H03695. 令和5年度~令和8年度.

### 5 教育 (総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

- ・文化庁. 「ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」講師
- ・東京学芸大学. 「現職教員研修 研修講座 (先端教育推進課 現職教員研修係)」講師
- ・東京学芸大学. 「学校図書館メディアの構成」ゲスト講師
- ・立教大学. 「人文情報・メディア学入門」ゲスト講師
- ・日本デジタル・アーキビスト資格認定機構. デジタル・アーキビスト資格取得講座. 講師

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員 (学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)

- ・内閣府 知的財産戦略推進事務局 デジタルアーカイブ推進に関する検討会構成員.

### 3 マスコミ (テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)

- ・毎日新聞 全国版 朝刊「デジタルアーカイブ活用し教材作り「スキラム連携」で探究学習」, 2024年1月22日 (新聞)
- ・毎日新聞web版「古文書, 昔の写真をデジタル教材に 探究学習に導く「スキラム」とは」, 2024年1月22日 (Web新聞)



#### 四 活動報告

##### 1 受賞歴

- ・Linked Open Data チャレンジ Japan 2023, 優秀賞（データ作成部門）大井将生, 中村覚. 「S×UKILAM（スキラム）教育メタデータLOD」2023年11月27日.
- ・デジタルアーカイブ学会 第5回 学会賞-学術賞（研究論文）大井将生, 宮田諭志, 大野健人, 大向一輝, 渡邊英徳. 「デジタルアーカイブを活用したキュレーション学習モデル: 探究学習における「問い」と「資料」の接続」（デジタルアーカイブ学会誌7巻1号p.e1-e9）, 2023年11月11日.
- ・デジタルアーカイブ学会 第7回研究大会（琉球大学, 2022年11月25日）「ベスト発表」選出. 大井将生. 「S×UKILAM（スキラム）連携: 多様な資料を学校教育で活用するための「人」と「データ」のネットワーク構築」2023年5月（デジタルアーカイブ学会誌, 2023, Vol.7, No.2掲載）.

### 大久保 純一 OKUBO Junichi 教授（2008.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～），生年：1959

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1982年卒業），東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1984年修了）

【職歴】名古屋大学文学部助手（1985），東京国立博物館研究員（1987），跡見学園女子大学文学部助教授（1995），国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授（2000），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2001），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008），博物館資源センター長併任（2009～2010, 2016～2018），副館長併任（2012～2013, 2020～2021），町田市立国際版画美術館館長（非常勤，2019～），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（文学）（東京大学）（2006年取得）【専門分野】日本近世絵画史【主な研究テーマ】浮世絵，江戸後期の風景表現【所属学会】美術史学会，国際浮世絵学会【研究目的・研究状況】浮世絵を江戸時代絵画史，出版文化史および江戸の都市史の中に位置づけて考察すること。

#### ●主要業績

1. 【著書】大久保純一『広重と浮世絵風景画』317頁，東京大学出版会，2007年4月
2. 【著書】大久保純一『浮世絵出版論 大量生産・消費される〈美術〉』226頁，吉川弘文館，2013年4月
3. 【概説書】大久保純一『千変万化に描く 北斎の富嶽三十六景』127頁，小学館，2005年9月
4. 【概説書】大久保純一『カラー版 浮世絵』（岩波新書），196頁，岩波書店，2008年11月
5. 【概説書】大久保純一『カラー版 北斎』（岩波新書），194頁，岩波書店，2012年5月

#### ●2023年度の研究教育活動

##### 一 研究業績

###### 1 著書

『葛飾北斎 浮世絵風景画の大成者』（日本史リブレット）山川出版社，106頁，2023年10月30日

###### 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

「開化絵」，同資料解説，特集展示図録『歴博色尽くし』国立歴史民俗博物館，pp.34-39,80-81,2024年3月12日

##### 二 主な研究教育活動

###### 1 主な共同研究等参加状況

###### ③ 機構

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—」，2016年度～

###### 3 国際交流事業

イギリス・ウエルズ国立博物館における，日本の歴史展示構築のための調査研究（代表）4 主な展示・資

料活動

特集展示「江戸の妖怪絵巻」展示代表, 2023年8月1日～9月3日, 国立歴史民俗博物館

三 社会活動等

1 館外における各種委員

佐倉市美術館運営委員, 太田記念美術館浮世絵研究助成選考委員, 国際浮世絵学会理事長, 平木浮世絵財団評議員, 日本版画協会理事, 墨田区文化振興財団理事, 『國華』編集委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「絵画史から見た江戸の妖怪絵巻」第445回歴史博講演会, 2023年8月12日, 国立歴史民俗博物館

「広重作品の魅力」町田市文化協会研修事業, 2024年3月10日, 町田市立国際版画美術館

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

首都圏をはじめ国内の博物館や美術館で開催される展覧会を中心に作品調査をおこなった。また文献や公開データベースを通して, 近世絵画作品についての知見を深めた。

**小倉 慈司 OGURA Shigeji 教授 (2021.11～), 研究推進センター長 (2021～)**

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～)

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程 (1990年卒業), 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程 (1992年修了), 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻博士課程 (1995年単位修得退学)

【職歴】放送大学非常勤講師 (1995), 日本学術振興会特別研究員 (PD) (1996), 宮内庁書陵部編修課研究員 (1996), 同主任研究官 (2003), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2010), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2021.11), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2021.11), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】博士 (文学) (東京大学) (1999年取得) 【専門分野】日本古代史, 史料学 【主な研究テーマ】古代神祇制度の研究, 禁裏・公家文庫の研究, 延喜式の研究, 渡辺村史研究 【所属学会】木簡学会, 日本歴史学会, 日本史研究会, 大阪歴史学会, 出雲古代史研究会, 正倉院文書研究会, 古代学協会, 東方学会, 史学会, 日本古文書学会

●主要業績

1. 【著書】『古代律令国家と神祇行政』340頁, 同成社, 2021年6月
2. 【論文】「皮革生産賤視観の発生」(『日本史研究』第691号, pp.1-21, 査読有, 2020年3月)
3. 【概説書】小倉慈司『事典 日本の年号』432頁, 吉川弘文館, 2019年6月
4. 【展示図録】小倉慈司編著『文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—』国立歴史民俗博物館平成26年度企画展示図録, 247頁, 2014年10月
5. 【科研】基盤研究 (B) 「格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築」20H01318, 2020年4月～2023年3月

●2023年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

共編『『小右記』と王朝時代』, 236頁, 吉川弘文館, 2023年6月1日

共編『〈出雲国造〉北嶋家文書』, 379頁, 八木書店, 2023年7月25日

編『国立歴史民俗博物館研究報告』244, 716頁, 2024年3月29日

2 論文

「平城京大寺院における僧侶の生活—西大寺食堂院と僧房をめぐる—」三舟隆之・馬場基編『古代寺院の食を再現する—西大寺では何を食べていたのか—』吉川弘文館, pp.13-26, 2023年4月10日, 査読なし

「写本の再調査による大日本古記録本『小右記』の補訂」加藤友康・倉本一宏・小倉慈司編『『小右記』と王朝時代』, pp.25-46, 2023年6月1日, 査読なし

- 「『延喜式』巻九・一〇の校訂」『国立歴史民俗博物館研究報告』244, pp.43-136, 2024年3月29日, 査読あり
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発  
延喜式関係論文目録DB増補  
デジタル延喜式DB更新
- 5 学会・外部研究会発表  
「古代律令祭祀制度の成立と展開」, 神道宗教学会令和5年度学術シンポジウム「社会の復元力と神・まつり～古代・中世移行期と祭礼の発生・展開を軸に～」, 國學院大学渋谷キャンパス+オンライン, 2023年12月2日  
「井上哲次郎宛書簡の世界」, 共同学術会議「井上哲次郎と国民国家の始発と終焉」, ソウル大学日本研究所+オンライン, 2023年12月18日
- 7 その他  
「磯前順一著『石母田正 暗黒の中で眼をみひらき』」『週刊読書人』3511, p.3, 2023年10月20日  
「撰閔時代の神祇信仰はどのようなものだったのか」戸川点編『平安時代はどんな時代か—撰閔政治の実像』, pp.65-75, 171-174, 小径社, 2023年12月1日  
「神社と神戸」瀧音能之編『新視点 出雲古代史 文献史学と考古学』, pp.126-141, 平凡社, 2024年1月17日  
「川畑勝久著『古代祭祀の伝承と基盤』」『古代文化』75-4, pp.109-111, 古代学協会, 2024年3月30日  
「正倉院文書〔複製〕解説」山川出版社, pp.2-15, 山川出版社, 2024年3月20日

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

#### ① 歴博

「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」分担者（2022～2027年度）

「死者への行為が形成する認識と社会変容」分担者（2023～2025年度）

#### ② 他の機関

国際日本文化研究センター共同研究「日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究——国民国家の始発と終焉」共同研究員（2022～2024年度）

東京大学史料編纂所一般共同研究「蒐集デジタル画像を活用した「魚魯愚鈔」の情報資源化と除目研究の基盤形成」共同研究員 2023年4月～2024年3月

#### ③ 機構

広領域型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」ユニット「延喜式のデジタル技術による汎用化」代表（2022～2027年度）

### 2 外部資金による研究

科学研究費挑戦的研究（萌芽）「忘れられた古代塗料「金漆」の復元研究」研究代表者, 2022～2024年度

科学研究費基盤研究（A）「古文書科学」の応用実践」研究分担者, 2023～2027年度

科学研究費基盤研究（A）「東アジア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病」研究分担者, 2020～2024年度

科学研究費基盤研究（B）「近代日本における国民国家論の始発と終焉—井上哲次郎関係書簡の分析を通じて」研究分担者, 2022～2024年度

### 4 主な展示・資料活動

2024年度企画展示「歴史の未来—過去を伝えるひと・もの・データ」展示プロジェクト委員

### 5 教育

法政大学大学院史学専攻非常勤講師（日本史学研究Ⅰ）

「『延喜式』とはなにか／『延喜式』の写本・版本」総研大文化科学研究科共通科目「総合書物論」, 国文学研究資料館

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

日本歴史学会評議員, 正倉院文書研究会委員, 日本古文書学会評議員, 東方学会第7期学術委員

## 四 活動報告

### 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの研究推進センター長

運営会議委員

メタ資料学研究センター員

総合展示第2室リニューアル委員

### 3 研究・調査プロジェクト報告

資料整理のための封筒、プロジェクト関係図書を購入し、研究に役立てた。

## 小野塚 航一 ONOZUKA Koichi 特任准教授 (2022.10～)

【学歴】金沢大学文学部史学科 (2008年卒業), 金沢大学大学院人間社会環境研究博士前期課程 (2010年修了), 神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程 (2019年修了)

【職歴】神戸大学大学院人文学研究科学術研究員 (2020.8-2021.3), 神戸大学大学院人文学研究科助手 (2021.4-2022.9), 人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員 (2022.10～), 併任国立歴史民俗博物館特任准教授 (2022.10～), 宗教法人勝尾寺非常勤職員 (2022.12～)

【学位】博士 (文学) (神戸大学) 【専門分野】日本中世史, 資料保存 【主な研究テーマ】日本中世の地方寺院経済史, 「勝尾寺文書」の形成と伝来, 地域歴史資料の保全と活用 【所属学会】大阪歴史科学協議会, 大阪歴史学会, 京都民科歴史部会, 高大連携歴史教育研究会, 神戸大学史学研究会, 日本史研究会, 北陸史学会, 歴史科学協議会

### ●主要業績

1. 【論文】「中世後期における地方寺院の寺領と経済構造—摂津国勝尾寺を事例に—」, 『ヒストリア』第295号, pp. 80-103, 2022年12月
2. 【論文】「地域歴史資料保全をめぐる課題—2019年台風19号による被災資料レスキューを通じて—」, 『歴史科学』248号, pp. 29-36, 2022年1月
3. 【論文】「歴史資料ネットワーク発足二五年—続発する大規模水害の中での保全活動の展開—」, 『日本史研究』第699号, pp. 48-58, 2020年11月 (共著)
4. 【論文】「勝尾寺文書」所収寺領目録の基礎的研究」, 『ヒストリア』第280号, pp. 25-50, 2020年6月
5. 【論文】「勝尾寺文書」と「類聚目録」—未翻刻文書の位置をめぐって—」, 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報『LINK【地域・大学・文化】』Vol.10, pp. 87-102, 2018年12月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

##### 5 学会・外部研究会発表

「災害時における歴史資料保全活動の意義と課題」, 東京レジナイト, 国立研究開発法人防災科学技術研究所 東京会議室, 2023年12月20日

“A Practical Study on the Succession Crisis of Local Historical Documents and Materials in Japan: The Role and Development of "Shiryo-net", ICON ARCADE 2023 The 3rd International Conference of Art, Craft, Culture and Design, バンドン工科大学 (インドネシア), 2023年10月12日

「歴史文化と災害対策～歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業の紹介～」, ぼうさいこくたい2023 (第8回防災推進国民大会), 横浜国立大学2023年9月17-18日

「栃木地域の歴史文化資料情報の活用に向けた課題」, 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点研究会「栃木地域の歴史文化資料情報と多分野連携の可能性」, 宇都宮大学, 2023年6月3日

##### 7 その他

「ネットオークションと古文書」歴史科学協議会編『深化する歴史学：史資料からよみとく新たな歴史像』大月書店, pp.172-173, 2024年1月24日

「歴史資料ネットワークによる能登半島地震対応について」『史料ネットNews Letter』98, p.3, 2024年3月22日

「小林秀雄の歴史論の可能性」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』229, p.3, 2023年10月5日

「高橋昌明『都鄙大乱』を問う」『新しい歴史学のために』302, pp.1-2, 2023年10月1日

「中世地方寺院の経済活動を探る」『REKIHAKU』9, pp.88-90, 2023年6月26日

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

#### ① 歴博

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」（研究代表：後藤真）

#### ③ 機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（事業代表：三上喜孝）

### 5 教育

兵庫県立御影高等学校

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

一般財団法人歴史科学協議会全国委員，歴史資料ネットワーク事務局長，歴史資料ネットワーク運営委員，高大連携歴史教育研究会事務局員，京都民科歴史部会委員

### 2 講演

「『勝尾寺縁起』を読む⑧—證如上人の聖蹟（1）—」，勝尾寺史研究会，勝尾寺，2023年12月15日

「帳簿史料からみる泉大津の荘園—法隆寺領珍南荘の世界—」，地域の歴史・文化再発見講座，泉大津市立図書館，2023年11月9日

「みんなで考える地域資料保存」，福井県文書館主催資料保存研修会「地域資料の散逸を防ぐ」，福井県文書館，2023年10月6日

## 賀 申杰 GA Shiketsu プロジェクト研究員（2020.4～） 生年：1989

【学歴】中国人民大学歴史学部卒（2011），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学修士課程修了（2015），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学博士課程修了（2020）

【職歴】国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2020）

【学位】文学博士（東京大学，2020年取得）

【専門分野】日本近代史

【主な研究テーマ】日本近代の造船業

【所属学会】史学会，軍事史学会，東アジア史学会

【研究目的・研究状況】メールアドレス：heshenjie@rekihaku.ac.jp

### ●主要業績

【論文】「明治後期の川崎造船所における外国発注艦建造問題に関する一考察」，『史学雑誌』126編7号，2017年7月

【論文】「日清戦争以前の外国船修理問題：東京石川島造船所を中心に」，『東京大学日本史学研究室紀要』24巻，2020年3月

【論文】「横須賀造船所の外国船修理事業：明治一六年海軍軍拡以前を中心に」，『史学雑誌』130編2号，2021年2月

【論文】「日露戦争前の「揚武艦」輸出をめぐる対韓外交の一側面：在韓公使館の対応を中心に」，『軍事史学』56編4号，2021年3月

【論文】「日清・日露戦間期の官民造船業における修理船の事業構造——外国船の修理を手掛かりに——」『史学雑誌』133編3号，2024年3月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

##### 1 著書

訳著：賀申杰『病入股肱 日本近代史上の天皇と軍隊』（加藤陽子著『天皇と軍隊の近代史』の中国語訳）浙江人民出版社 2023年11月

## 2 論文

賀申杰「日清・日露戦間期の官民造船業における修理船の事業構造——外国船の修理を手掛かりに——」、『史学雑誌』133編3号, 2024年3月（査読あり）

## 5 その他

賀申杰『国立歴史民俗博物館の愉悦⑮ 旧天津租界の日本人学校関連資料』、『文部科学教育通信』553号, 2023年4月10日

書評：賀申杰「評”讲谈社・日本の歴史”之《维新的构想与开展》」（中国語）、『国際日本研究』第2輯, 2024年3月

## 二 主な研究教育活動

### 2 外部資金による研究

科学研究費若手研究「1900～1910年代日本の艦船輸出の性格構造—外需形成と武器移転の視点から」（2023～2025年度）研究代表者

### 5 教育

賀申杰「日本近代造船業の発展と外需事務」（講義）, 天津・南開大学日本研究院, 中華人民共和国, 中国語, 2023年5月17日（招待）

## 川邊 咲子 KAWABE Sakiko 特任助教（2022.4～） 生年：1989

【学歴】金沢大学人間社会学域人文学類卒業（2013）, 金沢大学大学院人間社会環境研究科地域創造学専攻（博士前期課程）修了（2016）, 金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻（博士後期課程）修了（2021）

【職歴】日本学術振興会特別研究員DC2（2018.4～2019.5）人間文化研究機構国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2019.5～2022.3）

【学位】博士（学術）【専門分野】文化資源学, 博物館学, 文化人類学【主な研究テーマ】地域民具コレクションの保存・活用・継承, そこに見られる人とモノの関係性【所属学会】日本民具学会, 文化資源学会, 北陸人類学研究会（日本文化人類学会北陸地区研究懇談会）【研究目的・研究状況】石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州をフィールドに, 地域の民具コレクションについての調査・研究を行ってきた。民具そのものというよりも, 人々がそうした過去から残されたモノを集めて残そうとするその活動自体に注目し, 背景にあるモノと人, 記憶との関係について研究・調査を行っている。

地域においてこれまで収集・保存された民具は, 物だけが残り情報が残されていないために学術資料や地域文化資源としての価値が低く, 資料館等の収蔵庫や廃校舎等に死蔵され, 消失の危機にあるものも少なくない。そうした現状において, 民具が研究や博物館活動だけでなく地域活動や日常生活の営みにも役立つような文化資源となるには, どのような情報を記録・蓄積し, いかなる方法で活用・共有していくのが望ましいかを考えていく必要がある。そうしたモノと情報の蓄積・共有のあり方, 方法について考察を行っている。

### ●主要業績

1 【論文】Kawabe, S. 「Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines」(博士学位論文) 金沢大学大学院人間社会環境研究科, 2021年3月

2 【論文】川邊 咲子「民具の「緩やかな保存」考—物のライフサイクルの視点から—」『農村計画学会誌』41- 1, pp.6-9, 2022年6月

3 【論文】Sakiko Kawabe 「Formation of an Everyday Object Collection through the Perspectives of an Ifugao Indigenous Community's Collector and Contributors」『The Cordillera Review: A Journal of Philippine Culture and Society』12- 1 & 2, pp.93-126, 2022年

### 4 【学会・外部研究会発表】

川邊 咲子「アーティストと市民との協働による民具の“緩やかな保存”の取り組みと展望」日本民俗学会第 920

回談話会（第74回年会プレシンポジウム）、オンライン／国立歴史民俗博物館、2022年7月24日

- 5 【学会・外部研究会発表】 Sakiko Kawabe, Yenling Cho, Yuta Hashimoto, Masaharu Hayashi, Hiroshi Horii, Misato Horii, Keisuke Nakamura, Ayumi Ogawa, Shiho Sasaki, Yoshihiro Takata, Kazutsuna Yamaji, Shunsuke Yamashita 「Community building for information collection and documentation on local everyday objects: an examination of the synergy of a crowdsourcing system and events」 CIDOC2023, Museo Universitario Arte Contemporáneo (Mexico City) , 2023年9月26日

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

- 2 論文（査読あり、なしを明記）

Kenji Kitamura, Yasuko Kinoshita, Koji Ito, Sakiko Kawabe, Hideki Kobayashi, Haruka Naya, Hiroaki Sugimori, Yoshihiro Takata, Manabu Teraguchi, Chiharu Baba 「Formation of a transdisciplinary community of practice in rural areas, with an interactive database of co-created knowledge: A case study in Noto, Japan」 『Gateways: International Journal of Community Research and Engagement』 16（2）, 2023年12月14日（査読あり）

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

Sakiko Kawabe 「Community building for the Preservation and Utilization of Local Everyday Objects in Japan」 JV Campusの教材（映像）, 2023年12月

- 5 学会・外部研究会発表

川邊咲子, 橋本雄太, 林正治, 堀井洋, 堀井美里, 中村圭佑, 小川歩美, 佐々木紫帆, 高田良宏, 卓彦伶, 山地一禎, 山下俊介 「民具資料情報収集のためのクラウドソーシングシステムの構築」 情報知識学会31回（2023年度）年次大会, 石川県立図書館, 2023年5月20日

川邊咲子, 橋本雄太, 林正治, 堀井洋, 堀井美里, 中村圭佑, 小川歩美, 佐々木紫帆, 高田良宏, 卓彦伶, 山地一禎, 山下俊介 「民具資料情報収集のための市民参加型プラットフォームの構築に向けて」 ジャパン・オープンサイエンス・サミット2023 (JOSS2023) , オンライン, 2023年6月22日

Sakiko Kawabe, Shunsuke Yamashita, Masaharu Hayashi, Hiroshi Horii, Ayumi Ogawa, Yoshihiro Takata, Shiho Sasaki, Yenling Cho, Keisuke Nakamura 「Collecting information on local everyday objects in cooperation with various informants through digitization and crowdsourcing system development」 EAJS2023, ゲント大学, 2023年8月18日

Sakiko Kawabe, Yenling Cho, Yuta Hashimoto, Masaharu Hayashi, Hiroshi Horii, Misato Horii, Keisuke Nakamura, Ayumi Ogawa, Shiho Sasaki, Yoshihiro Takata, Kazutsuna Yamaji, Shunsuke Yamashita 「Community building for information collection and documentation on local everyday objects: an examination of the synergy of a crowdsourcing system and events」 CIDOC2023, Museo Universitario Arte Contemporáneo (Mexico City) , 2023年9月26日

Akihiro Kameda, Sakiko Kawabe, Tetsuro Kamura, Takayuki Ako, Kiyonori Nagasaki 「Issues of Localization of International Standards for Documentation - Through Japanese Translation of CIDOC CRM and Getty Vocabularies」 (ポスター発表) CIDOC2023, Museo Universitario Arte Contemporáneo (Mexico City) , 2023年9月28日

Sakiko Kawabe 「Community building for the Preservation and Utilization of Local Everyday Objects」 ICON ARCADE 2023, バンドン工科大学, 2023年10月12日

川邊咲子 「民具の「緩やかな保存」の提案」 18 回無形民俗文化財研究協議会 「民具を継承する—安易な廃棄を防ぐために」, 東京文化財研究所, 2023年12月8日

- 7 その他

川邊咲子, 橋本雄太, 林正治, 堀井洋, 堀井美里, 中村圭佑, 小川歩美, 佐々木紫帆, 高田良宏, 卓彦伶, 山地一禎, 山下俊介 「民具資料情報収集のためのクラウドソーシングシステムの構築」 『情報知識学会誌』 33（2）特集 第31回（2023年度）年次大会（研究報告会&総会）, pp. 162-167, 2023年5月

川邊咲子 「民具の「緩やかな保存」の提案」 『民具を継承する 安易な廃棄を防ぐために：第18回無形民俗文化財研究協議会報告書』, pp. 73-91, 2024年3月

### 二 主な研究教育活動

## 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

## ① 歴博（基幹・基盤・開発型，国内交流事業）

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」共同研究員

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点「共創的資料保存の構築に向けたネットワーク研究拠点」共同研究員

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的な地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」：歴博ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」共同研究員

## 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自治体による研究）

科学研究費・基盤研究（C）「地域民具コレクションの整理手順のモデル化と緩やかな保存についての実践的研究」研究代表者

科学研究費・基盤研究（C）「Linked Dataの可視化を中心にした資料群データの理解支援手法の構築」研究分担者

科学研究費・基盤研究（B）「芸術・文化財情報流通のための多言語辞書データ開発の研究」研究分担者

文部科学省 AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業「地域文化資源データの共創のための汎用プラットフォームの開発」研究分担者

## 3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業，国際シンポジウム・集会など）

バンドン工科大学（インドネシア）との包括連携協定に基づく研究教育活動

・バンドン工科大学にてICON ARCADE 2023のプレイベントTalkshow「Open up Resources and Data on Research on Japanese Occupation of Indonesia during WW 2」を共催（2023年10月11日）。

・国立歴史民俗博物館において，バンドン工科大学の学生を対象にMuseum Management Workshopを実施（2023年10月26-27日）。

## 4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）

川邊咲子，特別展「民具が語る朝日の暮らしとひとびと」CRAFT VALLEY 361，道の駅ひだ朝日村やすらぎ館，2023年10月20日 - 2023年10月29日

## 5 教育（総研大シンポ，大学院セミナー担当，大学非常勤講師，学位審査の主査・副査・委員，博物館活動，教育プログラムなど）

川邊咲子「地域民具資料の保存と活用」東北大学 認証アーキビスト養成コース「デジタルアーカイブ特論」2024年1月11日

## 三 社会活動等

## 1 館外における各種委員（学会，学術会議，文化庁・学振・自治体審議委員など）

スズ・シアター・ミュージアム企画運営委員会アドバイザー（石川県珠洲市）

## 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

川邊咲子「そもそも民具ってどんなもの？ー歴史・文化を語る民具資料の可能性ー」泉大津市立図書館 地域の歴史・文化再発見講座，泉大津市立図書館，2023年12月14日

## 3 マスコミ（テレビ，ラジオ，新聞，雑誌など）

川邊咲子「震災後のスズ・シアター・ミュージアム」中日新聞（夕刊）寄稿，中日新聞（夕刊）2024年3月1日

## 4 社会連携（国内）

## ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）

川邊咲子「『緩やかな保存』の提案：地域民具資料のこれからを考える」岐阜県博物館学芸講座，岐阜県博物館，2023年7月17日

川邊咲子「暮らしのモノと記憶ー民具がひらく昔とこれからー」飛騨高山まちの博物館 冬季特別展示記念講演会，飛騨高山まちの博物館，2024年2月23日

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」

・2022年度の活動成果報告集会（4月，オンライン/歴博）を開催し，1年間の研究成果の報告や，歴史文化



資料保全NW事業などの関連する事業の報告、話題提供を通して、データの公開や地域資料の調査のあり方などについて議論を行った。

- ・人文情報ユニット研究会（6・12・3月）および地域歴史協働ユニット研究会（7・2月）や、公開討論会「学術野営2023 in 雨煙別」（6・7月、オンライン／北海道）を開催し、学術野営の事前検討会やフォローアップイベントとして「火起こしの会（全4回）」（4・5・6月）「テント干しの会」（8月）を併催した。
  - ・国際連携としては、ルーヴェン・カトリック大学の研究者が歴博を表敬訪問し、研究交流会を行った（6月）ほか、バンドン工科大学でのICON ARCADE 2023への参加とそのプレイベントの共催（10月）、同大学芸術デザイン学部 学部長の歴博表敬訪問（10月）、バンドン工科大学の学生を対象としたMuseum Management Workshopの開催（10月）を実施した。また、CIDOC CRMとGetty Vocabulariesの各日本語訳プロジェクトを、引き続き本プロジェクトの部会として実施した。
  - ・産学官連携協定に基づいた地域資料継承支援事業として、昨年度に引き続き石川県輪島市等において歴史資料等調査記録事業を行い、輪島市での展示やワークショップ、学術イベント等の開催に協力した。
  - ・情報基盤システムkhirinについて、館外からのフィードバックをふまえ改修するとともに、大学所蔵資料に限らない地域資料の可視化・共同利用化に向けた協議を進めた。特に、南砺市所蔵の「上平村伝統文化総合保存伝承事業 民俗資料カード」と歴博所蔵の「歴史民俗調査カード（民俗）」について、個人情報の保護について協議しデータ処理を進め、khirin aでの公開を実施した。
- 代表科研・基盤研究（C）「地域民具コレクションの整理手順のモデル化と緩やかな保存についての実践的研究」別頁にて報告。

## 川村 清志 KAWAMURA Kiyoshi 准教授（2012.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023～）、生年：1968

【学歴】大阪大学文学部（1992年3月卒業）京都大学人間・環境学研究科大学院（修士）（1996年3月修了）京都大学人間・環境学研究科大学院（博士）（1999年3月単位取得退学）

【職歴】神戸学院大学人文学部地域研究センターP.D.（2002）、札幌大学文化学部日本語・日本文化学科助（准）教授（2005）、同教授（2009）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2012）、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授併任（2014）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】学術博士（京都大学人間・環境学研究科）（2003年取得）【専門分野】文化人類学、民俗学【主な研究テーマ】口頭伝承の近代的展開、祭礼芸能の実践と習得過程の探求、メディアによる民俗文化の再表象過程、現代日本のサブカルチャーと伝統文化など【所属学会】日本文化人類学会、日本民俗学会、日本口承文芸学会、京都民俗学会

### ●主要業績

1. 【単著】『クリスチャン女性の生活史—「琴」が歩んだ日本の近・現代』青弓社、292頁、2011年1月
2. 【論文】「近代における民謡の成立—富山県五箇山地方「こきりこ」を中心に」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第165集、pp.175-204,2011年3月）（査読有）
3. 【論文】「祭りの習得と実践：子どもによる準備過程を中心に」（『比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要』25、pp.7-54,2010年12月）
4. 【論文】「芸能への参入と習得—兵庫県明石市大蔵谷獅子舞の事例から」（後藤静夫編『日本伝統音楽研究センター研究報告5「近代日本における音楽・芸能の再検討」』pp.187-199、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2010年3月）
5. 【論文】「移動する身体と故郷の物語の行方—移動によって見いだされた故郷と移動のなかで変容する故郷」（『歴博研究報告「共同研究」人の移動とその動態に関する民俗学的研究』199集、pp.143-170,2015年12月）

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

##### 1 著書

川村清志他編『新たな社会の創発を目指してvol.1 横断的・融合的地域文化研究の領域展開—新たな社会の創発を目指して』、人間文化研究機構、2023年10月

- 川村清志, 中村耕作『REKIHAKU顔・身体をもつ道具たち』, 国立歴史民俗博物館, 2024年2月
- 2 論文  
川村清志「地域社会における近代教育と生業への参加過程—戦前の宮城県気仙沼市の事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第246号, 123-144, 2024年3月
- 5 学会・外部研究会発表  
川村清志「今年度計画と珠洲市（奥能登国際芸術祭関連）での収蔵展示について」, 共同研究会「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」, 「フィールドサイエンスの統合と地域文化の創発」第1回研究会, 2023年5月  
川村清志, 大崎 清香, 阿部 海太郎「くいまばなし」の贈りもの」, 奥能登国際芸術祭2023, 2023年10月  
川村清志「災害からの復興と地域文化—宮城県気仙沼と石川県能登の取り組み—」, シンポジウム「歴史・文化を活かした地域と復興を考える」, 野村の地域文化をつなぐ会, 2023年12月  
川村清志「いま, コレクションについて考える～人はなぜ集めるのか?～」パネリスト, シンポジウム「いま, コレクションについて考える～人はなぜ集めるのか?～」, 千葉県立中央図書館, 2023年12月  
川村清志「アート・文化財・民俗資料—芸術祭の実践を通して」, 共同研究会「フィールドサイエンスの統合と地域文化の創発」第4回研究会, 2023年12月  
川村清志「通過視録録製研究, 保存和利用」国際シンポジウム「無形文化遺産映像記録の方法論—台日の現状把握を通して—」, 台南市文化部文化資産局文化資産保存中心, 2024年2月
- 7 その他  
川村清志「特集展示解説シート「四国遍路, 文化遺産へのみちゆき」」国立歴史民俗博物館, 2023年9月

## 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
- ③ 機構（基幹研究プロジェクト）  
「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」(研究代表者:川村清志), 研究代表(2022年度～2027年度)
- 2 外部資金による研究  
科学研究費基盤研究 (B)「紀伊半島沿岸部の漁労集団と言語」(研究代表者, 中井靖一同志社女子大学教授), 研究分担者 (2023年度～2025年度)  
科学研究費基盤研究 (C)「植物方言を地域研究資料として位置付けるための実践的な研究」(研究代表者, 島立理子研究員, 千葉県立中央博物館) 研究分担者 (2022年度～2024年度)

## 三 社会活動等

川村清志, 高科真紀「気仙沼遺産についての助言, 尾形家資料の保存・管理」宮城県気仙沼市教育委員会, 20231120～20240114

## 工藤 航平 KUDO Kohei 准教授 (2022.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授 (2023～), 生年：1976年

【学歴】東京学芸大学教育学部 (2000年卒業), 東京学芸大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程 (2004年修了), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻博士課程 (2010年修了)

【職歴】埼玉県立文書館 公文書担当嘱託職員 (2005年), 国文学研究資料館 研究部機関研究員 (2010年), 東京都公文書館 史料編さん担当公文書館専門員 (2013年), 国立歴史民俗博物館 研究部 歴史研究系准教授 (2022年～)

【学位】博士 (文学)【専門分野】日本近世史, 地域文化史【主な研究テーマ】近世社会における知識の多様性とその構築・継承プロセスの解明, 民間所在資料の保存【所属学会】地方史研究協議会, 日本歴史学協会, 日本アーカイブズ学会, 日本教育史研究会, 関東近世史研究会

### ●主要業績

- 1 【著書】『近世蔵書文化論—地域〈知〉の形成と社会—』457頁, 勉誠出版, 2017年11月
- 2 【論文】「北海道所在の民間アーカイブズの特質—分割管理された「移住持込文書」の伝来と意義—」(国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ—地域の持続へ向けて—』, pp97-129, 勉誠出版, 2017年3月)

- 3 【論文】「幕末期江戸周辺における地域文化の自立」, 『関東近世史研究』第65号, pp 4-50, 関東近世史研究会, 2008年10月, 査読有
- 4 【論文】「八丈島流人アーカイブズの概要調査報告—都有形文化財「八丈民政資料」の伝来と構造—」, 『東京都公文書館調査研究年報〈WEB版〉』第5号, pp.1-24, 東京都公文書館, 2019年3月, 査読無
- 5 【論文】「日本近世社会における知識形成と蔵書文化」, 『歴史学研究』第1031号, pp 1-11頁, 續文堂出版, 2023年1月, 査読有

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

- 1 著書
  - 共著『〰️出入り、の地域史—求心・醸成・発信からみる三重—』, 301頁, 雄山閣, 2023年10月
- 3 調査, 発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
  - 共著『港区史 第10-1巻 資料編2-1 近世』, 523頁, 東京都港区総務部総務課, 2024年3月
- 5 学会・外部研究会発表
  - 「東京都における感染症記録の保存対応と課題」, 日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会第28回史料保存利用問題シンポジウム, オンライン, 2023年6月
- 7 その他(『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)
  - 「フィールド紀行 移住持込資料を守り, 伝える—北海道開拓移住の記憶と記録—② 〰️受け継がれる、記憶とイメージ—絵画・祭礼・モニュメント—」, 国立歴史民俗博物館編, 『REKIHAKU』第9号, pp70-75, 文学通信, 2023年6月
  - 「フィールド紀行 移住持込資料を守り, 伝える—北海道開拓移住の記憶と記録—③分散する記録を再構築・共有する—」, 国立歴史民俗博物館編, 『REKIHAKU』第10号, pp70-75, 文学通信, 2023年10月

### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ③ 機構(基幹研究プロジェクト)
    - 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」
    - ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」
    - 共創促進研究日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」
- 2 外部資金による研究
  - 日本学術振興会科学研究費助成 研究活動スタート支援「日本近世における民衆の知識形成・継承・共有の特質に関する研究」, 研究代表者, 2022年度-2023年度
  - 日本学術振興会科学研究費助成 基盤研究(C)「幕末外交と贈答美術品—遣米・遣欧使節団の贈品を中心に」, 研究分担者, 2021年度-2024年度
- 4 主な展示・資料活動
  - 資料調査研究プロジェクト「棟梁鈴木家資料」, 研究代表者, 2022年度-2024年度

### 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
  - 地方史研究協議会常任委員
  - 日本アーカイブズ学会委員
  - 千葉県市原市歴史博物館協議会委員
  - 江戸東京博物館資料収蔵委員会委員
- 2 講演・カルチャーセンターなど
  - 歴博友の会古文書講座(2023年4月~2024年3月)
  - 市原歴史博物館古文書講座(2024年1月~2月)
  - 「知を編む人びと—江戸時代の蔵書文化—」, 歴博講演会第449回, 国立歴史民俗博物館講堂, 2024年1月
  - 「源氏物語と江戸文化—古典を楽しむ江戸の人びと—」, 地域の歴史・文化再発見講座特別編, 大阪府泉大津市立図書館, 2024年3月

## 小池 淳一 KOIKE Jun'ichi 教授 (2011～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～)，生年：1963

【学歴】東京学芸大学教育学部 (1987年卒業) 筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科 (一貫制) (1992年単位取得退学)

【職歴】弘前大学人文学部講師 (1992)，弘前大学人文学部助教授 (1994)，愛知県立大学文学部助教授 (2001)，国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授 (2003)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2006)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2011)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2011)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長 (2014-15)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】博士 (文学) (総合研究大学院大学) 【専門分野】民俗学 (民俗信仰，口承文芸，民俗学史)，伝承史 【主な研究テーマ】民俗における文字文化の研究，陰陽道の展開過程の研究，地域史における民俗の研究など 【所属学会】日本民俗学会，日本宗教学会 (理事)，日本昔話学会，日本口承文芸学会，日本文化人類学会，地方史研究協議会，日本史研究会，日本民具学会，儀礼文化学会，青森県民俗の会，福島県民俗学会ほか

### ●主要業績

1. 【編著書】『新陰陽道叢書 (第四巻) 民俗・説話』635頁，名著出版，2021年10月
2. 【著書】『季節のなかの神々—歳時民俗考—』220頁，春秋社，2015年10月
3. 【著書】『陰陽道の歴史民俗学的研究』442頁，角川学芸出版，2011年2月
4. 【論文】「『簠簋』攷—中世写本を中心に— 附 天正十二年写本 (歴博本) 影印—」『国立歴史民俗博物館研究報告』247，pp.69-116，2024年3月
5. 【展示図録】歴博企画展示図録『陰陽師とは何者か—うらない，まじない，こよみをつくる—』，国立歴史民俗博物館，全326頁，2023年10月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

##### 2 論文

「『簠簋』攷—中世写本を中心に— 附；天正十二年写本 (歴博本) 影印」

『国立歴史民俗博物館研究報告』247集，2024年3月，国立歴史民俗博物館，pp.69-116

「会津における歴史文化研究拠点の伝承と記録—『新編会津風土記』の分析—」

『国立歴史民俗博物館研究報告』246集，2024年3月，国立歴史民俗博物館，pp.283-296

##### 5 学会・外部研究会発表

「中世末真言宗における陰陽道—『安部懐中伝暦』とその周辺—」

説話文学会例会 (大正大学) 2023年4月15日

「陰陽道における「曜宿経」—五巻本『簠簋』の形成—」

日本宗教学会第82回学術大会 (東京外国語大学) 2023年9月9日

##### 7 その他

「鏡渭覚書—近世会津の真言僧と陰陽道— (久野俊彦と共著)

『西郊民俗』264号，2023年9月17日，西郊民俗談話会，pp.15-16

「暦の神々と民俗」

『セレクト』652号，2024年2月10日，株式会社セレクト，pp.33-36

「仮面の顎—その宗教的な根源をめぐる覚書—」

笹原亮二編『日本の仮面—芸能と祭りの世界—』，2024年3月28日，国立民族学博物館，pp.166-167

「寛永八年版大ざつしよ—解題と翻刻・影印—」

『国立歴史民俗博物館研究報告』247集，2024年3月，国立歴史民俗博物館，pp.289-367

「地域における歴史文化研究拠点とは何か—共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」の経緯と成果—」

『国立歴史民俗博物館研究報告』246集, 2024年3月, 国立歴史民俗博物館, pp.1-19 (高科真紀と共著)  
 「共同研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」の概要と成果」『国立歴史民俗博物館研究報告』247集, 2024年3月, 国立歴史民俗博物館, pp.1-5 (梅田千尋と共著)  
 「伝説研究の視点と方法—関東の安倍晴明伝説をめぐって—」  
 佐藤優・小池淳一・内田順子編『歴史研究の最前線Vol.25・伝説が語るもの』, 2024年3月, 総研大日本歴史研究コース・国立歴史民俗博物館, pp.28-48

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

#### 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究C「口頭伝承資料の分析と多角的発信に関する研究」(2023~2025年) 研究代表者

科学研究費基盤研究C「古代~近代陰陽道史料群の歴史の変遷と相互関係の解明」(京都女子大学, 2021~2023年), 研究分担者

科学研究費基盤研究A「宗教テキスト文化遺産アーカイブス創成学術共同体による相互理解の共有」(龍谷大学, 2022~2026年), 研究分担者

### 4 主な展示・資料活動

「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」(国立歴史民俗博物館 企画展示, 2023年10月3日~12月10日)

### 5 教育

成城大学大学院文学研究科非常勤講師 (日本民俗学研究), 明治大学文学部兼任講師 (民俗学)

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

日本宗教学会理事

八千代市文化財審議会委員

### 3 マスコミ

『時空旅人』Vol.76「失われたいにしへの時を求めて 陰陽師と古代暦の世界」  
(取材協力)

「モノからよみとく陰陽師」『芸術新潮』2023年10月号

「陰陽師が遺したモノ」『目と眼』2023年11月号

「実在した陰陽師の息遣いを感じたい 陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」『ちいき新聞 (佐倉西版)』2023年10月6日号

「良い未来へ導く陰陽師」『朝日小学生新聞』2023年10月19日

「陰陽師 実像に迫る」『朝日中高生新聞』2023年11月12日

「国と人の運命をつかさどる 陰陽師のお仕事」『読売KODOMO新聞』2023年11月16日

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

陰陽道を軸とした民俗信仰の展開過程の研究

主として東北地方の陰陽道書およびその伝来環境の調査に基づいて, 中近世移行期の陰陽道が真言宗寺院における学習の対象であったことを解明した。その成果として, 「『篋篋』攷—中世写本を中心に—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』247) を執筆した。また日本宗教学会第82回学術大会 (東京外国語大学) における研究発表「陰陽道における「曜宿経」—五巻本『篋篋』の形成—」を行なった。これらによって民俗信仰への陰陽道の浸透過程は真言宗を経由している可能性を指摘できた。

## 小瀬戸 恵美 Koseto-Horyu, Emi 准教授 (2010.1~)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授 (2023~)

【学歴】東京大学理学部化学科 (1995年卒業), 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻博士後期課程 (2000

年中途退学)【職歴】アメリカ合衆国ゲティ保存研究所グラジュエイトインターン(1999)  
 国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手(2000), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手(2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教(2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授(2013), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任(2023)  
 【学位】文化財修士(東京藝術大学)(1998年取得)【専門分野】保存科学, 文化財保存学【主な研究テーマ】展示評価の手法と検討, 博物館施設における資料劣化原因・過程に関する研究【所属学会】文化財保存修復学会, 日本文化財科学会, 国際博物館会議(International Committee of Museum, ICOM), International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works (IIC)  
 【研究目的・研究状況】博物館における研究展示において視線計測などの非接触・非言語による展示評価手法の検討と考察を目的としている。同時に, 文化財を対象に自然科学的手法による分析・調査を行い, 他分野との協業によって文化財構成物質の流通や人の文化的交流についての考察をおこなっている。

### ●主要業績

1. 【論文】「常呂川河口遺跡墓壙出土ガラスの自然科学的分析」(『常呂川河口遺跡』8, pp.297-303, 2008年3月)
2. 【論文】「2. 連携研究機関における生物被害対策の現状と課題 国立歴史民俗博物館の生物生息調査」(『有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成』pp.125-132, 2008年2月)
3. 【論文】「ラマンイメージング装置による伊勢市版歌川派錦絵および版木の色材分析」(共著/坂本章, 落合周吉, 東山尚光, 増谷浩二, 木村淳一)(『国立歴史民俗博物館研究報告』第153集, pp.1-19, 2009年3月)(査読有)
4. 【論文】「Raman studies of Japanese art objects by a portable Raman spectrometer using liquid crystal tunable filters」(共著 Akira Sakamoto, Shukichi Ochiai, Hisamitsu Higashiyama, Koji Masutani, Jun-ichi Kimura, Mitsuo Tasumi)(『Journal of Raman Spectroscopy』, Vol.43, pp.787-792, 2012年6月, published online on October 27)(査読有)
5. 【論文】「A Pilot Study on the Museum Visitors' Interest by using Eye Tracking System」The Eighth Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2018) proceeding, pp.129-131, 2018年9月9日(査読有)

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 4 展示図録・資料図書・映像・DB  
 「父・小瀬戸俊昭」特集展示図録『東アジアを駆け抜けた身体』, pp.90-91, 国立歴史民俗博物館, 2021年1月26日
- 5 学会・外部研究会発表  
 「A Pilot Study on the Museum Visitors' Interest by using Eye Tracking System」The Eighth Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2018), 一橋講堂, 2018年9月10日(査読有)
- 7 その他  
 小瀬戸恵美, 太田歩, 高橋真衣子「幼児と歴史系博物館: 国立歴史民俗博物館「たいけんれきはく」から扉をひらく」『博物館研究』53-9, 日本博物館協会, pp.6-9, 2018年8月25日  
 科学の目で見える歴史資料「馬形帯鉤の真贋」『REKIHAKU』9号 pp.90-91 2023年6月  
 科学の目で見える歴史資料「錦絵の色の分析」『REKIHAKU』10号 pp.90-91 2023年10月  
 科学の目で見える歴史資料「青磁の胎土分析による産地推定」『REKIHAKU』11号 pp.90-91 2024年2月

#### 三 社会活動等

- 2 講演・カルチャーセンターなど(友の会も含む)  
 「本物と偽物に関する科学」『大人が楽しむ科学教室』千葉市科学館 2023年4月22日

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

本年度はグラス型視線計測機器を用い, 展示室・特集展示などの展示について測定を行った。しかし「江戸の妖怪絵巻」に関しては精細な解析をおこなったところ予期された結果ではない特異性が見いだされ, これが展示特有であるのか歴博特有の現象であるのかを明らかにするため, 本年度までと同様に計測結果の再解析を

行った。次年度は引き続き解析を行うとともに、特集展示のみならず、常設展示等、対象人数を増やして測定・解析を行う予定である。

## 齋藤 努 SAITO Tsutomu 教授 (2009.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～)，生年：1961

【学歴】東京大学理学部化学科 (1983年卒業)，東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程 (1988年修了)

【職歴】東京大学教養学部非常勤講師 (1988)，国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1988)，同助教授 (1999)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2002)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2009)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2009)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任 (2010～2011)，広報連携センター長併任 (2013～2015, 2018～2019)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】理学博士 (東京大学) (1988年取得) 【専門分野】文化財科学 【主な研究テーマ】歴史資料の自然科学的手法による分析 (材質、技法、産地) 【所属学会】日本文化財科学会，文化財保存修復学会・日本中間子科学会 【研究目的・研究状況】美術品・工芸品・考古遺物などの歴史資料を対象として自然科学的な手法を用いて調査を行い，人文科学的な研究結果とあわせることによって，原料の流通や人の交流，使用されていた技術などについて考察を加える。また，伝統技術に関する実地調査や再現実験なども実施している。

### ●主要業績

#### 1. 【単著】

『金属が語る日本史—銭貨・日本刀・鉄炮—』歴史文化ライブラリー355，吉川弘文館 (単著)，205頁，2012年11月

#### 2. 【論文】

齋藤努，高橋照彦，西川裕一「古代銭貨に関する理化学的研究 — 「皇朝十二銭」の鉛同位体比分析および金属組成分析—」IMES Discussion Paper No.2002-J-30, 2002年9月 (査読なし)

#### 3. 【論文】

齋藤努，土生田純之，亀田修一，福尾正彦，鄭仁盛，高田寛太，風間栄一，藤尾慎一郎，柳昌煥，趙榮濟「鉛同位体比分析による古代朝鮮半島・日本出土青銅器などの原料産地と流通に関する研究 — 韓国嶺南地域出土・東京大学所蔵楽浪土城出土・宮内庁所蔵の資料などを中心に—」『考古学と自然科学』59, pp.57-81, 2009年6月 (査読あり)

#### 4. 【論文】

「刀匠の継承する伝統技術の自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集, pp.127-178, 2012年11月 (査読あり)

#### 5. 【論文】

「江戸期小判などの色揚げに関する自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集 (開館三〇周年記念論文集Ⅱ), pp.1-51, 2014年3月 (査読あり)

#### 6. 【論文】

齋藤努，竹下聡史，反保元伸，土居内翔伍，橋本亜紀子，梅垣いづみ，久保謙哉，二宮和彦，三宅康博「負ミュオンを用いた丁銀の色付に関する非破壊分析」『文化財科学』84, pp.1-16, 2022年2月 (査読あり)

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

##### 2 論文

齋藤努，藤尾慎一郎，濱田幸司，反保元伸，竹下聡史，土居内翔伍，橋本亜紀子，梅垣いづみ，久保謙哉，工藤拓人，二宮和彦，三宅康博「ミュオン非破壊分析法を用いた銅鐸鏑部の下層に残存する金属部分の組成分析」『文化財科学』87, pp.17-30, 2023年8月 (査読あり)

齋藤努「於福金山遺跡から出土した資料の鉛同位体比分析結果」『陶埴』36, pp.43-49, 2023年10月 (査読なし)

- 齋藤努「負ミュオンを用いた文化財の内部成分組成非破壊分析法について」『文化財科学』88, pp.43-46, 2024年3月(査読なし)
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発  
齋藤努「鉄の隕石で作られた刀剣 ～ウィドマンシュテッテン構造が生み出す隕鉄の質感～」『企画展示 歴博色尽くし いろ・つや・かたちのアンソロジー』pp.73-76, 2023年3月
- 5 学会・外部研究会発表  
齋藤努, 反保元伸, 竹下聡史, 土居内翔伍, 橋本重紀子, 梅垣いづみ, 久保謙哉, 二宮和彦, 三宅康博「江戸時代を通じて発行された丁銀のミュオン非破壊分析法による深さ方向分析結果」日本文化財科学会第40回大会, なら歴史芸術文化村, 2023年10月  
齋藤努「江戸時代の小判と丁銀に施された表面処理技術の変遷と系譜」『第8回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る—加速器で紡ぐ文理融合の地平—」高エネルギー加速器研究機構 つくばキャンパス 小林ホール, 2023年11月

## 二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究  
科学研究費補助金・基盤研究(A)「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」(研究代表 村木二郎) 研究分担者, 2022~2026年度  
科学研究費補助金・基盤研究(A)「負ミュオンビームが織りなす文理融合研究」(研究代表 三宅康博) 研究分担者, 2023~2028年度  
科学研究費補助金・基盤研究(C)「銅鉛原材料産出地からみた5世紀末葉から6世紀前半代の倭王権の外交政策と政権構造」(研究代表 澤田秀実) 研究分担者, 2023~2027年度
- 4 主な展示・資料活動(展示・資料・DBなど)  
「コーナー6 鉄の隕石で作られた刀剣 ～ウィドマンシュテッテン構造が生み出す隕鉄の質感～」『企画展示 歴博色尽くし いろ・つや・かたちのアンソロジー』2024年3月12日~5月6日

## 四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告  
濃度比の異なる銀銅合金を、江戸時代の絵巻や文書類に記されている方法で加熱処理し、表面状態の拡大観察を行った。しかし、通常の方法では深さ方向分析を行うことができなかったため、次年度は外注して、オージェ電子分光分析法かグロー放電発光分光分析法で調べ、エッチングした深さをレーザー変位計などで測定する必要がある。

## 坂本 稔 SAKAMOTO Minoru 教授(2013~), 博物館資源センター長(2023~)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授(2023~)

【学歴】東京大学理学部化学科(1989年卒業), 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程(1991年修了), 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程(1994年修了)

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手(1994), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授(2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2013), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任(2013), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長(2016-2018), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任(2023)

【学位】博士(理学)(東京大学)(1994年取得)【専門分野】文化財科学【主な研究テーマ】同位体分析に基づく年代測定【所属学会】日本文化財科学会, 文化財保存修復学会, 日本AMS研究協会, 応用物理学会【研究目的・研究状況】炭素14年代法を中心に, 数値年代の獲得と精度向上に研究の重点を置く。

### ●主要業績

1. 【著書】坂本稔・横山操編『樹木・木材と年代研究』147頁, 朝倉書店, 2021年3月



2. 【論文】 Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaiki, Takeshi Nakatsuka, Hiromasa Ozaki 「Radiocarbon dating of tree rings from the beginning and end of the Yayoi period, Japan.」 『Radiocarbon』 59巻6号, pp.1907-1917, 2017年12月
3. 【共同研究】 坂本 稔編 『歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究』 国立歴史民俗博物館研究報告176, 178頁, 2012年12月
4. 【外部資金】 2022～2026年度科学研究費補助金（基盤A）「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」研究代表者

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 2 論文

Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaiki, Takeshi Nakatsuka, Hiromasa Ozaki 「Radiocarbon dating of tree rings from the beginning and end of the Yayoi period, Japan.」 『Radiocarbon』 Published online 2023: 1-9. doi:10.1017/RDC.2023.50. (査読有)

#### 5 学会・外部研究会発表

坂本稔, 箱崎真隆, 光谷拓実, 中塚武, 中尾七重, 横山操, 門叶冬樹 「過去1200年間の日本産樹木年輪の単年輪炭素14年代測定」 Japan Geoscience Union Meeting 2023, 2023年5月25日, 幕張メッセ

坂本稔, 瀧上舞, 藤尾慎一郎, 篠田謙一 「人骨の年代測定とゲノム解析によるヤポネシア人の諸相」 日本文化財科学会第40回記念大会実行委員会, 2023年10月22・23日, なら歴史芸術文化村 (ポスター賞受賞)

Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaiki, Natsuko Fujita, Yoko Saito-Kokubu 「AMS-<sup>14</sup>C measurement of 670-year-old giant Japanese cedar - 1871-2020 CE.」 第9回東アジアAMSシンポジウム, 2023年11月22日, 韓国科学技術研究院

#### 7 その他

坂本稔, 瀧上舞 「炭素14年代法でわかること」 『季刊考古学』 166号, pp.25-28, 2024年2月1日, 雄山閣, ISBN: 9784639029618

坂本稔 「日本の年輪があぶり出す「不都合な真実」」 『REKIHAKU』 9号, pp.50-56, 国立歴史民俗博物館, ISBN: 9784867660140

坂本稔 「法隆寺建造物古材の謎」 『REKIHAKU』 9号, pp.76-79, 国立歴史民俗博物館, ISBN: 9784867660140

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

#### ② 他の機関

産学連携共同研究「日本産樹木年輪による炭素14年代較正曲線の整備」研究代表者, 2022～2024年度

#### ③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る, モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究」(代表: 陀安一郎) 歴博ユニット「同位体による年代・古気候・交流史研究」研究代表者, 2022～2026年度

### 2 外部資金による研究

科学研究費補助金（基盤A）「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」研究代表者, 2022～2026年度

科学研究費補助金（学術変革領域：計画研究C01班）「日本列島域における古環境変遷の研究」(研究代表者：箱崎真隆) 研究分担者, 2023～2027年度

科学研究費補助金（基盤A）「囲壁施設・生産遺跡を中心とした初期遊牧国家の考古学的研究」(研究代表者：白杵勲) 研究分担者, 2023年度～2027年度

科学研究費補助金（基盤A）「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程—地域文化の成立と相互関係—」(研究代表者：小林謙一) 研究分担者, 2022年度～2026年度

科学研究費補助金（基盤B）「考古遺跡の高精度編年による人類史再構築のための国際的データベースの作成」(研究代表者：工藤雄一郎) 研究分担者, 2022年度～2025年度

科学研究費補助金（基盤S）「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」(研究代表者：中塚武) 研究分担者, 2021年度～2025年度

科学研究費補助金（基盤A）「過去3万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基

盤研究」(研究代表者：箱崎真隆) 研究分担者, 2020年度～2024年度

科学研究費補助金(基盤C)「中世民家の年代研究」(研究代表者：中尾七重) 研究分担者, 2021～2023年度

#### 5 教育

千葉大学非常勤講師(博物館資料保存論)

武蔵大学人文学部専門科目「芸術の科学/文化財科学」講師

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

日本文化財科学会評議員(2022年度～)

日本AMS研究協会運営委員(2017年度～) 4 社会連携

#### ③ 講演会・シンポジウム

「未知への挑戦：若手が語る最先端研究」2023年度総研大社会連携事業, 長野県飯田高校, 2023年11月5～7日(事業実施責任者)

「炭素14年代法による年代研究」佐倉アクティブSSH講座「科学分析で過去を探る」, 2023年8月2日, 千葉県立佐倉高校

佐倉アクティブSSH講座「科学分析で過去を探る」, 2023年8月3日, 国立歴史民俗博物館

### 四 活動報告

#### 3 研究・調査プロジェクト報告

企画展示「陰陽師とは何者か」に出陳された「名田庄室町幕府制札」の年代測定を実施した。制札側面から年輪数と幅を計測し76年輪を得たが, 年輪年代法による年代判定はできなかった。同じく側面の2箇所から測定試料を採取し, 炭素14年代法を実施した。うち1点の測定の結果, 制札の最外年輪は西暦1500年前後ないし1600年前後と推定され, 永正10年(1513)の記載と矛盾しない。

## 佐川 享平 SAGAWA Kyohei 特任助教(2022～)

【学歴】早稲田大学大学院文学研究科日本史コース博士後期課程満期退学(2012年度)

【職歴】早稲田大学大学史資料センター助手(2015～2017年度)・同助教(2018～2021年度)

【学位】博士(文学)(早稲田大学)【専門分野】日本近現代史【主な研究テーマ】炭鉱における労働社会史, 炭鉱関係資料の保全・活用【所属学会】民衆史研究会, アジア民衆史研究会, 国際高麗学会日本支部, 歴史学研究会【研究目的・研究状況】1910年代から増加する朝鮮人鉱夫に着目し, 労働力として担った役割や炭鉱社会への影響を考察している。また, 近年では, 戦後の炭鉱労働や, 労働災害の問題にも研究の射程を延ばしている。

#### ●主要業績

1. 【著書】『筑豊の朝鮮人鉱夫 1910～30年代年代——労働・生活・社会とその管理』(世織書房, 2021年3月)
2. 【論文】「戦前期の早稲田大学における鉱山実習とキャリア形成」(『早稲田大学史記要』52, pp.55-94, 2021年3月)
3. 【論文】「戦間期日本の炭鉱業における朝鮮人鉱夫の役割と待遇」(『歴史学研究』1015, pp.108-117, 2021年10月)
4. 【学会・外部研究会発表】  
「戦間期日本の炭鉱業における朝鮮人鉱夫の役割と待遇」(2021年度歴史学研究会大会近代史部会, 2021年5月23日)

#### ●2023年度の研究教育活動

#### 二 主な研究教育活動

#### 2 外部資金による研究

科学研究費若手研究「戦後の炭鉱における労働・労働災害史に関する基礎的研究」(2020～2023年度) 研究代表者

#### 4 主な展示・資料活動

総合展示第5・6室展示プロジェクト委員

#### 5 教育

早稲田大学文学部・文化構想学部非常勤講師  
東京女子大学非常勤講師

## 佐野 雅規 SANO Masaki 特任准教授 (2023～)

【学歴】愛媛大学大学院連合農学研究科(2007年修了)【職歴】総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員(2014), 早稲田大学人間科学学術院助教(2017), Springer Nature, 名古屋大学大学院環境学研究科特任准教授(2021.10), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任准教授(2023.10)【学位】博士(農学)【専門分野】古気候学, 年輪年代学【主な研究テーマ】樹木年輪を用いた過去の気候復元【所属学会】日本文化財科学会, 日本地球惑星科学連合, 日本木材学会

### ●主要業績(研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

- 1 【共著】Sano, M., Xu, C., Dimri, A.P. and Ramesh, R. (2020) Summer monsoon variability in the Himalaya over recent centuries. In: A.P. Dimri, B. Bookhagen, M. Stoffel and T. Yasunari (Eds.), *Himalayan weather and climate and their impact on the environment*. Springer International Publishing, Cham, pp. 261-280. DOI: 10.1007/978-3-030-29684-1\_14
- 2 【共著】佐野雅規・鎌谷かおる・伊藤啓介・中塚 武(2021) 気候変動が水稻生産力に与える影響の評価—現代の農業統計データおよび近世・中世の古文書記録からの推察—。『気候変動から読みなおす日本史 第1巻 新しい気候観と日本史の新たな可能性』中塚 武・鎌谷かおる・佐野雅規・伊藤啓介・對馬あかね 編。臨川書店 pp. 207-224.
- 3 【論文】Sano, M., Xu, C., and Nakatsuka, T. (2012) A 300-year Vietnam hydroclimate and ENSO variability record reconstructed from tree-ring  $\delta^{18}\text{O}$ . *Journal of Geophysical Research* 117, D12115, DOI:10.1029/2012JD017749
- 4 【論文】Sano, M., Tshering, P., Komori, J., Fujita, K., Xu, C., and Nakatsuka, T. (2013) May–September precipitation in the Bhutan Himalaya since 1743 as reconstructed from tree-ring cellulose  $\delta^{18}\text{O}$ . *Journal of Geophysical Research: Atmospheres* 118: 8399–8410, DOI: 10.1002/jgrd.50664
- 5 【論文】Sano, M., Dimri, A.P., Ramesh, R., Xu, C., Li, Z., and Nakatsuka, T. (2017) Moisture source signals preserved in a 242-year tree-ring  $\delta^{18}\text{O}$  chronology in the western Himalaya. *Global and Planetary Change* 157: 73–82, DOI:10.1016/j.gloplacha.2017.08.009

### ●2023年度の研究教育活動(成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

#### 一 研究業績(公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 1 著書(単著・共著・編著・監修)
- 2 論文(査読あり, なしを明記)
 

Hau, N.-X., Sano, M., Nakatsuka, T., Chen, S.-H., Chen, I.C. (2023) The modulation of Pacific Decadal Oscillation on ENSO–East Asian summer monsoon relationship over the past half-millennium. *Science of The Total Environment* 857, 159437. DOI: 10.1016/j.scitotenv.2022.159437 (査読あり)

藤尾慎一郎・坂本稔・佐野雅規(2023) 岡山大学構内遺跡における水田稲作の開始年代—I 期中段階の堰の酸素同位体比年輪年代と炭素14年代— *文明動態学* 2: 18-31. DOI: 10.18926/64199 (査読あり)

Xu, C., Wang, S.Y.S., Borhara, K., Buckley, B., Tan, N., Zhao, Y., An, W., Sano, M., Nakatsuka, T., Guo, Z. (2023) Asian–Australian summer monsoons linkage to ENSO strengthened by global warming. *npj Climate and Atmospheric Science* 6, 8. DOI: 10.1038/s41612-023-00341-2 (査読あり)

Sano, M., Pumijumnong, N., Fujita, K., Hakozaki, M., Miyake, F., Nakatsuka, T. (2023) A wiggle-matched 297-yr tree-ring oxygen isotope record from Thailand: Investigating the 14C offset induced by air mass transport from the Indian Ocean. *Radiocarbon* 65: 505-519. DOI: 10.1017/RDC.2023.14 (査読あり)

Sano, M., Kimura, K., Miyake, F., Tokanai, F., Nakatsuka, T. (2023) Two new millennium-long tree-ring oxygen isotope chronologies (2349–1009 BCE and 1412–466 BCE) from Japan. *Radiocarbon* 65: 721-732. DOI:10.1017/RDC.2023.29 (査読あり)

佐野雅規・大石恭平・樋上昇・中塚武(2023) 愛知県出土材の年輪幅に基づく中世ヒノキ標準年輪曲線(1087–1574年)の構築. *文化財科学* 86: 37-48. (査読あり)

Pandey, U., Nakatsuka, T., Mehrotra, N., Zhen, L., Kato, Y., Sano, M., Shah, S.K. (2023) Tree-rings stable isotope ( $\delta^{18}\text{O}$  and  $\delta^2\text{H}$ ) based 368 years long term precipitation reconstruction of South Eastern Kashmir Himalaya. *Science of The Total Environment* 892, 164640. DOI:10.1016/j.scitotenv.2023.164640 (査読あり)

Lee, J.-H., Jeong, H.-M., Sano, M., Seo, J.-W. (2023) Investigating the potential of the tree-ring  $\delta^{18}\text{O}$  time series of *Pinus thunbergii* in the dendroarchaeological study. *Journal of Conservation Science* 39: 288-296. DOI:10.12654/JCS.2023.39.3.10, (in Korean with English abstract) (査読あり)

Xu, C., Zhao, Y., An, W., Zhao, Q., Liu, Y., Sano, M., Nakatsuka, T. (2024) Method to measure tree-ring width, density, elemental composition, and stable carbon and oxygen isotopes using one sample. *Journal of Forestry Research* 35, 56. DOI:10.1007/s11676-024-01707-9 (査読あり)

Choi, E.-B., Park, J.-H. Sano, M., Nakatsuka, T., Seo, J.-W. (in press) Summer climate information recorded in tree-ring oxygen isotope chronologies from seven locations in the Republic of Korea. *Frontiers in Forests and Global Change*. (査読あり)

### 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

小林謙一・佐野雅規・李貞・中塚武・中村大介 (2023) 本山遺跡第34次調査出土杭材の年代測定. 『神戸市埋蔵文化財年報』神戸市文化スポーツ局文化財課, pp.129-139.

佐野雅規・中塚武・李貞・濱田竜彦・下江健太 (2023) 酸素同位体比年輪年代法による鳥取市本高弓ノ木遺跡710溝出土木材の年代学的研究. 『調査研究紀要15』鳥取県埋蔵文化財センター, pp.39-54.

佐野雅規・李貞・中塚武 (2023) 梶原南遺跡出土材の酸素同位体年輪年代および放射性炭素年代. 『梶原南遺跡2』大阪府文化財センター, pp.124-129.

### 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

### 5 学会・外部研究会発表

佐野雅規, 李貞, 中塚武: 木材の年層内同位体比を用いた年代決定の分析法開発. 第40回日本文化財科学会, 天理市, 2023年10月.

佐野雅規, 安江恒, 中塚武: スギ植林木の年輪同位体比は同一個体でも樹幹内の高さにより異なる. 2023年樹木年輪研究会, 仙台市, 2023年11月.

佐野雅規 (2024) 樹木年輪セルロースの酸素同位体比を用いた気候復元と年代決定. 第71回日本生態学会・企画シンポジウム・環境が樹木の年輪形成に与える影響, 横浜市, 2024年3月

### 6 総研大リーフレット

### 7 その他 (『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

## 二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

### 1 主な共同研究等参加状況 (歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)

- ① 歴博 (基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)
- ② 他の機関
- ③ 機構 (基幹研究プロジェクト)

### 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究)

2022-2024年度・科学研究費補助金・基盤研究B (一般)

研究課題: 22H007838 『年層内同位体比分析による年代決定可能な木材の飛躍的拡大と降水量・気温の同時復元』

### 3 国際交流事業 (国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)

### 4 主な展示・資料活動 (展示・資料・DBなど)

### 5 教育 (総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員 (学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)

### 2 講演・カルチャーセンターなど (友の会も含む)

### 3 マスコミ (テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)

### 4 社会連携 (国内)

- ① 刊行物 (自治体など地方公共団体刊行のもの: 市史, 発掘調査報告書など)

- ② 共同研究（自治体からの委託研究や産業界との共同研究）
- ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）
- ④ デジタル・コンテンツ開発（自治体の経費で開発したもの）
- 5 国際連携（日本国内で行われたものも含む）
  - ① JICA
  - ② 国際交流基金
  - ③ その他

#### 四 活動報告

- 1 受賞歴
  - 日本文化財科学会・業績賞
- 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
- 3 研究・調査プロジェクト報告
- 4 その他（研究の目的、意義など）\*任意

### 澤田 和人 SAWADA Kazuto 准教授（2009.10～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023～）

【学歴】大阪大学文学部美学科（1996年卒業）、大阪大学大学院文学研究科芸術史学専攻博士前期課程（1998年修了）

【職歴】財団法人大和文華館学芸部（1998）、国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（2002）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2013）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（大阪大学）（1998年取得）【専門分野】染織史、服飾史、絵画史（絵巻）【主な研究テーマ】中世を中心とする染織および服飾・衣装風俗に関する研究、野村正治郎に関する研究【所属学会】美術史学会

#### ●主要業績

1. 【論文】「十徳の変遷—中世を中心に」（『美術史』147号、pp.36-53,1999年11月）
2. 【編著】『[染]と[織]の肖像—日本と韓国・守り伝えられた染織品』（国立歴史民俗博物館平成20年度企画展示図録、208頁、2008年10月）
3. 【編著】『紅板締め—江戸から明治のランジェリー』（国立歴史民俗博物館平成23年度企画展示図録、164頁、2011年7月）
4. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅰ』（国立歴史民俗博物館資料図録9,348頁、2013年3月）
5. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅱ』（国立歴史民俗博物館資料図録10,356頁、2014年3月）

#### ●2023年度の研究教育活動

##### 一 研究業績

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
  - 『歴博色尽くし』（国立歴史民俗博物館令和5年度企画展示図録、2024年3月）、pp.21-24, 77-78
- 5 学会・外部研究会発表
  - 「国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画について／ジャポニズムと藤」（洋学史学会11月シンポジウム、於電気通信大学、2023年11月11日）
- 7 その他（歴史系総合誌『歴博』、友の会ニュース、『本郷』など）
  - 「新出の野村コレクション」（『友の会ニュース』230号、2023年12月）、p.1

##### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ① 歴博

基盤研究「歴博研究映像の総合的活用の方法論の構築—沖縄地域の映像を中心に」（研究代表：内田順子）  
共同研究者（2022年度～2024年度）

③ 機構

機構共創先導プロジェクト「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」（研究代表：日高 薫）共同研究者（2022～2027年度）

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究）

科学研究費補助金基盤研究（A）「日本染織文化資源の再発見とその活用に資する基盤研究」（研究代表：小山弓弦葉）研究分担者（2023～2028年度）

4 主な展示・資料活動

特集展示「新出の野村コレクション」（2024年1月5日～2月5日）展示プロジェクト代表

くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト副代表

令和7年度企画展示「人をつなぐジャポニスム—野村正治郎着物コレクションの軌跡（仮称）」展示プロジェクト代表

三 社会活動等

1 館外における各種委員（学会，学術会議，文化庁・学振・自治体審議委員など）

東日本伝統工芸展鑑審査委員

大雲院調査委員会委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

特集展示「新出の野村コレクション」（2024年1月5日～2月5日）として成果の一端を公開した。

篠崎 鉄哉 SHINOZAKI Tetsuya プロジェクト研究員（2022～2023年度）

生年：1986

【学歴】 東北大学理学部地圏環境科学科（2008年卒業），東北大学大学院理学研究科地学専攻（2010年修了），筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻（2016年修了），【職歴】 国立大学法人筑波大学アイソトープ環境動態研究センター特任助教（2016年4月～2020年3月），国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門日本学術振興会特別研究員PD（2020年4月～2022年9月），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究員（2022年10月～2024年3月），東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻特任研究員（2024年4月～現在）【学位】 博士（理学）（筑波大学）（2016年取得）【専門分野】 堆積学，地質学，地球化学【主な研究テーマ】 年輪年代法による古津波年代の誤差0年決定，日本海溝沿いの歴史・先史津波の高精度浸水推定，南海トラフ沿岸域の広域津波履歴推定による連動型巨大地震の津波リスク評価，津波堆積物の地球化学的特徴の基礎データ整備【所属学会】 日本地球惑星科学連合，日本堆積学会，日本地質学会，日本第四紀学会，日本地球化学会，地球環境史学会，American Geophysical Union【研究目的・研究状況】 主に堆積物試料を用いて地球化学や堆積学などの観点から地球表層の動態や変遷史に関する研究を行っている。特に，低頻度巨大津波のリスク評価を行うべく，津波堆積物を用いた過去の津波規模・履歴復元研究に精力的に取り組んでいる。

●主要業績

- 【論文】 Shinozaki T., Sawai Y., Ikehara M., Matsumoto D., Shimada Y., Tanigawa K., Tamura T. (2022) Identifying tsunami traces beyond sandy tsunami deposits using terrigenous biomarkers: a case study of the 2011 Tohoku-oki tsunami in a coastal pine forest, northern Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* 9, 29, doi: 10.1186/s40645-022-00491-6. (査読あり)
- 【論文】 Shinozaki T. (2021) Geochemical approaches in tsunami research: current knowledge and challenges. *Geoscience Letters* 8, 6, doi: 10.1186/s40562-021-00177-9. (査読あり)
- 【論文】 Shinozaki T., Sawai Y., Ito K., Hara J., Matsumoto D., Tanigawa K., Pilarczyk J.E. (2020) Recent and historical tsunami deposits from Lake Tokotan, eastern Hokkaido, Japan, inferred from nondestructive, grain size, and radioactive cesium analyses. *Natural Hazards* 103 (1), 713-730, doi: 10.1007/s11069-020-04007-7. (査読あり)

- 読あり)
4. 【論文】Shinozaki T., Goto K., Fujino S., Sugawara D., Chiba T. (2015) Erosion of paleo-tsunami record by the 2011 Tohoku-oki tsunami along the southern Sendai Plain. *Marine Geology* 369, 127-136, doi: 10.1016/j.margeo.2015.08.009. (査読あり)
  5. 【論文】Shinozaki T., Fujino S., Ikehara M., Sawai Y., Tamura T., Goto K., Sugawara D., Abe T. (2015) Marine biomarkers deposited on coastal land by the 2011 Tohoku-oki tsunami. *Natural Hazards* 77 (1), 445-460, doi: 10.1007/s11069-015-1598-9. (査読あり)

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 2 論文

篠崎鉄哉 (2023) 津波地球化学：現在の知見と今後の展望. *地質学雑誌* 129 (1), 603-613, doi: 10.5575/geosoc.2023.0026. (査読あり)

Chagué C., 篠崎鉄哉 (2023) Characteristics of the 2011 muddy and organic-rich tsunami deposits in the Tohoku region: an overview. *地学雑誌* 132 (4), 341-352, doi: 10.5026/jgeography.132.341. (査読あり)

小形祐介, 後藤和久, 篠崎鉄哉, 池原実, Chagué C., 川又隆央, 横山祐典, 宮入陽介, 石澤堯史, 手塚寛 (2023) 宮城県岩沼市における地球化学分析を用いた古環境復元と歴史津波. *地学雑誌* 132 (4), 275-296, doi: 10.5026/jgeography.132.275. (査読あり)

Yamada M., Naruse H., Kuroda Y., Kato T., Matsuda Y., Shinozaki T., Tokiwa T. (2023) Features of crevasse splay deposits and sedimentary processes associated with levee breaching by the October 2019 flood of the Chikuma River, Central Japan. *Natural Hazards* 119, 95-124. doi: 10.1007/s11069-023-06122-7. (査読あり)

Matsumoto D., Sawai Y., Tanigawa K., Namegaya Y., Shishikura M., Kagohara K., Fujiwara O., Shinozaki T. (2023) Sedimentary diversity of the 2011 Tohoku-oki tsunami deposits on the Sendai coastal plain and the northern coast of Fukushima Prefecture, Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* 10, 23, doi: 10.1186/s40645-023-00553-3. (査読あり)

#### 5 学会・外部研究会発表

箱崎真隆, 佐野雅規, 篠崎鉄哉, 山下優介, 土山祐之, 三宅美沙, 木村勝彦, 坂本稔, 国立歴史民俗博物館における超高精度年代測定総合研究拠点形成. 第24回AMSシンポジウム, 東京, 2024年3月. 口頭.

篠崎鉄哉, 地質・歴史記録から見通す巨大津波の将来像. 第8回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—, 東京, 2023年11月. 口頭.

箱崎真隆, 佐野雅規, 篠崎鉄哉, 木村勝彦, 山下優介, 土山祐之, 坂本稔, 国立歴史民俗博物館における酸素同位体比年輪年代法の新拠点形成. 日本文化財科学会第40回記念大会, 奈良, 2023年10月. ポスター.

篠崎鉄哉, 井口亮, 西島美由紀, 後藤和久, 藤野滋弘, 環境DNAで見る現世と過去の巨大津波の痕跡. 日本地質学会第130年学術大会, 京都, 2023年9月. 口頭.

古明地海杜, 篠崎鉄哉, 菅原大助, 石澤堯史, 池原実, 藤野滋弘, 有機・無機地球化学分析による869年貞観津波の浸水域復元. 日本地質学会第130年学術大会, 京都, 2023年9月. 口頭.

松本弾, 澤井祐紀, 谷川晃一郎, 行谷佑一, 宍倉正展, 楮原京子, 藤原治, 篠崎鉄哉, 2011年津波堆積物にみられる堆積学的特徴の多様性. 日本地質学会第130年学術大会, 京都, 2023年9月. ポスター.

山田昌樹, 金子稜, 杉原和, 石井咲妃, 藤野滋弘, 篠崎鉄哉, 佐竹健治, 九州地方太平洋沿岸地域における古津波堆積物. 日本地球惑星科学連合2023年大会, 千葉, 2023年5月. ポスター.

藤野滋弘, 諏訪有彩, 松本弾, 篠崎鉄哉, 南海トラフ東南海地域における地層に記録された津波の再来間隔は一定ではない. 日本地球惑星科学連合2023年大会, 千葉, 2023年5月. 口頭.

篠崎鉄哉, 藤野滋弘, 強熱減量と全有機炭素量の関係:沿岸陸域堆積物の例. 日本堆積学会2023年新潟大会, 新潟, 2023年4月. ポスター.

杉原和, 山田昌樹, 金子稜, 篠崎鉄哉, 宮城県延岡市島浦島の沿岸湿地における津波浸水履歴と数値シミュレーションを用いた波源推定. 日本堆積学会2023年新潟大会, 新潟, 2023年4月. ポスター.

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

- ③ 機構（基幹研究プロジェクト）  
人間文化研究機構光領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る，モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究」（研究代表者：陀安一郎）（2022～2027年度）
- 2 外部資金による研究  
科学研究費補助金（基盤研究（B））「古津波規模推定の高度化：地球化学マーカーで「目に見えない」津波痕跡を追う」（2023～2026年度）研究代表者  
科学研究費補助金（学術変革領域研究A）「日本列島域における古環境変遷の研究」（研究代表者：箱崎真隆，2023～2027年度）研究分担者
- 5 教育  
学位審査の副査：古明地海社（東北大学大学院理学系研究科地学専攻・修士課程）「堆積学的・地球化学的手法を用いた869年成願津波の浸水域復元の高精度化に向けた挑戦」

## 島津 美子 Shimadzu Yoshiko 准教授（2018.4～）

【学歴】金沢大学理学部卒（1999），東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻（システム保存学）修士課程修了（2001）

【職歴】東京文化財研究所修復技術部研究補佐員（2001），オランダ文化遺産研究所（Instituut Collectie Nederland）プロジェクト研究員（2004），独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所特別研究員（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2013.7），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2018）

【学位】Ph.D.（アムステルダム大学）（2015年2月取得）【専門分野】保存科学【主な研究テーマ】歴史資料の彩色技法材料の調査研究【所属学会】文化財保存修復学会，国際文化財保存学会（IIC），国際博物館会議保存国際委員会（ICOM-CC）【研究目的・研究状況】彩色材料およびその製造方法，彩色技法等を明らかにし，資料の帰属する時代や地域における技術レベルや素材の流通などを探る。現在は，国内の近世近代の彩色材料についての調査分析を実施中。

### ●主要業績

- 【論文】「近世近代における群青と洋紅」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第230集，pp.215-244，2021年12月）
- 【論文】島津美子・岡田靖「近世・近代の木彫仏像に施された彩色の技法と色材」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第230集，pp.135-167，2021年12月）
- 【論文】研究ノート「幕末明治期の錦絵に用いられた色材調査—赤色，黄色，緑色について—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第200集，pp.83-96，2016年1月）
- 【調査報告】「伊能図にみられる彩色材料と技法」（『稿本・大名家本』伊能図研究図録（平井松午・島津美子編），創元社，pp.323-330，2022年3月）
- 【報告書】Chemical and optical aspects of appearance changes in oil paintings from the 19th and early 20th century, Molart Reports 15. University of Amsterdam, 02/2015.

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 4 展示図録『歴博色尽くし』編集担当

#### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況

##### ① 歴博

基盤研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」（研究代表者：下田誠），共同研究者，2021年度～2023年度

基盤研究「高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条里図と栄山寺寺領文書を中心に—」（研究代表者：下村周太郎），共同研究者，2021年度～2023年度

- 2 外部資金による研究



科研基盤 (C) 19世紀の日本における絵具素材の移り変わり, 研究代表者, 2021年度~2023年度

科研基盤 (B) 最終版伊能図の製作過程と作図技法の解明—歴史GISを軸とした学際的アプローチ— (研究代表者: 塚本章宏 (徳島大学)), 研究分担者, 2023年度~2027年度

#### 4 主な展示・資料活動 (展示・資料・DBなど)

企画展示「歴博色尽くし」展示プロジェクト委員

総合展示第2室リニューアル委員会委員

#### 5 教育

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室 非常勤講師 (「保存科学演習」担当)

歴史民俗資料館等専門職員研修会, 講師 (保存科学概論, 収集資料の保存管理), 2023.11.17

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員 文化財保存修復学会理事

### 四 活動報告

#### 3 研究・調査プロジェクト報告

本年度も近世から近代にかけての彩色材料に関する調査研究を進めた。とくに明治前半に出版された科学技術や化学工業に関する文献資料を対象に絵具についての記述内容を調査するとともに, 明治期の絵巻や板絵, 手彩色写真の色料分析を行った。そのほか, 近世に輸入されていた顔料については輸入の記録などについて調べた。

## 鈴木 卓治 SUZUKI Takuzi 教授 (2017.1~)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023~), 生年: 1965

【学歴】電気通信大学電気通信学部情報理工学科 (1988年卒業), 電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻博士後期課程 (1994年単位取得退学), 千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻博士後期課程 (2015年修了)

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1994), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2016), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2017), 国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2017), 博物館資源センター長併任 (2019~2020), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】博士 (学術) (千葉大学) (2015年取得) 【専門分野】ソフトウェア学, 色彩と画像の数理 【主な研究テーマ】博物館における研究・展示・広報を支援するシステムの研究, とくにネットワーク, データベース, 色彩と画像の情報処理 【所属学会】情報処理学会, 日本ソフトウェア科学会, 日本色彩学会, 情報知識学会

### ●主要業績

- 【論文】Takuzi Suzuki, Misaki Kan'no, Noriko Yata, Yoshitsugu Manabe: Detection of transition of red colours on Nishiki-e printings from colour-corrected digital images, Journal of the International Color Association, Vol.14, pp.57-66 (2015-04-27)
- 【論文】鈴木卓治:「蒔絵万年筆資料のマルチアングル画像撮影ならびに展開図作成のための技術開発」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』206号, pp.39-59, 2017年3月
- 【展示】歴博常設展示の第3, 第6, 第4室各室のリニューアルならびに数多くの企画展示における情報端末の設置ならびに情報コンテンツの提供に関する業務に従事
- 【展示】2016年度企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」, 国立歴史民俗博物館, 展示プロジェクト代表, 2017年3月14日~5月7日
- 【展示】2023年度企画展示「歴博色尽くし」, 国立歴史民俗博物館, 展示プロジェクト代表, 2024年3月12日~5月7日

## ●2023年度の研究教育活動

## 一 研究業績

## 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

デジタルコンテンツ「方違えをしてみよう」（共著：鈴木 卓治, 細井 浩志, 小池 淳一），企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月3日（火）～12月10日（日）

デジタルコンテンツ「陰陽師の日常（泰忠くん日記）」（共著：鈴木 卓治, 赤澤 春彦, 小池 淳一），企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月3日（火）～12月10日（日）

デジタルコンテンツ「さまざまな暦」（共著：鈴木 卓治, 小田島 梨乃, 小池 淳一），企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月3日（火）～12月10日（日）

デジタルコンテンツ「現代の暦／いろいろカレンダー」（共著：鈴木 卓治, 下村 育世, 小池 淳一），企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月3日（火）～12月10日（日）

デジタルコンテンツ「泣不動縁起絵巻／玉藻の前（超拡大コンテンツ）」（共著：鈴木 卓治, 小池 淳一），企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」, 国立歴史民俗博物館, 2023年10月3日（火）～12月10日（日）

## 5 学会・外部研究会発表

「可搬型Web会議端末『どこでも展示解説』の開発」（共著：鈴木 卓治, 後藤 真, 関野 樹, 北岡 タマ子, 堀 浩一）「第51回画像電子学会年次大会」ハイブリッド（富山県民会館／オンライン）, 2023年8月23日

## 二 主な研究教育活動

## 4 主な展示・資料活動

[総合展示] 第1室, 第3室, 第4室, 第5・6室各展示プロジェクト委員（情報端末）

企画展示「陰陽師とは何者か—うらない, まじない, こよみをつくる—」（2023年秋開催）展示プロジェクト委員

企画展示「歴博色尽くし」（2024年春開催）展示プロジェクト代表

## 5 教育（総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど）

## 三 社会活動等

## 1 館外における各種委員

人間文化研究機構人間文化研究創発センター企画調整会議デジタル・ヒューマニティーズ(DH)部会委員(2023年7月より継続) 同部会技術検討チームメンバー (2023年7月より継続) 人間文化研究機構情報セキュリティ委員会委員 (2016年4月より継続中) 一般社団法人日本色彩学会代議員 (関東支部選出, 2021年5月より継続中) 一般社団法人日本色彩学会画像色彩研究会主査 (2014年4月より継続中) 一般社団法人日本色彩学会学会誌広報委員会委員 (2016年7月より継続中)

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

博物館資料の撮影およびオンライン展示の技術に関する研究: 資料固定・回転用治具の筐体の制作に必要な工作器具およびオンライン配信に必要な機材を購入した。

## 4 その他

歴博と研究者・来館者をつなぐさまざまなデジタル技術について, 実際に動いて利用に供するものを生み出す努力を続けたい。

**関沢まゆみ SEKIZAWA Mayumi 副館長・研究総主幹（2021～23）, 教授（2011～）**

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～）, 生年：1964

【学歴】東京女子大学文理学部史学科（1986年卒業），筑波大学大学院地域研究研究科日本文化研究コース修士課程（1988年修了）

【職歴】帝京大学文学部非常勤講師（1993），早稲田大学オープンカレッジ非常勤講師（1993），東京家政学院大学人文学部非常勤講師（1994），東京学芸大学教育学部非常勤講師（1994），筑波大学第二学群非常勤講師（1996），国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1998），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2005），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011），研究推進センター長併任（2013～2014,2017～2019），副館長併任（2021～2023），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】文学博士（筑波大学）（2001年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】社会・信仰・儀礼に関する民俗学的研究，高度経済成長と民俗の変化【所属学会】日本民俗学会，日本文化人類学会，比較家族史学会【研究目的・研究状況】高度経済成長と民俗の変化に関する共同研究による，資料情報の蓄積と論文作成，また戦後民俗学でやや等閑視されてきた比較研究法の有効性を再確認する実践例を示す試みなどが中心的課題となっている。

### ●主要業績

1. 【単著】『宮座と老人の民俗』266頁，吉川弘文館，2001年2月
2. 【単著】『隠居と定年—老いの民俗学的考察—』196頁，臨川書店，2003年3月
3. 【単著】『宮座と墓制の歴史民俗』305頁，吉川弘文館，2005年2月
4. 【単著】『現代「女の一生」—人生儀礼から読み解く—』244頁，NHK出版，2008年6月
5. 【単編著】『民俗学が読み解く葬儀と墓の変化』（国立歴史民俗博物館研究叢書2），160頁，朝倉書店，2017年3月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 1 著書（単著・共著・編著・監修）
  - 「食の「しきたり」と変容」小川直之編『講座日本民俗学5 生産と消費』朝倉書店,pp.59-72,2023年11月1日（共著）
  - 「人生と老い，その豊さ—生き直しの民俗学—」『さだまさし解体新書』大和書房,pp.127-150,2024年1月25日（共著）
  - 宮内貴久・関沢まゆみ編『国立歴史民俗博物館研究報告』241（特集号「高度経済成長と食生活の変化」）,234頁,2023年4月28日（査読有）（共編著）
- 2 論文
  - 「民俗学における食習研究の視点」『国立歴史民俗博物館研究報告』241，国立歴史民俗博物館，pp.7-23，2023年4月28日（査読有）
  - 宮内貴久・関沢まゆみ「概要」『国立歴史民俗博物館研究報告』241，国立歴史民俗博物館，pp.1-6，2023年4月30日
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
  - 「疱瘡絵（ふたつの赤絵）～色がなす文化,文化がなす色～」『企画展示「歴博色尽くし—いろ・つや・かたちのアンソロジー—」』2024年3月12日,pp.28-33
  - 「疱瘡絵」（資料解説）『企画展示「歴博色尽くし—いろ・つや・かたちのアンソロジー—」』2024年3月12日,pp.78-80
- 7 その他
  - 「先人の知恵がつまった鹿児島島の郷土菓子「あくまき」」『月刊石垣』43-2，pp.43,2023年5月10日
  - 「神聖な地で生まれた「三輪そうめん」」『月刊石垣』43-6，pp.43,2023年9月10日
  - 「めくってみよう！昔はどんな道具を使っていたの？」少年新聞社「給食ニュース」2024年3月8日（監修）

#### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ① 歴博

基幹研究「高齢多死社会における生前から死後への移行に関する総合的研究」2023～2025年度

#### 4 主な展示・資料活動

総合展示第5室・第6室リニューアル委員

総合展示第6室「高度経済成長と生活の変貌」担当

企画展示「歴博色尽くし」展示プロジェクト委員

#### 5 教育

國學院大学大学院文学研究科兼任講師（民俗学特論）

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

栃木県重要文化財保護審議委員，新宿区文化財保護審議会委員，川崎市文化財審議会委員，千葉県博物館協議会委員，昭和館運営専門委員会委員，文化審議会専門委員（文化財分科会），文化財保存活用専門委員会専門委員，江戸東京博物館資料収集委員会委員，日本台湾交流協会日本研究支援委員会委員，2027年国際園芸博覧会政府出展懇談会委員，令和5年度食文化機運醸成事業委員，科学技術・学術審議会委員など

#### 2 講演・カルチャーセンターなど

「高度経済成長と生活変化」うらやす市民大学，うらやす市，2023年4月28日

#### 3 マスコミ

「ぶらぶら美術館・博物館」BS日テレ，2023年6月28日

「後世に伝えたい日本の原風景—芳賀日出男さんの民俗写真，保存の道探る—」時事通信社，2023年4月15日配信，（取材協力）

「後世に伝えたい日本の原風景—芳賀日出男さんの民俗写真，保存の道探る—」一般社団法人内外情勢調査会会報誌vol.196『J2 トップ』7月号，2023年6月25日，（取材協力）

「番外天声人語「初盆」」朝日新聞，2023年8月27日（取材協力）

「棺桶も「自分らしさ」表現」読売新聞，2023年8月29日（取材協力）

#### 4 社会連携（国内）

##### ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）

人間文化研究機構シンポジウム「戦争をめぐる生と死」趣旨説明（代読）およびパネラー参加，コモレ四谷タワーコンファレンス，2024年1月28日

## 高科 真紀 TAKASHINA Maki 特任助教（2020.7～2024.3）

【学歴】東京学芸大学教育学部（2004-2008），東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程（2008-2010），学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程（2020年6月満期取得退学）

【職歴】国文学研究資料館機関研究員（2013-2015），国文学研究資料館プロジェクト研究員（2016-2017），学習院大学科研費研究員（2017），東京学芸大学非常勤講師（2017），日本学術振興会特別研究員DC2（2018-2019），人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員（2020.7-2022.3），人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員（2022.8-2024.3），国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2020.7-2024.3）

【学位】修士（教育学）【専門分野】資料保存論，アーカイブズ学【主な研究テーマ】資料の保存環境管理，民間所在資料の保全と活用【所属学会】文化財保存修復学会，日本アーカイブズ学会，デジタルアーカイブ学会，アート・ドキュメンテーション学会，日本民俗学会

### ●主要業績

- 【著書（分担執筆）】下重直樹・湯上良編『アーキビストとしてはたらく：記録が人と社会をつなぐ』（担当：分担執筆，範囲：pp.214-227：「第11章 アーキビストの研究活動と社会実践」），山川出版社，2022年4月1日（ISBN：4634591251）
- 【論文】「写真メディアを軸とした沖縄祭祀アーカイブズ：写真家・比嘉康雄資料を事例に」『アート・ドキュメンテーション研究』29，pp.3-16，アート・ドキュメンテーション学会，2021年5月
- 【著書（分担執筆）】“Preservation and Conservation of Japanese Archival Documents in the Vatican Library”，Mutsumi Aoki・Núñez Gaitán，Ángela編，（担当：分担執筆，範囲：pp.111-131：Introducing the Newest

Salvage and Conservation Techniques Used after the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami), 2019年12月, バチカン図書館

4. 【論文】「収蔵庫を対象としたアーカイブズの照明管理—ISO・アメリカ・イギリス・日本の事例」, 2019年2月, 『GCAS Report』 vol.8, pp.35-55, 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻, 2019年2月
5. 【論文】「和書の展示技法と保存環境制御の実践—「和書のさまざま」展を素材として—」『国文学研究資料館 紀要 文学研究篇』第41号, pp.111-134, 国文学研究資料館, 2015年3月
6. 【研究発表】“Case verification of the LED illumination at the museum in Japan”, 2018年, LED Museum Lighting and Conservation Science 2018 (LMLCS2018), Gyeongju Hwabaek International Convention Center (大韓民国)

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

1. 【論文】「地域における記憶の継承と記録の利活用：エリザベス・サンダース・ホームを事例に」『国立歴史民俗博物館研究報告』第246集, 国立歴史民俗博物館, 2024年3月
2. 【MISC】「分科会1 デジタルアーカイブと博物館DX—特集 第71回全国博物館大会報告」『博物館研究』第59巻第3号, 2024年3月
3. 【論文(共著)】阿久津美紀・高科真紀・蓮沼素子「民間所在アーカイブズにおける写真の公開・活用時の被写体への配慮に関する諸課題—比嘉康雄が写した地域写真を中心に」『DNP文化振興財団 学術研究助成紀要』第5号, DNP文化振興財団, 2023年11月
4. 【MISC】「写真がつなぐ地域の記憶：戦後沖縄写真アーカイブズの公開と活用に向けて」『新たな社会の創発を目指して』Vol.1, 人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」, 2023年10月30日

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

##### ③ 機構(基幹研究プロジェクト)

- ・広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」, 主導機関：国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館, 「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発(国立歴史民俗博物館)」, 「地域文化の効果的な活用モデルの構築(国立民族学博物館)」, 「人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築(国文学研究資料館)」, 2022年度～
- ・機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」, 国立歴史民俗博物館, 2022年度～
- ・ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」, 2023年度～
- ・共創促進研究日本関連在外資料調査研究「日本・バチカン関係アーカイブズの情報基盤構築に関する研究」, 国文学研究資料館, 2022年度～
- ・国文学研究資料館基幹研究「アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究」, 2022年度～ 2 外部資金による研究

#### 2 外部資金による研究

- ・「沖縄祭祀写真資料を対象とした〈伝統的文化表現〉の保護と記録のアクセス」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (2023年4月～2026年3月), 研究代表者
- ・「戦後日本の「農村メディア」と地域社会の総合的研究：家の光協会所蔵資料を中心に」(研究代表者：安岡健一) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) (2023年4月～2027年3月), 研究分担者
- ・「朝鮮海出漁資料からみた植民地社会の実態研究」(研究代表者：松田陸彦) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) (2023年4月～2027年3月), 研究分担者
- ・「〈沖縄経験〉を軸とした戦後沖縄写真に関する表象文化の発展的研究」(研究代表者：小屋敷琢己) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (2020年4月～2024年3月), 研究分担者

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

日本アーカイブズ学会 委員 (研究部会)

## 2 講演会・シンポジウムなど

- ・野村の地域文化をつなぐ会シンポジウム「歴史・文化を活かした地域と復興を考える」, 愛媛県本家緒方蔵, 2023年12月9日
- ・第71回全国博物館大会分科会1「デジタルアーカイブと博物館DX」コーディネーター・シンポジウム「博物館法改正元年一つながり, 交差する」パネリスト, 千葉市文化センターアートホール, 2023年11月16日

## 高田 貫太 TAKATA Kanta 教授 (2021.1～), 広報連携センター長 (2022～2023)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～), 生年: 1975

【学歴】岡山大学文学部史学科 (1997年卒業), 岡山大学大学院文学研究科史学専攻修士課程 (1999年修了), 大韓民国慶北大学校大学院考古人類学科博士課程 (2004年修了)

【職歴】大韓民国慶北大学校考古人類学科非常勤講師 (2003), 岡山大学埋蔵文化財センター助手 (2004), 奈良文化財研究所都城発掘調査部研究員 (2006), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2011), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2021.1), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2021.1), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】文学博士 (大韓民国慶北大学) (2005年取得) 【専門分野】考古学 【主な研究テーマ】古墳時代における日本列島と朝鮮半島の交流史 【所属学会】韓国嶺南考古学会, 韓国考古学会 【研究目的・研究状況】近年は, 朝鮮半島柴山江流域と倭の交流史について日朝双方の視点からその特色を浮き彫りにすることに努めている。

### ●主要業績

1. 【単著】『古墳時代の日朝関係』吉川弘文館, 363頁, 2014年3月
2. 【単著】『海の向こうから見た倭国』講談社, 304頁, 2017年2月
3. 【単著】『「異形」の古墳 朝鮮半島の前方後円墳』KADOKAWA, 286頁, 2019年9月
4. 【単著】『アクセサリーの考古学 倭と古代朝鮮の交渉史』吉川弘文館, 273頁, 2021年5月1日
5. 【論文】古墳出土龍文透彫製品の分類と編年 (『国立歴史民俗博物館研究報告』第173集, pp.121-141, 2013年3月) (査読付き)

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 1 著書 (単著・共著・編著・監修)
  - 「古墳時代の日朝交渉における海の道」『世界遺産宗像・沖ノ島 みえてきた「神宿る島」の実像』, 吉川弘文館, pp.101-128, 2024年2月20日 (分担執筆)
- 2 論文
  - 「日本列島出土の朝鮮半島系文物からみた倭と加耶の交渉様態」『東アジアの開かれた空間, 加耶』, 韓国国立金海博物館・加耶史学会, pp.73-98, 2023年5月26日 (日本語・韓国語)
  - 「相作馬塚古墳の竪穴式石室からみた讃岐地域と朝鮮半島のつながり」『相作馬塚古墳Ⅲ』, 高松市教育委員会, pp.89-99, 2024年3月31日
- 5 学会・外部研究会発表
  - 「日本列島出土の朝鮮半島系文物からみた倭と加耶の交渉様態」2023年度国立金海博物館加耶学術祭典世界遺産「東アジアの開かれた空間, 加耶」, 2023年5月26日

#### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ① 歴博
    - 基盤研究「先史から近代における日朝交流史像の再構築」(2022～2024年度) 共同研究員
  - 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究) 基盤研

究 (B)「航路・寄港地から見た倭と古代朝鮮の交渉史に関する日韓共同研究」(2022～2025年度) 研究代表者  
高田 貫太

### 3 国際交流事業

「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅲ」(研究代表者：高田貫太，相手機関：韓国国立中央博物館，  
2022～2024年度) ※2022年4月に学术交流協定を延長

### 4 主な展示・資料活動

総合展示第1室展示プロジェクト委員

企画展示『歴博色尽くし』展示プロジェクト委員

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

韓国嶺南考古学会誌『嶺南考古学』編集委員

韓国湖南考古学会誌『湖南考古学』編集委員

韓国中央文化財研究院発行専門雑誌『中央考古』編集委員

韓国国立中央博物館発行専門雑誌『考古誌』編集委員

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業 委託研究者

### 2 講演・カルチャーセンターなど

「古墳時代における九州北部と朝鮮半島とのつながり」令和5年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座 2023  
年7月29日

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

申請者が科研費や歴博共同研究において取り組んでいる先史・古代の日朝関係における航路・寄港地について，  
朝鮮半島西・南海岸地域の調査研究を行った。また2023年度後半から，本研究に関連する一般書の執筆を進め  
ている。現在，1／4程度終了した。

## 田中 大喜 TANAKA Hiroki, 准教授 (2014.4～2024.3)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授 (2014.10～2024.3)，生年：1972

【学歴】学習院大学文学部史学科 (1996年3月卒業)，学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程 (1999  
年3月修了)，学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程 (2005年3月修了) 【職歴】学習院大学文学  
部助手 (2005年4月～2006年3月)，東京大学史料編纂所研究機関研究員 (2005年4月～2006年3月)，駒場東邦中  
学校・高等学校教諭 (2006年4月～2014年3月)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研  
究部准教授 (2014年4月～2024年3月)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授  
併任 (2014年10月～2024年3月) 【学位】博士 (史学，学習院大学) (2005年取得) 【専門分野】日本中世史【主な  
研究テーマ】中世武士団・武家政権論，中世地域社会論【所属学会】歴史学研究会，日本史研究会，日本歴史学会，  
地方史研究協議会，鎌倉遺文研究会，学習院史学会【研究目的・研究状況】武士団・武家政権の研究を通して，お  
よそ700年間にわたり武士の支配が継続した歴史を持つ日本社会の特質を追究することを目的とする。

### ●主要業績

1. 【単著】『中世武士団構造の研究』376頁，校倉書房，2011年8月
2. 【単著】『新田一族の中世「武家の棟梁」への道』230頁，吉川弘文館，2015年9月
3. 【単著】『対決の東国史3 足利氏と新田氏』226頁，吉川弘文館，2021年12月
4. 【編著】田中大喜『中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る』352頁，勉誠出版，2021年8月
5. 【編著】田中大喜『国立歴史民俗博物館研究報告245集 中世日本の地域社会における武家領主支配の研究』  
434頁，国立歴史民俗博物館，2024年2月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

## 1 著書

『国立歴史民俗博物館研究報告245集 中世日本の地域社会における武家領主支配の研究』（編著），国立歴史民俗博物館，pp.434,2024年2月29日

## 2 論文

「文献史料にみる「鎌倉中」御家人の鎌倉屋敷—松吉里永子報告に寄せて—」『貿易陶磁研究』43号，pp.75-78，日本貿易陶磁研究会，2023年9月16日（査読無）

「本拠景観から捉える中世武士の地域支配」『深化する歴史学 史資料からよみとく新たな歴史像』，pp.72-79，大月書店，2024年1月24日（査読無）

「肥前千葉氏の本拠形成と領主支配」『国立歴史民俗博物館研究報告』245集，pp.181-202，国立歴史民俗博物館，2024年2月29日（査読有）

「中世益田の武家領主本拠調査」（共著）『国立歴史民俗博物館研究報告』245集，pp.301-398，国立歴史民俗博物館，2024年2月29日（査読有）

「吉川家文書「占術・暦注雑書」および紙背文書について」（共著）『国立歴史民俗博物館研究報告』247集，pp.241-287，国立歴史民俗博物館，2024年3月29日（査読有）

「足利氏の源氏嫡流化への道のり—鎌倉御家人から将軍家へ—」『學校』22号，pp.21-42，史跡足利学校事務所，2024年3月31日（査読無）

## 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

「新たに発見された紙背文書」『陰陽師とは何者か—うらない，まじない，こよみをつくる』，p.75，小さ子社，2023年10月3日

「中世益田・武家領主本拠地図」，「中世小城・肥前千葉氏本拠地図」国立歴史民俗博物館（Khirinより公開）

## 7 その他

「現地調査から探る中世武士の地域支配」『REKIHAKU』9号，pp.80-84，文学通信，2023年6月26日

「蒙古襲来」『歴史街道』令和5年10月号，pp.40-45，PHP研究所，2023年9月6日

## 二 主な研究教育活動

## 1 主な共同研究等参加状況

## ① 歴博

「中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究」研究代表者，2022～2024年度

## 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究（A）「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」（研究代表者：村木二郎）研究分担者，2022～2026年度

科学研究費基盤研究（C）「中世東国武家本領の構造的特質に関する復元的研究」（研究代表者：高橋修）研究分担者，2021～2024年度

科学研究費基盤研究（C）「香取文書関係資料の文化財としての保存に向けた発展的研究」（研究代表者：鈴木哲雄）研究分担者，2023～2025年度

## 4 主な展示・資料活動

特集展示「中世公家の〈公務〉と生活—広橋家記録の世界—」展示代表者

企画展示「陰陽師とは何者か—うらない，まじない，こよみをつくる—」（展示代表者：小池淳一）展示プロジェクト委員

総合展示第2室リニューアル委員会委員（副代表）

## 5 教育

國學院大学文学部兼任講師，「史料講読Ⅰ・Ⅱ」担当

明治大学文学部兼任講師，「日本史科学Ⅰ」担当

日本大学文学部非常勤講師，「日本史基礎実習」・「日本史ゼミナール」担当

東邦大学理学部非常勤講師，「教職実践演習（第2ユニット）」担当

総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース学位審査（副査）担当

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科特別講義講師，「国立歴史民俗博物館ワークショップ」担当

筑波大学附属高等学校「総合的な探究の時間」評価講師

## 三 社会活動等



## 2 講演・カルチャーセンターなど

「特集展示「中世公家の〈公務〉と生活—広橋家記録の世界—」への招待」, 歴博友の会歴史学講座, 2023年4月3日

「肥前国小城郡に移住した千葉氏—本拠と地域支配—」, 令和5年度千葉古文書の会公開講座, 2023年12月9日  
「下野足利氏の中世」早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校, 2023年10月16日・10月30日・11月13日・11月27日・12月4日

「中世の古文書を読む」朝日カルチャーセンター千葉, 通年

「中世の古文書を読む」産経学園ユウカリが丘校, 通年

## 3 マスコミ

「新田義貞・忠義を貫いた名将の悲劇」, BSイレブン「偉人・敗北からの教訓」第27回, 2024年1月23日

「田中大喜の新書速報」, 朝日新聞(朝刊), 2023年4月29日・6月3日・7月8日・8月12日・9月16日・10月21日・11月25日・2024年1月13日・2月17日・3月23日

## 4 社会連携

## ③ 講演会・シンポジウム

「足利氏の源氏嫡流化への道のり—鎌倉御家人から将軍家へ—」, 令和5年度足利学校アカデミー, 2023年6月24日

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

萩博物館・山口県文書館所蔵の『中国行程記』の調査・撮影を行い, 安芸国沼田荘故地の地理情報を収集した。また, 同荘故地の現地調査を実施し, 沼田小早川氏の本拠景観復元に向けた情報を収集した。

## 土山 祐之 TSUCHIYAMA Yushi テニユアトラック助教(2023～)

生年: 1988年

【学歴】早稲田大学文学部(2011.3)早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻日本史学コース博士前期課程(2013修了)早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻日本史学コース博士後期課程(2019単位取得満期退学)

【職歴】日本学術振興会特別研究員(DC2)(2014)東京大学史料編纂所学術専門職員(2019.4)国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員(2022.4)同テニユアトラック助教(2023.4)

【学位】修士【専門分野】日本中世史【主な研究テーマ】環境史, 災害史, 荘園史, 村落史, 景観変遷史【所属学会】歴史学研究会, 日本史研究会, 地方史研究協議会, 日本古文書学会, 中世史研究会, 鎌倉遺文研究会

## ●主要業績

- 1 【論文】「現地調査にみる新見荘三職—西方・金谷地区の水利と地名」(海老澤衷・酒井紀美・清水克行編『中世の荘園空間と現代 備中国新見荘の水利・地名・たたら』勉誠出版, 2014年)
- 2 【論文】「美濃国大井荘の土地利用と水害—都市化地域における現地調査の可能性—」(海老澤衷編『中世荘園村落の環境歴史学—東大寺領美濃国大井荘の研究』吉川弘文館, 2018年)
- 3 【論文】「大和国能登・岩井川流域における用水相論の展開—古気候データの活用から—」(『史観』180, 2019年)
- 4 【論文】「東寺領山城国上久世荘の自然災害—古気候データと史料の検討から—」(中塚武監修, 伊藤啓介・田村憲美・水野章二編『気候変動から読みなおす日本史 第4巻 気候変動と中世社会』臨川書店, 2020年)
- 5 【論文】「東寺領撰津国垂水荘における「興行」について」(『地方史研究』416, 2022年)

## ●2023年度の研究教育活動

## 一 研究業績

- 1 著書(単著・共著・編著・監修)
- 2 論文(査読あり, なしを明記)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など

「書評 高橋傑『中世荘園の検注と景観』」(『日本史攷究』47, 2023年11月)

「史料紹介 国立公文書館所蔵内閣文庫大乘院文書『御参宮雑々記(文永二年)』」(『東京大学史料編纂所研究

紀要』34, 2024年3月, 藤原重雄氏と共著)

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
- 7 その他(『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

「『環境決定論』批判を乗り越えるために」(『REKIHAKU 顔・身体をもつ道具たち』文学通信, 2024.2)

## 二 主な研究教育活動(共同研究, 調査, 展示, 教育等)

- 1 主な共同研究等参加状況(歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)
  - ① 歴博(基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)
 

基盤研究「中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究」(代表: 田中大喜)
  - ② 他の機関
  - ③ 機構(基幹研究プロジェクト)
- 2 外部資金による研究(科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自体体による研究)
 

科学研究費研究活動スタート支援「環境的要因と人為的要因との双方向検討による村落景観変遷史の研究」(代表: 土山祐之) 2022—2023年度

科学研究費基盤C「排他的なナワバリを伴う村共同体の形成—生業論と景観論の融合から—」(代表: 貴田潔) 研究分担者, 2023—2026年度
- 3 国際交流事業(国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)
- 4 主な展示・資料活動(展示・資料・DBなど)
 

総合展示第2室リニューアル委員会委員
- 5 教育(総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)
 

慶應義塾大学文学部非常勤講師

## 四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告
 

広島県安芸高田市上入江・下入江地区にて, 水利灌漑調査と聞き取り調査を実施し, 景観変遷に関わる情報を収集した。また, 景観変遷を可視化するため, 調査で得られた情報をGIS上に表示できるよう電子データ化し, 公開するための準備を進めた。

## 中村 耕作 NAKAMURA Kousaku 准教授(2022～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術専攻日本歴史研究コース准教授(2023～)

【学歴】國學院大學文学部史学科(2005年卒業), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程前期(2007年修了), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程後期(2009年単位取得満期退学)

【職歴】國學院大學文学部助手(2009), 國學院大學栃木短期大学日本文化学科専任講師(2014), 國學院大學栃木短期大学日本文化学科准教授(2017), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2022)

【学位】博士(歴史学)(國學院大學)(2010年取得)【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】縄文土器・大形石棒・廃屋墓を対象とする儀礼行為・象徴性の研究【所属学会】日本考古学協会, 考古学研究会, 縄文時代文化研究会, 物質文化研究会, 古代学協会, 全日本博物館学会, 日本音楽教育学会, 栃木県考古学会, 神奈川県考古学会【研究目的・研究状況】縄文土器の異形化・顔身体化から象徴認識を検討している。

### ●主要業績

1. 【単著】『縄文土器の儀礼利用と象徴操作』アム・プロモーション, 総309頁, 2013年
2. 【共編著】『REKIHAKU』011(特集・顔・身体が付いた道具たち)国立歴史民俗博物館・文学通信, 総112頁, 2024年
3. 【編著】『縄文時代異形土器集成図譜 I』國學院大學考古学研究室, 総120頁, 2013年
4. 【共編著】『平川遺跡出土品整理報告書』國學院大學栃木短期大学, 総80頁, 2023年

5. 【共著】『縄文人の石神～大形石棒にみる祭儀行為～』谷口康浩編，六一書房，総239頁，2010年

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 2. 著書

共編著『REKIHAKU』011（特集・顔・身体が付いた道具たち）国立歴史民俗博物館・文学通信，総112頁，2024年

#### 2 論文

単著「北海道における儀礼用土器の動向」『季刊考古学』別冊42，pp.47-50，2023年6月

単著「北関東の縄文時代後・晩期顔身体土器」『利根川』45，pp.156-163，2023年6月

単著「勝坂式土器の複雑化と西原大塚遺跡出土の顔面把手・蛇体把手付土器」『西原大塚遺跡発掘調査報告書』志木市教育委員会，pp.319-332，2024年3月

#### 3 調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など

共著「栃木県栃木市中根八幡遺跡第9次発掘調査概要報告」『文化財学報』第42集，pp.13-16，2024年3月

#### 5 学会・外部研究会発表

共著「新しい価値の創出を目指した縄文土器を用いた協働的な音楽づくりの試み」日本考古学協会第89回総会，2023年5月

共著「考古学と音楽教育の連携3 —「教科教育法音楽」等の教科横断的な実践から—」日本音楽教育学会第54回大会，2023年11月

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

##### ① 歴博

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」（代表：上野祥史）

基盤研究（館蔵資料型）「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」（代表：阿部昭典，副代表：中村）

##### ② 他の機関

國學院大學研究開発推進機構共同研究員

東京外国語大学アジアアフリカ文化研究所共同研究「身体性の人類学」共同研究員

##### ③ 機構

ネットワーク型機関研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点「共創的資料保存の構築に向けたネットワーク研究拠点」（代表者：天野真志）

#### 2 外部資金による研究

科研費挑戦的研究（萌芽）「縄文土器文様を奏でる：考古学と音楽教育の協同による新感覚体験学習プログラムの創出」研究代表者（2020年度～2023年度）

科研費学術変革(A)「本州・四国・九州域における先史人類および文化の形成」研究分担者（2023年度～2027年度）

#### 4 主な展示・資料活動

資料調査研究プロジェクト「歴博館蔵縄文時代資料図録の作成」代表者（2022年度～2026年度）

データベース作成「縄文時代異形土器」

総合展示第1展示室REKIHAKU011連動企画「顔身体をもつ道具たち」

#### 5 教育

國學院大學文学部兼任講師「史学基礎演習B」・「考古学各論Ⅱ」

駒沢大学大学院非常勤講師「考古学特講Ⅳ」

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

考古学研究会 全国委員 日本考古学協会 社会科歴史教科書等検討委員会委員・事務担当

縄文時代文化研究会 運営編集委員

公益財団法人とちぎ未来づくり財団 評議員

伊奈町文化財保護委員会 委員

調布市国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会 委員

2 講演・カルチャーセンターなど

朝日カルチャーセンター千葉校「顔のついた縄文土器—中期編—」2023年7月

NHK文化センター柏教室「土器と土偶」2023年8月

朝日カルチャーセンター千葉校「顔のついた縄文土器—後晩期編—」2023年9月

歴博友の会講演会「大形石棒をめぐる縄文人の象徴行為」2023年12月

4 社会連携

② 共同研究

座間市教育委員会：座間市蟹ヶ澤遺跡出土顔面把手（両面）に関する調査研究

③ 講演会・シンポジウム

講演「顔・身体をもった縄文土器」国立歴史民俗博物館第444回歴博講演会，2023年7月

講演「文化の交点としての栃木の縄文文化」放送大学栃木学習センター公開講演会，2023年8月

講演「縄文土器のカタチと取り扱いにみる象徴性」同志社大学歴史資料館公開講座「歴史の中の象徴と儀礼」，2023年8月

講演「土器から見る縄文時代後期の社会と文化」じょーもびあ宮畑2023年度第2回宮畑講演会，2023年9月

講演「縄文時代の儀礼と阿久遺跡」ハヶ岳美術館返還記念企画展「縄文前期の巨大祭祀場 阿久」関連講演会，2023年10月

講演「顔と蛇がついた土器」第16回世田谷区遺跡調査・研究発表会，2023年11月

講演「加曾利貝塚の遺物に見る縄文の精神世界」加曾利貝塚ガイドの会創立20周年記念講演会，2024年2月

講演「くにたちの縄文時代—顔面把手と大形石棒を中心に—」くにたち郷土文化館講演会，2024年3月

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

縄文土器にみられる顔身体造形の象徴性とその地域性・地域間関係について検討した。関連する未図化資料のうち国立市南養寺遺跡出土の両面顔面把手については館蔵の複製品を用いて3Dデータを作成し、実測図化を行った。次年度開始の共同研究ならびに今後の館蔵資料の活用に資することができるほか、本年度末に原品所蔵機関（くにたち郷土文化館）での講演という形で一般向けにも成果を示した。

仁藤 敦史 NITO Atsushi 教授（2008～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～）

【学歴】早稲田大学第一文学部日本史学専攻（1982年卒業），早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士前期課程（1984年修了），早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士後期課程（1989年満期退学）

【職歴】早稲田大学第一文学部助手（1989），国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（1991），助教授（1999），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）【役職】総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長（2012-13），広報連携センター長（2017-2018）【その他】国立歴史民俗博物館三十年史編纂委員長（2011-2014）【学位】博士（文学）（早稲田大学）（1998年取得）【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】都城制成立過程の研究／Establishment process of Japanese ancient capital cities，古代王権論／Theoretical study of ancient sovereignty，古代地域社会論／Ancient local societies【所属学会】歴史学研究会，木簡学会，史学会，日本史研究会，条里制・古代都市研究会

●主要業績

1. 【著書】『古代王権と支配構造』吉川弘文館，361頁，2012年3月
2. 【原著論文】「倭国の成立と東アジア」（『岩波講座 日本歴史』1 原始・古代1，岩波書店，pp.137-167,2013年11月）（査読有）
3. 【著書】『藤原仲麻呂』中央公論新社，中公新書，258頁，2021年6月25日
4. 【著書】『東アジアからみた「大化改新」』，吉川弘文館，213頁，2022年9月1日

5. 【著書】『古代王権と東アジア世界』吉川弘文館, 340頁, 2024年2月20日

●2023年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

単著『古代王権と東アジア世界』吉川弘文館, 364頁, 2024年2月20日

2 論文

「七世紀における倭国の苑地と東アジア—須弥山・呉橋・猿石の思想的背景—」堀裕・三上喜孝・吉田歆編著『東アジアの王宮・王都と仏教』勉誠社, pp.190-21, 2023年10月

「格式からみた国の等級」『国立歴史民俗博物館研究報告』244, pp.247-265, 2024年3月

5 学会・外部研究会発表

「『日本書紀』による「任那」領域考」早稲田古代史研究会, 早稲田大学文学部, 2023年7月29日

「七世紀の政治過程再考—東アジア・改新・女帝—」七世紀史研究会報告, 京都古代学協会, 2024年2月10日

「古代天皇の歴史—神功皇后から雄略まで—」行田ロータリークラブ創立記念講演会, 行田市教育文化センター

「みらい」文化ホール, 2024年2月23日

「『延喜式』からみた陵墓の体系—陵墓と前方後円墳—」陵墓名称ワーキング報告, ブーム, 2023年12月25日

7 小論

「加耶と倭国の交流史」『歴史民俗博物館研究報告』248, pp.119-124, 2024年3月

「加耶史料集(稿)」『歴史民俗博物館研究報告』248, pp.145-152, 2024年3月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

館蔵資料型基盤研究「高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条里図と栄山寺寺領文書を中心に—」副代表(2021~2023年度)

機構基幹研究プロジェクト「延喜式のデジタル化技術による汎用化」広領域連携型基幹研究プロジェクト基「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」共同研究員(2022~2027年度)

歴博基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」共同研究員(2023年度~2025年度)

研究報告「殯宮儀礼と「不改常典」法—古代前半期の「先代」意識—」奈良国立博物館, 2024年11月6日

2 外部資金による研究

桜井市纏向学研究センター共同研究員(2013年度~)

4 主な展示・資料活動

正倉院文書複製事業

5 教育

明治大学大学院文学研究科兼任講師(日本史特論)通年

早稲田大学大学院文学研究科非常勤講師(日本史学特論)通年

三 社会活動等

1 館外における各種委員

条里制・古代都市研究会評議員正倉院文書研究会委員

奈良県桜井市纏向学研究センター共同研究員

島根県古代文化センター企画運営委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「七世紀末の戦乱と国家意識」全5回, トンボの眼連続講座, 2023年4月2日・5月3日, ZOOM講座

「奈良時代史」全3回, 朝日カルチャーセンター立川, 立川ルミネ, 2023年4月6日・5月11日・6月8日, ハイブリット講座

「大化改新論の現状と課題—東アジア情勢と倭国—」明治大学・博物館友の会「飛鳥・藤原を学ぶ会」全二回後編, 明治大学博物館, 2023年6月29日

「加耶と倭国の古代史—任那日本府の虚実—」全5回, トンボの眼連続講座, 2023年6月4日・7月6日・8月6日・9月10日・10月8日, ZOOM講座

- 「加耶と倭国の古代史」早稲田イクステンションセンター，八丁堀校舎，2023年7月20日・7月27日・8月3日
- 「加耶と倭国の古代史」全2回，朝日カルチャーセンター立川，立川ルミネ，ハイブリット講座，2023年8月10日・9月14日
- 「卑弥呼の王権と外交」朝日カルチャーセンター新宿，新宿住友ビル，2023年10月4日，ハイブリット講座
- 「入門解説・奈良時代史」全5回，トンボの眼連続講座，2023年11月12日・12月3日・2024年1月6日・1月28日・3月10日，ZOOM講座
- 「邪馬台国論の現在」全五回，埼玉県生涯学習講座，いきいき埼玉県民活動センター，2023年12月17日・2024年1月7日・14日・2月4日・11日
- 「加耶と倭国の古代史—百済三書編—」早稲田イクステンションセンター，八丁堀校舎，2024年1月11日・18日・25日
- 「磐井の乱」，朝日カルチャーセンター立川，立川ルミネ，2024年1月24日，ハイブリット講座
- 「文献から見た加耶（任那）諸国の範囲とその滅亡過程」トンボの眼対談&討論『倭国と加耶の古代史—その成立から滅亡まで—』，品川区立中小企業センター，2024年2月3日

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

古代の王権および都城を研究するため，木簡学会への参加により最新の発掘情報および出土文字資料の情報収集をすることができた。また，関係書籍を購入した。

## 箱崎 真隆 HAKOZAKI Masataka 准教授（2022.4～） 生年：1982

【学歴】福島大学教育学部生涯教育課程環境科学教育コース（2005年卒業），福島大学大学院教育学研究科教科教育専攻（2008年修了），東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命科学専攻（2012年修了）

【職歴】国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究員（2012），国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究機関研究員（2014），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2019），同科研費支援研究員（2019.4～6），同プロジェクト研究員（2019.7～2022.3），同准教授（2022.4～）

【学位】博士（生命科学）（東北大学）（2012年取得）

【専門分野】年輪年代学，放射性炭素年代学，文化財科学，古生態学

【主な研究テーマ】北東アジアの木質文化財，災害由来の自然埋没木の高精度年代決定，年輪幅および酸素同位体比年輪年代法の長期標準年輪曲線の確立，炭素14年代法における北半球標準および日本版暦年較正曲線の基盤データの獲得，過去3万年間にわたる気候復元・太陽活動復元

【所属学会】日本植生史学会，日本生態学会，日本文化財科学会，日本地球惑星科学連合，日本第四紀学会，日本AMS研究協会，日本「樹木年輪」研究会

【研究目的・研究状況】2010年代に日本で確立された酸素同位体比年輪年代法と炭素14スパイクマッチングにより，北東アジアの年輪年代測定の最大の障害となっていた「樹種の壁」が打ち破られた。これにより，様々な地域・時代の木質文化財，自然埋没木に誤差0年の年代情報の付与が可能となった。年輪酸素同位体比は気候（主に降水量）復元に，年輪炭素14濃度は太陽活動復元に応用できる。2つの新しい年輪年代法を駆使して，北東アジアの歴史事象と環境変動との関係を明らかにする。

#### ●主要業績

- 【論文】Hakozaki M, Miyake F, Nakamura T, Kimura K, Masuda K, Okuno M, Verification of the annual dating of the 10th century Baitoushan Volcano eruption based on AD 774-775 carbon-14 spike, Radiocarbon, 60 (1), pp.261-268. 2018.
- 【論文】Miyake F, Masuda K, Nakamura T, Kimura K, Hakozaki M, Jull T, Lange T, Cruz R, Panyushkina I, Baisan C, Salzer M, Search for annual carbon-14 excursions in the past, Radiocarbon, 59 (2), pp.315-320. 2017.
- 【論文】Hakozaki M, Kimura K, Tsuji S, Suzuki M, Tree-ring study of a late Holocene forest buried in the Ubuka Basin, southwestern Japan, IAWA Journal, 33 (3), pp.287-299. 2012.
- 【著書】箱崎真隆，橋本雄太編，REKIHAKU 9号 特集：推定不能，112p，文学通信，2023.

5. 【論文】箱崎真隆, 酸素同位体比年輪年代法による韓国南部古代資料の高精度年代測定, 国立歴史民俗博物館研究報告, 231, pp.299-315, 2022.

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 1 著書

箱崎真隆, 橋本雄太編, REKIHAKU 9号 特集: 推定不能, 112p, 文学通信, 2023年6月26日第1刷発行  
ISBN: 9784867660140

#### 2 論文

「No signature of extreme solar energetic particle events in high-precision 14C data from the Alaskan tree for 1844–1876 CE」『Journal of Space Weather and Space Climate』, <https://doi.org/10.1051/swsc/2023030>, 2023年 (査読有)

「An Archaeological Radiocarbon Database of Japan」『Journal of Open Archaeology Data』, <https://doi.org/10.5334/joad.115>, 2023年 (査読有)

「LASER ABLATION SYSTEM WITH A DIODE LASER FOR AMS 14C MEASUREMENT OF ORGANIC MATERIALS」『RADIOCARBON』, <https://doi.org/10.1017/RDC.2023.71>, 2023年 (査読有)

「RADIOCARBON DATING OF TREE RINGS FROM THE BEGINNING AND END OF THE YAYOI PERIOD, JAPAN」『RADIOCARBON』, <https://doi.org/10.1017/RDC.2023.50>, 2023年 (査読有)

「W4トレンチ検出の根株と幹材の樹種同定・酸素同位体比年輪年代測定・放射性炭素年代測定」『若狭町文化財調査報告書 第5集「脇袋古墳群 国史跡 西塚古墳 調査報告編・総括編」』, pp.100-102, 2024年3月

#### 5 学会・外部研究会発表

箱崎真隆, 樹木年輪にもとづく高精度年代研究の現在地, 日本地球化学会第70回年会, 2023年9月21日, 東京海洋大学 (招待講演)

Fusa Miyake, Masataka Hakozaki, Hisashi Hayakawa, Naruki Nakano, Lukas Wacker, Investigation of extreme solar energetic particle events in the 19th century, 2023 Sun-Climate Symposium, 2023年10月16日, Flagstaff (招待講演)

箱崎真隆, 推定不能一樹木に刻まれた太陽巨大爆発の謎一, 第446回歴博講演会, 2023年9月9日, 国立歴史民俗博物館

箱崎真隆, 世界をリードする日本の高精度年代研究と歴博の役割, 2023年度歴博友の会第1回情報資料学講座, 2023年7月7日, 国立歴史民俗博物館

箱崎真隆, 誤差0年の時間軸-日本がリードする新しい年輪年代法の現在地-, 第2回 人・モノ・自然シンポジウム, 2023年12月21日, 総合地球環境学研究所

林 忻, 箱崎真隆, 能城修一, 佐野雅規, 李 貞, 中塚 武, 東京都港区我善坊谷遺跡出土木材の酸素同位体比年代測定および産地推定結果, 第38回日本植生史学会大会, 2023年12月2日, 鹿児島大学

箱崎真隆, 佐野雅規, 篠崎鉄哉, 木村勝彦, 山下優介, 土山祐之, 坂本稔, 国立歴史民俗博物館における酸素同位体比年輪年代法の新拠点形成, 日本文化財科学会第40回記念大会, 2023年10月21日, 奈良文化財研究所

Fusa Miyake, Masataka Hakozaki, Hisashi Hayakawa, Naruki Nakano, Lukas Wacker, Investigation of extreme solar events in the 19th century from tree-ring 14C data, ICRC2023, 2023年7月26日, 名古屋大学

根岸洋, 箱崎真隆, 能城修一, 小林謙一, 蒲生侑佳, 宮原千波, 小久保竜也, 桑村夏希, 原口雅隆, 縄文時代後期の掘立柱建物跡に伴う木柱の基礎的研究, 日本考古学協会第89回総会, 2023年5月28日, 東海大学

Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaki, Natsuko Fujita, Yoko Saito-Kokubu, AMS-14C measurement of 670-year-old giant Japanese cedar - 1871-2020 CE, 第9回東アジアAMSシンポジウム, 2023年11月22日, 韓国科学技術研究院

箱崎真隆, 佐野雅規, 篠崎鉄哉, 山下優介, 土山祐之, 三宅美沙, 木村勝彦, 坂本稔, 国立歴史民俗博物館における超高精度年代測定総合研究拠点形成, 第24回AMSシンポジウム, 2024年3月29日, 東京大学

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

##### ① 歴博

基幹研究「交流・環境からみたオホーツク文化・擦文文化, アイヌ文化—その成立・展開過程—」(研究代表者: 鈴木琢也, 2022~2024年度)

課題設定型共同研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」(研究代表者: 下田誠, 2021~2023年度)

### ③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る, モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究」(研究代表者: 陀安一郎, 2022~2027年度)

## 2 外部資金による研究

科学研究費補助金(学変A)「日本列島域における先史人類史の総合的復元方法の研究」(2023~2027年度) 研究分担者

科学研究費補助金(学変A計画研究)「日本列島域における古環境変遷の研究」(2023~2027年度) 研究代表者

科学研究費補助金(基盤A)「過去3万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基盤研究」(2020~2024年度) 研究代表者

科学研究費補助金(基盤S)「過去1万年間の太陽活動」(研究代表者: 三宅美沙, 2020~2024年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤S)「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」(研究代表者: 中塚武, 2021~2025年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤A)「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程—地域文化の成立と相互関係—」(研究代表者: 小林謙一, 2022~2026年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤A)「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」(研究代表者: 坂本稔, 2022~2026年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤A)「汽水成年縞堆積物と年輪試料の複合解析による完新世の気候変化と高分解能編年の研究」(研究代表者: 齋藤文紀, 2021~2025年度) 研究分担者

科学研究費補助金(基盤C)「中世民家の年代研究」(研究代表者: 中尾七重, 2021年度~2023年度) 研究分担者

## 三 社会活動等

### 1 メディア出演

NHK Eテレ ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪: 国立歴史民俗博物館, 2023年9月6日初回放送

## 四 活動報告

### 1 受賞歴

第38回日本植生史学会優秀発表賞, 林 忻, 箱崎真隆, 能城修一, 佐野雅規, 李 貞, 中塚 武「東京都港区我善坊谷遺跡出土木材の酸素同位体比年代測定および産地推定結果」, 2023年12月, 日本植生史学会

## 橋本 雄太 HASHIMOTO Yuta 准教授 (2022.4~)

【学歴】京都大学文学部(2004-2008), 京都大学文学研究科修士課程(2008-2010), 京都大学文学研究科博士課程課程(2013-2017)

【職歴】株式会社内田洋行社員(2010-2012), 大阪大学特任研究員(2015-2017), 国立国会図書館委嘱研究員(2015-2021), 国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教(2017-2022), 同准教授(2022-),

【学位】博士(文学)(京都大学文学研究科2018年取得)【専門分野】人文情報学, 科学史【主な研究テーマ】人文学資料を対象にしたクラウドソーシング, 歴史研究に関わる教育ソフトウェア開発, 近代西洋数学史

【所属学会】情報処理学会, Japanese Association of Digital Humanities, 日本科学史学会【研究目的・研究状況】クラウドソーシング技術を駆使した歴史資料の活用をテーマに研究をおこなっている。前近代日本語史料の市民参加型翻刻プラットフォーム「みんなで翻刻」や, くずし字解読の学習用アプリケーション「KuLA」の開発にあたっている。「みんなで翻刻」では2024年4月時点で3000万文字の近世史料が翻刻され, KuLAは2016年の公開後20万回以上ダウンロードされている。

【メールアドレス】yhashimoto@rekihaku.ac.jp



## ●主要業績

1. 【論文】「音声読み上げとフォーラム機能を備えた中世文書オンライン展示システムの開発」国立歴史民俗博物館研究報告, 224号, pp.311-328, 2021年3月(査読あり)
2. 【論文】共著:「『みんなで翻刻』の運用成果と参加動向の報告」, 人文科学とコンピュータシンポジウム2020論文集, pp.39-46, 2020年12月(査読あり)
3. 【論文】「AI 文字認識とクラウドソーシングを組み合わせた歴史資料の大規模テキスト化」, 人工知能学会誌, Vol. 35, No. 6, pp.754-760, 2020年11月

## ●2023年度の研究教育活動

## 一 研究業績

## 2 論文

橋本雄太「結婚式におけるIT活用の現状と趨勢」冠婚葬祭総合研究所受託研究「冠婚葬祭の情報化に関する研究」令和4年度論文集 pp. 59-62

## 5 学会・外部研究会発表

Yuta Hashimoto, Minna de Honkoku: a crowd-ai hybrid platform for transcribing Kuzushiji documents, EAJS2023, 2023年8月.

## 7 その他

橋本雄太「みんなで翻刻ー歴史災害資料のシチズンサイエンス」科学 93 (11) pp. 926-929 岩波書店 2023年11月

佐藤賢一, 平岡隆二, 梅田千尋, 橋本雄太「開陽丸引き揚げ文書について」洋学 (30) pp. 149-183 2023年4月

## 二 主な研究教育活動

## 1 主な共同研究等参加状況

## ① 歴博

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」(2023年度～)

## 2 外部資金による研究

科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)「メディア文化研究における研究データ蓄積・共有環境のモデル構築」(2023-2024年度) 分担者

科学研究費助成事業 基盤A「歴史ビッグデータ: 史料とデータ駆動型モデルを結合する分野横断型研究基盤の構築」(2023-2025年度) 分担者

科学研究費助成事業 基盤A「COVID-19のパンデミックへの歴史的「介入」ー歴史化のための記録と記憶の保全」(2023-2027年度) 分担者

科学研究費助成事業 基盤B「近世日本数理科学の新たな歴史叙述構築に向けた総合研究」(2023-2026年度) 分担者

## 三 社会活動等

## 1 館外における各種委員

情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会主査(2023年4月～)

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

「みんなで翻刻」上で得られた650万文字のテキストに対しマークアップおよびエンティティリンキングを実施するプラットフォーム「みんなでマークアップ」(<https://markup.honkoku.org/>)を一般公開し, 2023年2月の人文科学とコンピュータ研究会発表会にて成果を報告した。

## 林部 均 HAYASHIBE Hitoshi 教授(2013～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授(2023～), 生年: 1960

【学歴】関西大学文学部史学地理学科(1983年卒業)

【職歴】 奈良県立橿原考古学研究所嘱託（1983）、奈良県立橿原考古学研究所（奈良県教育委員会）技師（1985）、同主任研究員（1992）、同総括研究員（2006）、関西大学文学部非常勤講師（2002～2005）、三重大学人文学部非常勤講師（2006）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2013～）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2013～）、研究推進センター長（2014～2016）、副館長・研究総主幹（2017～2020）、専修大学文学部非常勤講師（2013）、早稲田大学大学院非常勤講師（2014）、専修大学大学院非常勤講師（2015）、東京大学大学院人文社会系研究科客員教授（2020～）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023～）

【学位】 博士（文学）（奈良女子大学）（2001年取得）【専門分野】 日本考古学【主な研究テーマ】 東アジアの古代宮都（王宮・王都）の研究、考古学からみた地域社会の研究【所属学会】 日本考古学協会、考古学研究会、日本史研究会、条里制・古代都市研究会

### ●主要業績

1. 【著書】『古代宮都形成過程の研究』378頁，青木書店，2001年3月
2. 【著書】『飛鳥の宮と藤原京—よみがえる古代王宮—』259頁，歴史文化ライブラリー249，吉川弘文館，2008年3月
3. 【論文】「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」（『考古学雑誌』72-1，pp.31-71，日本考古学会，1986年9月）（査読あり）
4. 【論文】「古代宮都と郡山遺跡・多賀城—古代宮都からみた地方官衙論序説—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第163集，pp.99-131,2011年3月）（査読あり）
5. 【調査報告書】編著『飛鳥京跡Ⅲ—内郭中枢の調査—』253頁，奈良県立橿原考古学研究所，2008年3月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 1 著書
- 2 論文  
「畿内における古墳の終末からみた総社古墳群」『総社古墳群総括報告書』前橋市教育委員会 2023年9月8日 pp.82-92
- 3 調査・発掘報告書、自治体史、史料集、辞典など  
共著『総社古墳群総括報告書』前橋市教育委員会 本文115頁，図版30 2023年9月8日
- 4 展示図録・資料目録・映像・DB・デジタルコンテンツ等  
編著『北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—』23頁 2023年11月14日
- 7 その他  
「都城の成立—その成立によって何が起こったのか—」『REKIHAKU009 推定不能』国立歴史民俗博物館 文学通信 2023年 6月26日 pp.60-61  
「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース No.229』歴史民俗博物館振興会 2023年10月5日 pp.1-2  
「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」（総合展示第1展示室特集展示リーフレット）4頁 2023年11月14日  
「藤尾慎一郎先生を送る」『国立歴史民俗博物館研究報告』第248集 2024年3月29日 PP.155-156

#### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ① 歴博  
基幹研究「交流・環境から見たオホーツク文化・擦文文化，アイヌ文化—その成立・展開過程—」（研究代表者 北海道博物館鈴木琢也）副代表，2022～2024年度
- 4 主な展示・資料活動  
総合展示第1室「原始・古代」新構築プロジェクト委員  
総合展示第1展示室特集展示「北の大地が育んだ古代—オホーツク文化と擦文文化—」展示代表
- 5 教育

東京大学大学院人文社会系研究科 客員教授 (2023.4.1～2024.3.31), 「考古学特殊講義X V・X VI」「日本古代の考古学1・2」

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

条里制・古代都市研究会評議委員, 考古学研究会全国委員 (関東), 文化審議会専門委員 (文化財分科会第一専門調査会 文化庁), 古墳壁画の保存活用に関する検討会委員 (文化庁), 登録美術品 (文字資料等) 調査研究協力委員 (文化庁), 日本学術会議連携会員 (史学委員会 文化財の保存と活用に関する文科会 第25～26期), 奈良県立橿原考古学研究所共同研究員, 上野国府等調査委員会委員 (前橋市教育委員会), 総社古墳群調査検討委員会委員 (前橋市教育委員会), 松山市文化財保護審議会久米官衙遺跡群調査検討部会委員 (松山市教育委員会), 福原長者原遺跡調査指導委員会委員 (行橋市教育委員会), 粕屋町文化財調査指導委員会委員 (粕屋町教育委員会), 粕屋町史跡等整備検討委員会委員 (粕屋町教育委員会), 史跡鑄銭司跡調査検討委員会委員 (山口市教育委員会), 史跡秋田城跡環境整備指導委員会・副委員長 (秋田市教育委員会)

#### 2 講演・カルチャーセンターなど

「遺跡でたどる『日本』誕生—遺跡からみた古代国家の形成—」早稲田大学オープンカレッジ『日本の歴史と文化』早稲田大学エクステンションセンター早稲田校 2024年1月24日・1月31日・2月7日・2月21日・2月28日・3月6日

#### 4 社会連携 (国内)

##### ③ 講演会・シンポジウム (自治体など地方公共団体主催のもの)

「下総国埴生郡家とその時代」『考古学講座』千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館集会室 2023年10月29日

「日本古代の都城と大宰府—遺構と出土品から考える—」九州歴史資料館令和5年度企画展「重要文化財が語る古代大宰府」記念講演会 九州歴史資料館研修室 2023年2月3日

### 四 活動報告

#### 3 研究・調査プロジェクト報告

列島の各地は、多様な自然環境、歴史的條件に規制され、様々な地域文化を形成してきた。地域文化形成の要因はどこにあるのか、また、歴史的條件は何かということをも明らかにすべく研究を実施した。本年は、石川県金沢市において、日本海地域、とくに出雲・伯耆と北陸地域の古代までの交流の様相、福島県会津若松市において会津盆地の地域文化形成にかかわる資料調査、千葉県館山市において房総半島南端部における地域文化形成にかかわる資料、茨城県ひたちなか市の那珂湊反射炉にかかわる資料、沖縄県那覇市・糸満市において首里城などの資料調査を行うことなどにより、地域のまとまりが形成される要因について調査し、それぞれの地域のもつ多様性、ならびに地図資料などによる地域認識の把握につとめた。地域の文化形成の要因は、それぞれの地域によって様々であり、それが何であるのかを検討した。また、それらが、前近代から現代へと、どのように展開したのかという現代までを視野に入れた研究を進めた。そして、現代にも残る地域社会の多様性について検討した。また、関東大震災から100年ということで、震災という大災害が地域の社会に与えた影響についても調査した。

## 樋浦 郷子 HIURA Satoko 准教授 (2016～)

【学歴】神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程 (1998年修了), 京都大学大学院教育学研究科修士課程 (2006年修了), 京都大学大学院教育学研究科博士課程 (2011年修了)

【職歴】帝京大学専任講師 (総合基礎科目・教職課程) (～2016年3月), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2016～)

【学位】博士 (教育学・京都大学) (2011年取得) 【専門分野】教育史 【主な研究テーマ】帝国日本の教育と宗教の関係に関わる歴史 【所属学会】教育史学会, 朝鮮史研究会, 歴史学研究会, 日本教育史研究会

#### ●主要業績

・【著書】『신사·학교·식민지 지배를 위한 종교-교육』

- (神社・学校・植民地 支配のための宗教—教育)』高麗大学出版文化院 (韓国), 387頁, 2016年 2月
- ・【著書】『神社・学校・植民地—逆機能する朝鮮支配—』京都大学学術出版会, 373頁, 2013年 3月
  - ・【論文】「학교의식에 나타난 식민지 교육: 현대일본의 “국가신도” 논쟁과 관련하여」(学校儀式に見る植民地の教育:現代日本の「国家神道」論争と関連して)『翰林日本学』25号, 翰林大学 (韓国) 日本学研究所, pp.59-71,2014年12月
  - ・【論文】「植民地朝鮮の『御真影』: 初等教育機関の場合」『日本の教育史学』57号, 教育史学会, pp.84-96,2014年10月
  - ・【学会・外部研究会発表】  
「台湾の天皇崇敬教育—新化の学校をめぐるモノ資料を手がかりに—, “上學去—近代教育與臺灣社會”臺灣教育史國際學術研討會, 文化部・国立台湾歴史博物館, 2019年 1月19日  
「未完の朝鮮扶余神宮が果たした役割と意味」“The Role and the Meaning of Unfinished Buyeo Sin Gung (Fuyo Jingu) Imperial Shrine in the Wartime Korea” (英語・日本語による), History of education and language in late Chosôn and Colonial-era Korea Workshop, 九州大学, 2016年 2月20日

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

- (その他) 「皇国泰平寿語録」から新時代を読む,文部科学教育通信 (557), 2023年 6月12日.
- (書評) 「学校儀式における断絶と連続性」『小野雅章 著 教育勅語と御真影 近代天皇制と教育』, 赤旗, 2023年 8月20日.
- (論文) 「関東大震災における流言の拡散」, 大原社会問題研究所雑誌 (782), 2023年12月.
- (総説) 横山百合子・樋浦郷子「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」, 国立歴史民俗博物館研究報告』248号, 2024年 3月.
- (資料紹介) 「草溪公立普通学校沿革誌—植民地期朝鮮の地域教育史—」『国立歴史民俗博物館研究報告』248号, 2024年 3月.

### 二 主な研究教育活動

#### 1 主な共同研究等参加状況

##### ① 歴博

基盤共同研究「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」2022年～

#### 2 外部資金による研究

科研 23K02074 基盤C「非就学者層に着目してえがく植民地期朝鮮の教育史」代表

科研 23H00934 基盤B「近現代世界における教育の世俗化と宗教性に関する比較社会史的研究」研究分担者

#### 4 主な展示・資料活動

第5展示室展示リニューアル委員

#### 5 教育

歴博・千葉大学留学生プロジェクト

### 三 社会活動等

#### 1 館外における各種委員

教育史学会70周年記念誌編集委員 (2022年12月から現在)

#### 4 社会連携

##### ② 共同研究

山川出版社との共同研究

## 樋口 雄彦 HIGUCHI Takehiko 教授 (2011～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～), 生年: 1961

【学歴】静岡大学人文学部人文学科日本史学専攻 (1984年卒業)

【職歴】沼津市明治史料館学芸員 (1984), 同主任学芸員 (1997), 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授 (2001),

総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教併任（2003）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任（2020～2021）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（文学）（大阪大学）（2007年取得）【専門分野】日本近代史【主な研究テーマ】明治期の社会・文化と旧幕臣の動向【所属学会】明治維新史学会、洋学史学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、静岡県近代史研究会、静岡県地域史研究会

### ●主要業績

1. 【著書】『旧幕臣の明治維新 沼津兵学校とその群像』吉川弘文館、206頁、2005年11月
2. 【著書】『沼津兵学校の研究』吉川弘文館、661頁、2007年10月
3. 【著書】『敗者の日本史17 箱館戦争と榎本武揚』吉川弘文館、288頁、2012年11月
4. 【著書】『幕末の農兵』現代書館、206頁、2017年12月
5. 【著書】『幕末維新期の洋学と幕臣』岩田書院、404頁、2019年8月
6. 【著書】『明治の旧幕臣とその信仰』思文閣出版、382頁、2023年1月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 1 著書
- 2 論文

#### 二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究
- 4 主な展示・資料活動  
総合展示第5室・第6室リニューアル委員会委員

#### 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員  
静岡県文化財保護審議会委員千葉県文化財保護審議会委員  
静岡市歴史博物館収集資料審議会委員  
沼津市文化財保存活用地域計画作成委員会委員  
静岡県近代史研究会幹事
- 3 マスコミ  
NHK・総合テレビ ファミリーヒストリー「角野卓造」,2023年11月10日放送,14日再放送
- 4 社会連携
  - ① 刊行物  
「芹沢光治良『人間の運命』のなかの江原素六」『沼津市明治史料館通信』第153号、pp.2-3、沼津市明治史料館、2023年5月31日  
「朝ドラ「らんまん」の登場人物と沼津」『沼津朝日』第21026号、pp.2、沼津朝日新聞社、2023年6月8日  
「江原素六の恩人深津撰津守」『沼津市明治史料館通信』第154号、pp.2-3、沼津市明治史料館、2023年7月31日  
「上野介小栗君紀功碑の碑文草稿」『たつなみ』第48号、pp.32-40、小栗上野介顕彰会、2023年9月15日  
「第二章 第四節 農兵と文武学校」静岡県立韮山高等学校創立百五十周年記念事業実行委員会韮山高校百五十年史編さん委員会編『韮山高校百五十年史』上巻、pp.150-158、静岡県立韮山高等学校同窓会、2023年10月10日  
「沼津宿本陣に残された旗本用人の袴」『沼津市明治史料館通信』第155号、pp.1-2、沼津市明治史料館、2023年10月31日  
「小説家加賀乙彦とその曾祖父永井久太郎」『沼津市明治史料館通信』第155号、pp.3、沼津市明治史料館、

2023年10月31日

「幕末の駿河国における種痘」『静岡県近代史研究会会報』第543号, pp.4-6, 静岡県近代史研究会, 2023年12月10日

「俳優森繁久彌の父は遠州横須賀割付の旧幕臣だった」『静岡県近代史研究会会報』第544号, pp.2-4, 静岡県近代史研究会, 2024年1月10日

「乙骨彦十郎の天然理心流切紙」『沼津市明治史料館通信』第156号, pp.1-2, 沼津市明治史料館, 2024年1月31日

「高野熊之助の死と江原素六」『沼津市明治史料館通信』第156号, pp.3, 沼津市明治史料館, 2024年1月31日

「静岡藩士になった伊賀者たち」『静岡県近代史研究会会報』第546号, pp.4-6, 静岡県近代史研究会, 2023年3月10日

「旧菊間藩士族にみる廃藩後の結合の諸相」『沼津市博物館紀要』48, pp.1-39, 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館, 2024年3月31日

「静岡藩士になった八王子千人同心—黒川家文書の紹介を兼ねて—」『沼津市博物館紀要』48, pp.41-55, 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館, 2024年3月31日

「民権ネットワーク 旧幕臣」『自由民権』37, pp.93-94, 町田市立自由民権資料館, 2024年3月31日

「水野葉舟アルバム中の野馬捕り図について」『成田市史研究』48, pp.71-72, 成田市教育委員会, 2024年3月

#### ② 講演会・シンポジウム

「佐倉藩士と沼津兵学校」佐倉市民カレッジ, 佐倉市中央公民館, 2023年7月6日

「幕末の沼津藩とその人物」沼津史談会・歴史と文化のまちづくり塾, 沼津市立図書館, 2023年10月15日

「勝海舟と江戸無血開城をめぐる幕臣たち」勝海舟生誕200周年記念事業, 港区立高輪図書館, 2023年11月19日

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

明治の旧幕臣に関する文献・資料について調査・収集を行った。次年度開催の特集展示「幕末の外交官—柴田剛中とその資料—」(2024年4月23日～7月28日)に向けて調査活動を実施した。

## 日高 薫 HIDAKA Kaori 教授 (2010～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～)

【学歴】東京大学文学部第二類(史学)美術史学専修課程(1985年卒業), 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程(1987年修了), 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程(1990年単位取得退学)

【職歴】杉野女子大学非常勤講師(1988), 東京大学文学部美術史研究室助手(1990), 共立女子大学国際文化学部日本文化研究研究助手(1992), 国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手(1994), 同助教授(2002), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授(2004), 文部科学省研究振興局学術調査官併任(2004～2006), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任(2010), 広報連携センター長併任(2011～2012), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任(2023)

【学位】博士(文学)(東京大学2008年)【専門分野】漆工芸史【主な研究テーマ】蒔絵を中心とする漆工芸史および日本の装飾芸術の特質に関する研究, 交易品としての漆器をめぐる文化交流に関する研究【所属学会】美術史学会, 漆工芸学会

#### ●主要業績

1. 【著書】『異国の表象—近世輸出漆器の創造力—』475頁, ブリュッケ, 2008年3月
2. 【概説書】編著『海を渡った日本漆器Ⅱ—18・19世紀—』(『日本の美術』427号, 98頁, 至文堂, 2001年12月)
3. 【論文】Maritime Trade in Asia and the Circulation of Lacquerware (「アジアの海と漆器流通」), Rupert Faulkner, Shayne Rivers 編, East Asian Lacquer: Material Culture, Science and Conservation (東洋漆器—その文化史, 科学と保存修復), pp.5-9, London, 2011年2月

4. 【論文】「」 蒔絵の「色」—絵画と工芸のはざまで（」 玉蟲敏子編『講座 日本美術史5 <かざり>と<つくり>の領分』pp.165-197, 東大出版会, 2005年10月)
5. 【資料図録】編著『紀州徳川家伝来楽器コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録3,414頁, 国立歴史民俗博物館, 2004年3月

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発  
国立歴史民俗博物館編（編）『国立歴史民俗博物館資料図録13 生田コレクション 鼓胴』, 184頁, 2024年3月31日, 国立歴史民俗博物館（単編著）  
「生田コレクション鼓胴について」pp.5-8, 『国立歴史民俗博物館資料図録13 生田コレクション 鼓胴』, 2024年3月31日, 国立歴史民俗博物館  
「漆工芸にみる色彩～蒔絵・螺鈿・色漆～」pp.47-56, 国立歴史民俗博物館（編）『歴博色尽くし いろ・つや・かたちのアンソロジー』, 2024年3月12日, 国立歴史民俗博物館  
「資料解説（4-1～4-24）」pp.81-82, 国立歴史民俗博物館（編）『歴博色尽くし いろ・つや・かたちのアンソロジー』, 2024年3月12日, 国立歴史民俗博物館  
「南蛮漆器解説」（展示コンテンツ・ボイスメモ）, 「跨ぐ・1624：世界の島台湾」展, 2024年2月1日, 国立台湾歴史博物館
- 5 学会・外部研究会発表  
「シーボルト父子の日本展示とその復元 国立歴史民俗博物館のプロジェクトが目指したもの」シーボルト来日200年記念国際シンポジウム「シーボルト研究の100年」長崎歴史文化博物館講堂, 2023年10月15日  
「日本を蒐める—シーボルトの息子たちのコレクション—シーボルト来日200年記念—「日独協力の新しい道—シーボルト研究の最新成果」, OAG ハウス・ドイツ文化会館, 2023年11月14日
- 7 その他  
「趣旨説明」国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「スイスに伝えられた日本陶磁 ジュネーヴ市立アリアナ美術館秘蔵コレクション」2022年1月6日, オンライン開催  
「シーボルト関係資料の調査・研究・活用事業の成果と課題」国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「ハインリッヒ・フォン・シーボルトのコレクション—さらなる洞察 Neue Einblicke in die Heinrich von Siebold-Sammlung」2022年1月15日, オンライン開催

### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
  - ③ 機構  
人間文化研究機構共創先導プロジェクト（共創促進研究）日本関連在外資料調査研究  
「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用—」（2022年度～）研究代表者
- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自治体による研究）  
科学研究費補助金・基盤研究（B）（一般）「幕末外交と贈答美術品—遣米・遣欧使節団の贈品を中心に」（2021～2024年度）研究代表者
- 3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など）  
国立歴史民俗博物館 国際交流事業  
「北部イングランド所在日本資料の調査研究と活用支援」（2023年度～）研究代表者
- 4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）  
企画展示「歴博色尽くし いろ・つや・かたちのアンソロジー」展示プロジェクト委員  
くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト委員
- 5 教育（総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど）

### 三 社会活動等

- 1 館外における各種委員

漆工史学会理事，千葉市美術品等収集審査委員，千葉県伝統工芸品産業振興協議会委員，静岡県富士山世界遺産センター専門委員，文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会専門委員（工芸品部門），國華賞選衡委員

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

近世の漆工芸，とくに各藩の保護奨励により日本各地で育まれた漆工技術についての調査・研究をおこない，漆絵および蒔絵の地方における展開を示す資料情報を多く収集することができた。また，楽器の製作技術に関する情報，また日本からの輸出工芸品が海外の工芸品制作に与えた影響に関する情報など，館蔵資料関連の情報も引き続き収集し，生田コレクション鼓胴の資料図録を刊行した。

日本関連在外資料調査研究および科学研究費補助金による研究の一環として，シーボルト関係資料の調査および幕末の遣外使節団の贈答品調査を進めている。今年度は，シーボルト末裔家のブランデンシュタイン城調査，ウィーン世界博物館およびオーストリア工芸美術館所蔵ハインリッヒ・フォン・シーボルト関係資料の調査，リスボンのアジュダ宮殿所蔵の遣欧使節団関係資料の調査等を実施した。

### 福岡 万里子 FUKUOKA Mariko, 准教授 (2014.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授 (2023～)

【学歴】東京大学教養学部 (2003年3月卒業) 東京大学大学院総合文化研究科 (修士) (2005年3月修了)，東京大学大学院総合文化研究科 (博士) (2011年2月修了) 【職歴】日本学術振興会特別研究員DC2 (2007-09)，日本学術振興会特別研究員PD (2011-14)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2014-)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2014-)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任 (2023)

【学位】博士 (学術) (東京大学) (2011年取得) 【専門分野】19世紀日本外交史，東アジア国際関係史 【主な研究テーマ】19世紀日本・東アジアをめぐる外交史・国際関係史，タウンゼント・ハリスの伝記的研究，19世紀アジアで活動したドイツ・スイス系外交官及び商人に関する研究 【所属学会】史学会，日本政治学会，日本国際政治学会，明治維新史学会，洋学史学会，日本ドイツ学会 【研究目的・研究状況】近世近代転換期の日本・東アジアを取り巻く国際関係の変動過程を，マルチアーカイヴァルな手法を基に，東アジア比較・世界史の視点から考察していければと考えている。

#### ●主要業績

1. 【単著】福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』448頁，東京大学出版会，2013年3月
2. 【論文】福岡万里子「ドイツ公使から見た戊辰戦争—蝦夷地と内戦の行方をめぐるブランドの思惑」，奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点 (上) 世界・政治』吉川弘文館，pp.61-81, 2018年1月
3. 【論文】Mariko Fukuoka, "Prussia or North Germany? The Image of "Germany" during the Prusso-Japanese Treaty Negotiations in 1860-1861." In : Sven Saaler, Kudō Akira, Tajima Nobuo (eds.), Mutual Perceptions and Images in Japanese German Relations, 1860-2010. Brill's Japanese Studies Library Nr.59, Leiden : Brill, June 2017, pp.65-88
4. 【論文】Mariko Fukuoka, "German Merchants in the Indian Ocean World : From Early Modern Paralysis to Modern Animation." In : Angela Schottenhammer (ed.), Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, vol.I : Commercial Structures and Exchanges. Palgrave Mcmillan, February 2019, pp.259-292
5. 【調査研究活動報告】福岡万里子・日高薫・澤田和人「スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション—ペリー・ハリス・遣米使節団」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集，pp.101-165, 2021年3月
6. 【編著】福岡万里子編『国立歴史民俗博物館研究報告』第239集 [共同研究]「近世近代転換期東アジア国際関係史の再検討—日本・中国・シヤムの相互比較から—」国立歴史民俗博物館，pp.328, 2023年3月

#### ●2023年度の研究教育活動

##### 一 研究業績

- 3 調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など



- 福岡万里子「Q「ペリー来航の影響はどのようなものでしたか」への回答」(片山慶隆, 山口航『Q&Aで読む日本外交入門』吉川弘文館 2024年3月, pp.2-5)
- 福岡万里子「Q「不平等条約といわれるものについて教えてください」への回答」(同上, pp.6-9)

## 5 学会・外部研究会発表

- Mariko Fukuoka, "Siebold and His Work: Introduction by a Japanese Historian." Siebold - O'Ine Science Lecture September 28, 2023, The Dutch Embassy in Tokyo
- 福岡万里子「幕末期幕府外交の研究と関連史料の資源化—今年度の調査内容・成果と展望（前年度までの先行作業と併せて）」2023年度史料編纂所一般共同研究「幕末期幕府外交の研究と関連史料の資源化」年度末オンライン報告会, 2024年3月8日, 東京大学史料編纂所
- 福岡万里子「幕末の不平等条約再考—近世の日蘭関係と米国の参入—」公益財団法人日本国際問題研究所主催公開シンポジウム「2つの開国—幕末～戦後日本の政治と外交」, 2024年3月17日, TKPガーデンシティ PREMIUM京橋

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

- ① 歴博
- ③ 機構

人間文化研究機構 機構共創先導プロジェクト（共創促進研究）日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」（研究代表者：日高薫）共同研究員

### 2 外部資金による研究

基盤研究C「日本開国史の再構築—「開国のかたち」をめぐる国際的相克の解明」（研究代表者：福岡万里子）2020～2023年度

基盤研究B「明治政治外交史の完成を目指して：極東の国際関係と薩長交代」（研究代表者：五百旗頭薫）2020～2023年度：研究分担者

東京大学史料編纂所一般共同研究「幕末期幕府外交の研究と関連史料の資源化」（研究代表者：福岡万里子）2023年度

### 3 国際交流事業

### 4 主な展示・資料活動

総合展示第5室・第6室リニューアル委員

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

東京大学史料編纂所日蘭交渉史研究会メンバー, 洋学史学会理事

## 藤尾 慎一郎 FUJIO Shin'ichiro 教授 (2008.11～2024.3)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023.4～2024.3), 生年：1959

【学歴】広島大学文学部卒 (1981), 九州大学大学院修士課程修了 (1983), 九州大学大学院博士課程後期単位取得退学 (1986)

【職歴】九州大学文学部助手 (1986), 国立歴史民俗博物館考古研究部助手 (1988), 同助教授 (1999), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2003), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2008), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2009), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【役職】研究推進センター長併任 (2011～2012), 副館長・研究総主幹併任 (2013～2016) 【学位】博士 (文学) (広島大学文学部2002) 【専門分野】日本考古学 【主な研究テーマ】弥生文化, 鉄, 農耕のはじまり, 年代研究, DNA

【所属学会】日本考古学協会, 考古学研究会, 九州考古学会, たたら研究会 【受賞歴】なし

### ●主要業績

1. 【単著】『弥生文化像の新構築』275頁, 東京: 吉川弘文館, 2013年5月
2. 【単著】『弥生人はどこから来たのか—最新科学が解明する古代日本—』歴史文化ライブラリー, 2024年3月1日
3. 【編著】設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦『弥生文化誕生』弥生時代の考古学2,226頁, 2009年1月
4. 【原著論文】「弥生文化の輪郭」(『開館30周年記念論文集1』国立歴史民俗博物館研究報告第178集, pp.85-120,2013年3月)(査読あり)
5. 【編著】『弥生ってなに?!』2014年度歴博企画展示図録, 128頁, 2014年7月15日

●2023年度の研究教育活動(成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

一 研究業績(公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 2 論文(査読あり, なしを明記)
  - 藤尾慎一郎 「水田稲作開始期の気候変動」『弥生文化と世界の考古学』何が歴史を動かしたのか第2巻, pp.7-18, 雄山閣, 2023年9月25日(査読なし)
  - 藤尾慎一郎 「弥生人の成立と展開Ⅱ」『国立歴史民俗博物館研究報告』第242集, pp.35-60, 2023年9月30日(査読あり) 歴博リポジトリ
  - 齋藤努・藤尾・濱田孝司・反保元伸・竹下聡史・土居内翔伍・橋本重紀子・梅垣いづみ・久保謙哉・工藤拓人・二宮和彦・三宅康博 「ミュオン非破壊分析法を用いた銅鍮部の下層に残存する金属部分の組成分析」『文化財科学』第87号, pp.17-30, 2023年8月25日(査読あり)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
  - 藤尾慎一郎編 『新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」計画研究 考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明』国立歴史民俗博物館研究報告第242集, 170頁, 2023年9月30日(査読あり) 歴博リポジトリ
  - 藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一 「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明—2021年度の調査—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第242集, pp.3-14, 2023年9月30日(査読なし) 歴博リポジトリ
- 5 学会・外部研究会発表

二 主な研究教育活動(共同研究, 調査, 展示, 教育等)

- 1 主な共同研究等参加状況(歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)
  - ① 歴博共同研究 松田睦彦研究代表「先史から近代における日朝交流史像の再構築—航海・港市・交流に生きた人びとの視点から—」共同研究員
  - ② 民博共同研究 池谷和信研究代表「アジアの狩猟採集民の移動と生業—多様な環境適応の人類学」共同研究員 2023~2025
  - ③ 機構(基幹研究プロジェクト)
    - ネットワーク型基幹研究プロジェクト 地域研究推進事業 北東アジア地域研究(国立民族学博物館拠点)
- 2 外部資金による研究(科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自治体による研究)
  - ・日本学術振興会科学研究費基盤研究S「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響調査」研究分担者,(研究代表者 中塚武)2021~2025年度
  - ・日本学術振興会科学研究費学術変革領域研究(A)「日本列島域における先史人類史の統合生物考古学的研究」研究協力者(研究代表 神澤秀明) 2023~2027年度
  - ・文明動態学研究所共同研究「縄文時代後期の河道出土木材の高精度年代測定にむけた基礎的研究」(代表 野崎貴博 文明動態学研究所助教) 2023~2025年度
- 3 国際交流事業(国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)
  - 2023.10.14 釜山大学校人文大学考古学科「考古学者 藤尾慎一郎の足跡—土器論・年代論・DNA」2023年2学期考古学科著名学者招待特講
- 4 博物館実習 東京大学博物館実習C「歴博見学および教員とのディスカッション」, 2024.1.29 歴博
- 5 展示プロジェクト委員 国立科学博物館2025年度特別展「古代DNA—日本人のきた道」展 2023~2025年度

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員(学会, 学術会議, 学振・自治体審議委員など)
  - 考古学研究会全国委員, たたら研究会関東委員
- 2 講演・カルチャーセンターなど(友の会も含む)

- 栄中日文化センター 名古屋・栄中日文化センター 2023年4月期「縄文時代から古墳時代への道のり—各時代はどのように始まったのか—」第1回 4.19「旧石器時代から縄文時代へ」、第2回 5.17「縄文時代から弥生時代へ」、第3回 6.21「弥生時代から古墳時代へ」
- かわさき市民アカデミー2023年度前期 エクセレントⅡ講座「縄文文化と弥生文化を比較する」オンライン講座 第6回 6.16「弥生人の祖先はどこから来たのか—DNAで探る—」、第7回 6.23「弥生時代の始まりはなぜ500年古くなったのか—炭素年代革命—」
- 朝日カルチャーセンター新宿教室 「弥生時代の始まりと終わりについて」第1回 7.21「弥生時代のはじまり（九州～東海）」、第2回 8.18「東・北日本の水田稲作のはじまり（関東～東北）」、第3回 9.15「弥生から古墳へ」
- 2023.9.17 東京 青山学院大学青山キャンパス17309教室「考古学的解析の概要」文部科学省新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」5年間の成果報告シンポジウム
- 栄中日文化センター 名古屋・栄中日文化センター 2023年10月期「弥生時代研究の最前線」第1回 10.18「弥生時代の環境—古気候」、第2回 11.15「縄文人と弥生人—多様な弥生時代人」、第3回 12.20「弥生時代は新石器時代から初期青銅器時代か」
- 2023.11.18 岡山大学中央図書館 岡山大学文明動態学研究所公開講座「弥生人のDNAの多様性と土器との関係」岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門
- 2023.11.30 歴博ガイダンスルーム、令和5年度歴博友の会「考古学講座：弥生土器とDNAとの不思議な関係」歴史民俗博物館振興会。
- 2024.1.13 令和5年度きさらづ市民カレッジ ①地元学コース第9回「千葉で水田稲作が始まったころの気候と人」木更津市立中央公民館多目的ホール
- 2024.3.9 歴博講堂 第451回歴博講演会「土器・鉄・年代・DNA」
- 2024.3.10 一橋講堂 第4回人文知応援大会「総合知を求めて」パネリスト 人文知応援フォーラム・人文機構との共催
- 2024.3.16 鳥取銀行とりぎんホール、「続々弥生の真実」パネルディスカッションコーディネーター
- 3 マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など）
- 編集協力 藤尾慎一郎「ゲノムで見る躍動の弥生時代」『日経サイエンス』2024年2月号、pp.46-54、2024年2月1日
- 著者に会いたい「弥生人はどこから来たのか—最新科学が解明する先史日本」考古学者 藤尾慎一郎さん（65）朝日新聞2024年3月30日朝刊読書欄

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

- 鹿児島県十島村宝島大池遺跡A地点出土土器・貝製品、オオツタノハの調査報告を2024年3月刊行の国立歴史民俗博物館研究報告通常号に掲載・報告した（執筆は志布志市教育委員会 相美伊久雄氏、熊本大学名誉教授の木下尚子氏、オオツタノハを千葉県立中央博物館の黒住耐二氏）。来年度、館蔵資料にするための整理作業が予定されており、その後、総合展示第1室「水田稲作のはじまり」の、奄美・沖縄のコーナーに展示してもらうべく、引き継いだ。なお、この3本のレポートを1冊にまとめた抜刷集作成費として本経費をあてる予定で準備していたが、通常号掲載予定の他の論文の校正が遅れた関係で、年度内に印刷まで至らなかったため、次年度、発掘担当者である西谷大教授に引き継いだ。

##### 4 その他（研究の目的、意義など）\*任意

2017年の四機構連携事業研究Pを出発点として、2023年度末まで継続した科学研究費新学術領域研究、通称「ヤポネシアゲノム」の研究成果によって、2024年3月19日に、鳥取県立青谷かみじち史跡公園が新設オープンすることとなった。歴博の研究が新博物館開設に結びついた貴重な例である。

また2024年3月1日に出版した『弥生人はどこから来たのか』歴史文化ライブラリー587、吉川弘文館が、3月30日付の朝日新聞の読書欄「著者に会いたい」で取り上げられるとともに、5月10日付で重版される予定である。

## 松尾 恒一 MATSUO Koichi 教授（2010～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～）、生年：1963

【学歴】國學院大學文学部日本文学科（1985年卒業）、國學院大學大学院文学研究科博士前期課程（1987年修了）、國學院大學大学院文学研究科博士後期課程（1995年修了）

【職歴】國學院大學文学部専任講師（1996）、大倉山精神文化研究所非常勤研究員（1997）、國學院大學文学部助教授（1999）、同大學日本文化研究所兼助教授（1999）、国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授（2002）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010～2019、2021）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（文学、國學院大學）【専門分野】民俗宗教、日亜文化交流史 【主な研究テーマ】民俗宗教・民間信仰、権門寺院の儀礼・芸能、寺院に奉仕する職能者の研究、アジアにおける宗教・信仰の交流史と民俗 【所属学会】日本民俗学会、芸能学会、芸能史研究会、儀礼文化学会 【研究目的・研究状況】中国大陸・台湾等、海外の民俗・歴史学研究者・研究機関とも交流を推進しつつ、フィールドワークと歴史資料を中心とする調査、研究を進めている。

### 一 主要業績

1. 【著書】『日本藏明清時期中日貿易相關民俗資料選編（日本所在、明清時代貿易關係民俗資料集）』陝西師範大学出版社、全337頁、2023年
2. 【著書】『日本の民俗宗教』288頁、筑摩書房、2019年11月
3. 【著書】『物部の民俗といざなぎ流』250頁、吉川弘文館、2011年6月
4. 【編著】『神楽の中世』392頁、三弥井書店、2021年6月

### ●2023年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

#### 1 著書

- ・単著（梁青訳）『日本藏明清時期中日貿易相關民俗資料選編（日本所在、明清時代貿易關係民俗資料集）』（陝西師範大学出版社、全337頁、2023年5月、ISBN9787569535624）

#### 2 論文

- ・単著「〈鳥船〉—明清時代の唐船と琉球船—」（『儀礼文化学会紀要』、12号（通巻52号）、pp 3-20、2024年3月、（査読有）、ISSN21882339）
- ・単著「大和国の統治の表象としての春日若宮おん祭—大和士・児の奉仕に注目して」（『藝能学会編『年刊 藝能』30号、pp 6-22、2024年3月）（査読有）：ISSN ナシ
- ・単著「〈鳥船〉、顔のある船—明清時代の唐船と琉球船—」（『Rekihaku』、文学通信、pp 41-47、2024年2月、（査読ナシ）、ISBN978-4-86766-030-0 C0021）
- ・単著「中世、対馬の府内八幡宮の放生儀礼と神楽—朝鮮半島との交流に注目して—」（神奈川大学『比較民俗研究』38号、pp 30-51、2024年3月、（査読ナシ）、ISSN 0915-7468）。
- ・単著「長崎のかくれキリシタンのマリア信仰」（永池健二編『女性の力から歴史をみる 柳田国男「妹の力」論の射程』アジア遊学290（全280頁）、勉誠社、pp 151-166、2023年11月、（査読ナシ）、ISBN978-4-585-32536-9）
- ・単著「神楽の誕生—巫女の舞いから仮面劇へ—」（韓国国立民俗博物館・企画展『MASK』図録、pp 176-181、全262、2023年10月、（査読ナシ）、ISBN978-89-289-0365-8（93380））
- ・単著「神楽の誕生—巫女の舞いから仮面劇へ—」（韓国訳訳）（韓国国立民俗博物館・企画展『MASK』図録、pp 176-181、2023年10月、（査読ナシ）、ISBN978-89-289-0365-8（93380））
- ・単著「木綿—世界の繊維革命—」（『Rekihaku』、文学通信、pp 100-101、2023年10月、（査読ナシ）、ISBN978-4-86766-023-2 C0021）

#### 3 口頭発表

- ・単独・招待「舞楽・巫女・児、願主人、古代・中世の芸能の集大成としての春日若宮おん祭—興福寺の大和国としての春日社祭祀」（『藝能学会 2023年度 芸能セミナー「藝能学会 創立八〇周年 / 折口信夫 没後七〇年」、7月23日（日）、国立能楽堂（東京））
- ・単独・招待「水陸齋・普度儀礼の伝承—日本華僑、香港、タイ華人社会の伝承を中心に—」（吉田一彦代表科研・基盤A「神仏融合から見た日本の宗教・思想とアジアの比較研究—分野横断による人文学の再生—」、疑偽経

典研究会&神仏融合研究会, 2023年8月19日(土), 名古屋市立大学)

- ・単独・招待「地域環境と神仏の信仰・儀礼:日本文化と神仏」(松尾恒一代表科研・基盤研究(C:19K00097)「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として」研究会, 京都大学, 2023年7月17日(月・祝))
- ・単独・招待「殺生戒・放生儀礼と起源伝承—古代・中世の国難と自然・文学」(広島大学荒見泰史教授主催「金岡照光先生33回忌国際研究集会 敦煌文献と中国文学」広島大学, 2023年7月29日(土))
- ・単独「木綿:世界の繊維革命—日本への伝来からジーンズまで—」(歴博友の会, 国立歴史民俗博物館, 2024年1月28日(日))
- ・単独・招待「日本の海外交流と伝統文化の形成」(儀礼文化学会事務局(東京), 2024年3月10日(日))

#### 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

- ・単著(梁青訳)『日本藏明清時期中日貿易関連民俗資料選編(日本所在, 明清時代貿易関係民俗資料集)』(陝西師範大学出版, 全337頁, 2023年5月, ISBN9787569535624)・単著「神楽の誕生—巫女の舞いから仮面劇へ—」(韓国国立民俗博物館・企画展『MASK』図録, pp 176-181, 全262, 2023年10月, (査読ナシ), ISBN978-89-289-0365-8 (93380))
- ・単著「神楽の誕生—巫女の舞いから仮面劇へ—」(韓国訳訳)(韓国国立民俗博物館・企画展『MASK』図録, pp 176-181, 2023年10月, (査読ナシ), ISBN978-89-289-0365-8 (93380))

## 二 主な研究教育活動(共同研究, 調査, 展示, 教育等)

### 1 主な共同研究等参加状況(歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)

#### ① 歴博(基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)

歴博-千葉大学大学院連携教育事業代表

#### 2 外部資金による研究(科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自団体による研究)

科研基盤C「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として」(研究代表者, 2019~2023年度)

中国中山大学国家社会科学基金項目「海外藏珍稀中国民俗文物与文献整理研究暨数据库建设(在外中国民俗関係資料の整理・研究とデータベースの構築)」(研究代表者:中国中山大学 王霄冰教授)研究分担者, 2016~2024年度

科研基盤B, 吉田一彦代表「神仏の融合・複合の形成史の比較研究—日本とアジアの国々との様相を対比して」(研究分担者, 2023~2025年度)

#### 3 国際交流事業(国際交流協定にもとづく事業, 国際シンポジウム・集会など)

韓国民俗博物館・企画展示「MASKS」展示委員(2022年11月4日~2024年3月31日):日本の民俗仮面のコーナーを担当

#### 4 主な展示・資料活動(展示・資料・DBなど)

特集展示(第4・民俗展示室)1月17日(火)~2024年5月14日(日)「来訪神, 姿とかたち—福の神も疫神も異界から—」関連行事「歴博映画の会」2023年5月13日(土) 13:30~15:30

上記・特集展示の関連行事「歴博映画の会」第40回「大和の古代寺院の年頭儀礼と鬼追い行事, その伝承」, 松尾制作民俗研究映像『薬師寺花会式~行法と支える人々~』(2007年, 松尾恒一, 71分)上映と解説

韓国民俗博物館・企画展示「MASKS」展示委員(2022年11月4日~2024年3月31日)

#### 5 教育(総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

千葉大学大学院客員教授(人工物デザイン史論)

國學院大學非常勤講師(伝承文学演習)・國學院大學大学院非常勤講師(アジア比較文化論)

上智大学非常勤講師(多様性の日本民俗文化)

法政大学沖縄文化研究所研究員

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員(学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)

- ・儀礼文化学会・理事 2022年度~現在
- ・藝能学会・理事 2023年度~現在

- ・儀礼文化学会学会紀要・編集委員 2022年～現在
  - ・莆田学院『媽祖文化研究』・編集委員 2022年～現在
  - ・國學院大學國文學會・役員 1999年～現在
  - ・韓国民俗博物館・特別展示「MASK（仮面）」展 2022年11月4日～2024年3月31日
  - ・中国莆田学院媽祖文化研究院刊行『媽祖文化研究』編集委員, 2020年～現在
  - ・中国国家社科基金重大項目“海外藏珍稀中国民俗文献 与文物资料整理, 研究暨数据库建設（海外所蔵の民俗関係文献と文物の調査・研究とデータベースの構築）”成果刊行書籍「海外藏中国民俗文化珍稀文献（海外所蔵中国民俗文化の貴重書籍）」（中国国家重点図書出版項目）編集委員, 2016年～現在
- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）
- 単独・招待「木綿：世界の繊維革命—日本への伝来からジーンズまで—」, 歴博友の会・民俗学講演会。国立歴史民俗博物館, 2024年1月28日
- 3 マスコミ（テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など）
- ◇ケーブルネット296『歴史のミカタ』「特集展示：来訪神、姿とかたち—福の神も疫神も異界から—（15分）」（2023年2月25日～3月5日, 3月13日～19日, 4月24日～30日, 5月8日～14日, 6月12日～18日, 7月31日～8月6日, 9月18日～24日, 2024年1月15日～21日）
- ◇伊賀上野ケーブルテレビ『i-cityニュース』「特集展示：来訪神、姿とかたち—福の神も疫神も異界から—（約30分）」（2023年1月11日）
- 4 社会連携（国内） ナシ
- ① 刊行物（自治体など地方公共団体刊行のもの：市史, 発掘調査報告書など）
  - ② 共同研究（自治体からの委託研究や産業界との共同研究）
  - ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）
  - ④ デジタル・コンテンツ開発（自治体の経費で開発したもの）
- 5 国際連携（日本国内で行われたものも含む）
- ナシ

#### 四 活動報告

##### 1 受賞歴

韓国国立民俗博物館・館長より「韓国国立民俗博物館企画展示「仮面展」への協力と、韓国の民俗文化発展の貢献に対する表彰」, 2023年12月31日

##### 3 研究・調査プロジェクト報告, 2023年3月～現在

###### ○実績報告

日本国内は国東半島の宇佐八幡宮祭礼, 対馬の海神社祭礼の伝承調査を行い, 海外はマレーシアの中元節の先祖祭祀の伝承調査を行った。本年度, 及びそれ以前の調査研究に基づいて, 以下の著書・論文を発表した。

・編著：松尾編『日本藏明清時期中日貿易相關民俗資料選編』（陝西師範大学出版, 2023年）

[論文等]

- ・単著「〈鳥船〉—明清時代の唐船と琉球船—」（『儀礼文化学会紀要』, 12号（通巻52号）, 2024年3月（予定））
- ・単著「〈鳥船〉, 顔のある船—明清時代の唐船と琉球船—」（『Rekihaku』, 文学通信, 2024年2月）
- ・単著「中世, 対馬の府内八幡宮の放生儀礼と神楽—朝鮮半島との交流に注目して—」（神奈川大学『比較民俗研究』, 2024年3月）
- ・単著「長崎のかくれキリシタンのマリア信仰」（永池健二編『女性の力から歴史をみる 柳田国男「妹の力」論の射程』（アジア遊学290）, 勉誠出版, 2023年11月）

##### 4 その他

松尾著『日本藏明清時期中日貿易相關民俗資料選編』（陝西師範大学出版, 全337頁, 2023年5月）の, 中国の民俗学研究者徐梓淇氏による書評が, 神奈川大学『比較民俗研究』38（pp 213-216, 2024年3月）に掲載され, 明清時代の日本との文化交流史の研究として高く評価された。

## 松田 睦彦 MATSUDA Mutsuhiko 准教授（2014.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023～）, 生年：1977

【学歴】早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修（1999年卒業）、成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期（2002年修了）、成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期（2007年修了）

【職歴】成城大学民俗学研究所研究員（2007）、成城大学非常勤講師（2008）、荒川区教育委員会事務局社会教育課文学館調査担当学芸員（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2009）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014）、ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所客員研究員（2016～2017）、韓国国立民俗博物館客員研究者（2017）、神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員（2019～）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2021）、神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員（2022～）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】博士（文学）（成城大学）（2007年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】生業の技術および生業をとりまく信仰・儀礼・社会組織等の生活文化に関する総合的研究【所属学会】日本民俗学会・日本民具学会・日本文化人類学会【研究目的・研究状況】さまざまな生業の技術や、信仰・儀礼をはじめとする生業にともなう生活文化について総合的視点から明らかにする。また、生業にともなう人の移動に注目し、定住を前提とする従来の民俗学的研究に対し、移動の日常性を前提とする研究を提唱している。現在は日本と韓国との海をめぐる生活文化の比較研究も行っている。

### ●主要業績

1. 【単著】『人の移動の民俗学—タビ〈旅〉から見る生業と故郷』311頁、慶友社、2010年
2. 【編著】『人の移動とその動態に関する民俗学的研究』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第199集）、261頁、2015年
3. 【共編著】『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか』158頁、新泉社、2016年
4. 【編著】『徳川林政史研究所所蔵「駿州・豆州・相州 御石場絵図」の研究』（2014～2016年度 科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号2670299）「安山岩に関する歴史・民俗学的研究」成果報告書）、175頁、2017年
5. 【映像】民俗研究映像『石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新』DVD、200分、国立歴史民俗博物館、2012年度

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

- 5 学会・外部研究会発表
  - 「ベ・スホ発表『禁松契と森林管理』へのコメント」、『共同体の心性と物性—共同性と公共性の拮抗関係を越えて』、木浦大学校島嶼文化研究院他、木浦大学校70周年記念館ジョンサンモクホール（韓国）、2023年4月21～22日
  - 「民俗学から見た船・人・信仰—近代における朝鮮海出漁を例として」、『中世学研究会 第5回シンポジウム 船の中世—沈没船・積荷・人』、中世学研究会、國學院大学学術メディアセンター（AMC）常盤松ホール、2023年7月1日
  - 「日韓共同プロジェクトの経緯と成果、そして未来への可能性」、『Taiwan-Japan-Korea Fisheries Cultural Forum「黒潮上の討海之路：台日韓漁業文化対談」』、国立台湾歴史博物館、2024年3月22日
- 7 その他
  - 「文学者に愛された天城湯ヶ島温泉」、池谷初恵・大和田公一編著『古地図で楽しむ伊豆・箱根』、風媒社、pp.62-65、2023年4月30日

#### 二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
  - ① 歴博
    - 基幹研究「先史から近代における日朝交流史像の再構築—航海・港市・交流に生きた人びとの視点から—」（研究代表者：松田陸彦）、2022～2024年度
    - 基盤研究「中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究」（研究代表者：田中大喜）、2022～2024年度
    - 共同利用型共同研究「イソガネの形状と機能に関する研究」（研究代表者：瀬川渉〔横須賀市自然・人文博物館〕）館内担当者、2023年度
  - ② 他の機関

神奈川県日本常民文化研究所基盤共同研究「海域・海村の景観史に関する総合的研究」(研究代表者:安室知〔神奈川県立大学〕)客員研究員, 2019年度～

神奈川県立非文字資料研究センター共同研究「近現代日本の宿(ヤド)の体系化に関する研究」(研究代表者:山本志乃〔神奈川県立大学〕)客員研究員, 2023年度～ 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究B「朝鮮海出漁資料からみた植民地社会の実態研究」(研究代表者:松田陸彦), 2023～2026年度

科学研究費基盤研究A「19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究」(研究代表者:塚本明〔三重大学〕), 研究分担者, 2022～2026年度

科学研究費基盤研究A「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」(研究代表者:村木二郎〔国立歴史民俗博物館〕), 研究分担者, 2022～2026年度

科学研究費基盤研究B「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」(研究代表者:田中大喜〔国立歴史民俗博物館〕), 研究分担者, 2019～2022年度

科学研究費基盤研究B「モノ・人・権力の現代民俗学:日中韓の比較に基づく批判的〈民具〉研究の構築」(研究代表者:門田岳久〔立教大学〕), 研究分担者, 2021～2024年度

## 5 教育

総合研究大学院大学, 「生態環境史」

総合研究大学院大学, 集中講義B「地域研究の方法」

成城大学文芸学部, 「民俗学特殊講義 I a」, 「民俗学特殊講義 I b」

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

【学会】一般社団法人日本民俗学会 理事

【文化財】千葉県文化財保護審議委員, 熱海市教育委員会史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会 委員

【市史】木更津市史編集部会 委員, 府中市史編さん専門部会 委員

### 2 講演・カルチャーセンターなど

「朝鮮に渡った漁師たち」, 『国立歴史民俗博物館友の会民俗学講座』, 国立歴史民俗博物館友の会, 国立歴史民俗博物館ガイダンスルーム, 2024年2月14日

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

日本と韓国における漁業や漁民の往来についての現地調査を実施した。

## 三上 喜孝 MIKAMI Yoshitaka 教授 (2017.11～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授・コース長 (2023～), 生年: 1969

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程卒業 (1992年), 東京大学大学院人文科学研究科日本史学修士課程修了 (1994), 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻課程 (1998年単位取得退学) 【職歴】山形県立米沢女子短期大学講師 (2000.4～), 山形大学人文学部助教授 (2002.9～), 同准教授 (2007.4～), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2014), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2017.11), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2021.11), 研究推進センター長併任 (2020～2021), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023) 【学位】博士 (文学) (東京大学文学部2001) 【専門分野】日本古代史 【主な研究テーマ】東アジア文字文化交流史, 古代地域社会史, 貨幣史 【所属学会】木簡学会, 史学会, 日本史研究会, 正倉院文書研究会, 東北史学会, 韓国木簡学会ほか

### ●主要業績

1. 【単著】『日本古代の貨幣と社会』261頁, 吉川弘文館, 2005年7月
2. 【単著】『日本古代の文字と地方社会』335頁, 吉川弘文館, 2013年8月
3. 【単著】『落書きに歴史をよむ』232頁, 吉川弘文館, 2014年4月



4. 【論文】「古代の辺要国と四天王法」（『山形大学歴史・地理・人類学論集』5, pp.115-126, 2004年3月）
5. 【論文】「韓国出土木簡と日本古代木簡—比較研究の可能性をめぐって—」（『韓国古代木簡の世界』pp.286-307, 雄山閣, 2007年3月）

## ●2023年度の研究教育活動

### 一 研究業績

#### 2 論文

三上喜孝「古代陸奥・出羽の交通と信仰」佐々木虔一・笹生衛・菊地照夫編『古代の交通と神々の景観』八木書店, 2023年5月, 431~452頁, 査読無

三上喜孝「観音信仰, 百済から日本へ —『観世音応驗記』を出発点として—」堀裕, 三上喜孝, 吉田欽編『東アジアの王宮・王都と仏教』勉誠社, 2023年10月15日, 143~165頁, 査読無

三上喜孝「万葉の藤 —「伊久里の杜」をめぐる江戸時代後期の郷土意識—」『萬葉集研究』第43集, 塙書房, 2024年2月15日, 237~251頁, 査読無。

三上喜孝「百済と倭」佐藤信編『古代史講義【海外交流篇】』平凡社新書, 2023年9月, 83~100頁。査読無

三上喜孝「出土文字資料の集成的研究 平泉出土文字資料へのアプローチ(4)「磐前村印」」『平泉学研究』4, 2024年3月, 47~55頁, 査読無

三上喜孝「字智川磨崖碑について」『文書復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究 2020~2023年度科学研究費助成金基盤研究(B) 研究成果報告書(課題番号20H01316)』, 2024年3月, 71~74頁, 査読無

三上喜孝「古代の文字文化とジェンダー」『新潟県埋蔵文化財センター2023年度企画展1 発掘された名前』新潟県埋蔵文化財センター, 2023年4月, 22~25頁, 査読無。

三上喜孝「日韓木簡にみえる「客作児」「支葉児」—平安京跡左京九条三坊十町(施薬院御倉跡)出土木簡を手がかりに—」『国立歴史民俗博物館研究報告』244, 2024年3月, 323~328頁, 査読有

三上喜孝「福島県只見町・成法寺観音堂の中近世の落書きに関する予備調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告』246, 355~367頁, 査読有〔学会発表〕

#### 5 学会・外部研究会発表

三上喜孝「日本古代の角柱状(棒状, 杖状)木簡の意義」, 第二屆中日韓出土簡牘研究國際論壇, 2023年10月22日, 於河北省石家莊市觀和國際酒店(オンライン参加), 招待, 國際学会

三上喜孝「『復古』から『好古』『集古』へ —18世紀後半の日本における過去へのまなざし—」慶北大学校人文学国際学術大会『生・老・死の人文学』, 2023年11月11日, 於韓国・国立慶北大学校人文学(オンライン参加), 招待, 國際学会

三上喜孝「韓国古代「龍王」銘木簡再考」韓国・国立慶北大学人文学術院HK+事業団主催第6回国際学術大会, 2024年1月22日~26日, 於韓国慶尚南道統営市・コボクソンホテル(現地参加), 招待, 國際学会

三上喜孝「出土文字資料の集成的研究 平泉出土文字資料へのアプローチ(4)「磐前村印」」平泉学研究会, 2月3日, 於奥州市水沢グランドホテル(現地参加), 招待

#### 7 その他

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

#### ① 歴博

「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」(研究代表者: 田中祐介) 2022~2024年度, ほか

#### ③ 機構

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」(研究代表者: 三上喜孝) 2022~2027年度, ほか

### 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究(C)「日中韓の王宮と官衙の比較宗教史研究」(研究代表者: 堀裕) 研究分担者, 2022~2025年度

科学研究費基盤研究(B)「文書群復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究」(研究代表者: 下村周太郎) 研究分担者, 2020~2023年度

科学研究費基盤研究 (B) 「汐留遺跡出土木簡群の再検討を基盤とした近世・近代木簡研究の飛躍的展開」2022～2026年度

岩手県受託研究「出土文字資料の集成的研究」(研究代表者: 三上喜孝) 2020～2024年度

### 3 国際交流事業

「東アジア記録文化の源流と知的ネットワーク研究」2020～2022年度 (韓国・国立慶北大学校人文学術院との交流協定にもとづく国際交流事業)

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

福島県立博物館収集展示委員会委員 (福島県)

国史跡上人壇廃寺跡整備委員会委員 (福島県須賀川市)

泉官衙遺跡保存整備指導委員会委員 (福島県南相馬市) 秋田城跡環境整備指導委員会委員 (秋田県秋田市)

郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会委員 (宮城県仙台市)

府中市史編さん専門部会委員 (東京都府中市)

### 4 社会連携

#### ② 共同研究

岩手県受託研究「出土文字資料の集成的研究」(研究代表者: 三上喜孝) 2020～2024年度

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

『聆涛閣集古帖』の追加調査の成果については、2024年10月開催の企画展示「歴史の未来 ―過去を伝えるひと・もの・データ―」で一部展示する予定である。また、前近代の知のネットワークについての成果については、三上喜孝「万葉の藤 ―「伊久里の杜」をめぐる江戸時代後期の郷土意識―」(『萬葉集研究』43, 塙書房, 2024年2月)で公表した。

## 三輪 仁美 MIWA Hitomi プロジェクト研究員 (2023.4～)

【学歴】國學院大學文学部史学科 (2010年卒業), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程前期 (2013年修了), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程後期 (2016年中途退学)

【職歴】独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー (2016年7月～2017年3月), 宮内庁書陵部編修課皇室制度調査室研究員 (2017年4月～2021年11月), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究員 (2023年4月～)

【学位】修士 (歴史学, 國學院大學) 【専門分野】日本古代史 【主な研究テーマ】史書・系譜の編纂と伝来に関する研究 【所属学会】国史学会, 日本古文書学会, 日本歴史学会

### ●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

【論文】「『片節会』に関する覚書」(『書陵部紀要』71, pp.15-26, 2021年),

【論文】「『延喜式』の写本系統に関する試論」(『国立歴史民俗博物館研究報告』218, pp.69-101, 2019年),

【論文】「大殿祭と王位継承」(『國學院大學大学院紀要』45, pp.219-240, 2013年),

【論文】「宮内庁書陵部所蔵『九条殿紀』第二巻の再検討」(『古文書研究』76, pp.1-20, 2013年)

【展示図録・資料図録・映像・DB】「デジタル延喜式」(共同制作, 巻14・21本文校訂)

### ●2023年度の研究教育活動 (成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

#### 一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

2 論文 (査読あり, なしを明記): 「『延喜式』巻二一校訂 (稿)」(査読あり, 『国立歴史民俗博物館研究報告』244, pp.137-165, 2024年3月), 「日本古代「国母」考」(査読あり, 『日本歴史』910, pp.1-16, 2024年2月)

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発: 「デジタル延喜式」(共同制作, 巻13本文校訂・現代語訳, 巻14現代語訳, 巻21本文校訂・現代語訳)

## 二 主な研究教育活動（共同研究，調査，展示，教育等）

### 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

#### ② 他の機関

国際日本文化研究センター共同研究「日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究—国民国家の始発と終焉」（研究代表：磯前順一・荊田真司）

#### ③ 機構（基幹研究プロジェクト）

広領域型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」ユニット「延喜式のデジタル技術による汎用化」（研究代表：小倉慈司）

### 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自団体による研究）

日本学術振興会科学研究費助成事業研究活動スタート支援「日本古代の私撰史書『日本紀略』の史料学的研究」（研究代表）

## 村木 二郎 MURAKI Jiro 准教授（2008.10～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023～），生年：1971

【学歴】京都大学文学部史学科（考古学専攻）（1995年卒業），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修修士課程（1997年修了），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修博士後期課程（1999年中退）

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1999），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（京都大学）（1997年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本中世の考古学的研究【所属学会】史学研究会，日本考古学協会【研究目的・研究状況】信仰，都市，生産技術など，考古学の立場から中世史を総合的に研究する。

### ●主要業績

1. 【新・特集展示】『海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—』令和2年度歴博新特集展示，展示代表，2021年
2. 【企画展示】『時代を作った技—中世の生産革命—』平成25年度歴博企画展示，展示代表，2013年
3. 【研究報告特集号】編著「特集号 中世東アジア海域世界における琉球の動態に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集，305頁，2021年3月
4. 【研究報告特集号】編著「特集号 中世の技術と職人に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第210集，272頁，2018年3月
5. 【編著】『中世のモノづくり』164頁，朝倉書店，2019年3月

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

#### 2 論文

「中世益田の貿易陶磁調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』245，pp.399-434,2024年2月29日，査読あり，共著

「八重山・宮古の集落遺跡と信仰遺跡」『考古学ジャーナル』793，pp.24-28,2024年3月30日，査読なし，共著

#### 3 調査報告書

「東光寺経塚と出土資料について」『多良木相良氏関連遺跡群調査報告書』多良木町教育委員会，pp.213-220,2024年3月31日

#### 7 その他

「経塚資料コレクション」『文部科学教育通信』562，p.1,2023年8月28日

「八重山，宮古，琉球の海と倭寇」『シンポジウム「琉球の海 倭寇の海」資料集』pp.37-48,2023年10月8日

## 二 主な研究教育活動

### 1 主な共同研究等参加状況

#### ① 歴博

基盤研究「中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究」(研究代表者:田中大喜), 2022~2024年度

産学連携「展示を使った教材開発研究」(研究代表者:村木二郎) 研究代表者, 2021~2023年度

#### ② 他の機関

鳥根県古代文化センター・テーマ研究「鋳物と鋳物師の研究」客員研究員, 2022~2024年度

### 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究A「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」(研究代表者:村木二郎) 研究代表者, 2022~2026年度

科学研究費基盤研究B「実証的な中世マクロ経済推計モデル構築に向けた基礎研究」(研究代表者:中島圭一) 研究分担者, 2023~2025年度

### 4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「古代国家と列島世界」, 第2室「王朝文化」「東国と西国」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代のなかの日本」展示プロジェクト委員

2022年度企画展示「いにしえが、好きっ!—近世好古図録の文化誌—」展示プロジェクト委員, 総合展示第2室リニューアル委員会(代表)

### 5 教育

千葉大学特別研究C・D(留学生プロジェクト)

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

中世学研究会世話人

文化庁中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会委員

熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員(委員長)

伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会委員

印旛郡市文化財センター理事

静岡県文化財保護審議会委員

### 2 講演・カルチャーセンターなど

「考古学からみた古代と中世の違い」朝日カルチャーセンター千葉, 2023年7月6日

「平安時代の世紀末と信仰遺跡」朝日カルチャーセンター千葉, 2023年10月26日

「藤原道長と経塚」朝日カルチャーセンター千葉, 2024年2月2日

「鏡が映す中世の信仰と技術」第599回風土記の丘教室・令和5年度第8回ガイド養成講座, 鳥根県立八雲立つ風土記の丘, 2024年2月10日

### 4 社会連携

#### ③ 講演会・シンポジウム

シンポジウム「琉球の海 倭寇の海」沖縄県立博物館・美術館, 2023年10月8日

## 四 活動報告

### 3 研究・調査プロジェクト報告

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡や小田原城下町遺跡など, 中世後期の特徴的な地方都市遺跡を巡見し, その多様性と共通性を再確認した。現在準備中の総合展示第2展示室リニューアルにあたっては, 中世後期の都市を取り上げるが, 現在の展示をつくった40年前とは研究状況が大きく異なっており, 考古学の成果をどこまで取り入れることができるか判断する必要に迫られている。

**山下 優介 YAMASHITA Yusuke テニユアトラック助教(2023~)** 生年:1991年

【学歴】筑波大学人文・文化学群人文学類考古学・民俗学主専攻卒業(2014年), 東京大学大学院人文社会系研究科

考古学専門分野修士課程修了（2016年）同博士課程修了（2021年）

【職歴】 国立大学法人東京大学キャンパス計画室埋蔵文化財調査室助教（～2023年3月）

【最終学位】 博士（文学）東京大学【専門分野】 考古学【主な研究テーマ】 弥生・古墳時代の交流関係や社会の変化【所属学会】 考古学研究会, 日本考古学協会, 日本植生史学会

### ●主要業績

1. 【論文】 山下優介「弥生・古墳時代移行期における近江系土器の移動とその背景」東京大学大学院人文社会系研究科, 2021年（学位請求論文）
2. 【論文】 山下優介「近江地域北部の弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年—器台形土器を中心とした検討—」『東京大学考古学研究室研究紀要』33, pp.121-153, 2020年
3. 【論文】 山下 優介・守屋 亮・佐々木由香「市川市域における古墳時代から平安時代の植物利用—レプリカ法による土器圧痕の調査を中心に—」『市史研究いちかわ』13, pp.29-48, 2022年
4. 【論文】 山下優介「弥生・古墳時代の独立棟持柱建物に関する考察」『筑波大学 先史学・考古学研究』26, pp.23-47, 2015年

### ●2023年度の研究教育活動

#### 一 研究業績

##### 2 論文

稲田 健一・國木田 大・佐々木由香・山下 優介・山本 華・設楽 博己・米田 穰「茨城県ひたちなか市遺跡出土の炭化穀類の年代」『茨城県考古学協会誌』35, pp.85-102, 2023年5月, 査読なし

太田 圭・佐々木由香・山下 優介・小久保竜也・岩田 貴之・工藤 美樹「レプリカ法による北上市域出土土器の圧痕調査」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』8, pp.39-58, 2024年5月, 査読なし

浦 蓉子・川崎雄一郎・鶴来 航介・西原 和代・村上由美子・桃井 宏和・山下 優介・王 永磊・孫国平「田螺山遺跡出土土器（2）」『日中共同研究成果報告書Ⅲ 動物・植物・鉱物から探る古代中国』六一書房, pp.41-78

##### 3 調査・発掘調査報告書

山下優介「古墳時代前期の顔戸遺跡群—本遺跡出土遺物の検討を中心として—」『長門寺遺跡・顔戸遺跡・高溝遺跡発掘調査報告書』米原市埋蔵文化財調査報告書第6集, 米原市教育委員会, 2024年3月

山下優介「本郷台地における古墳時代の集落変遷」『東京大学本郷構内の遺跡 看護職員等宿舍5号棟地点看護職員等宿舍3号棟地点（2）』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書19, 東京大学埋蔵文化財調査室, 2024年3月

##### 5 学会・外部研究会発表

國木田 大・佐々木由香・山下 優介・山本 華・佐伯 博光・米田 穰「河内平野におけるムギ類利用の年代研究」日本文化財科学会第40回記念大会, 2023年10月

箱崎 真隆・佐野 雅規・篠崎 鉄哉・木村 勝彦・山下 優介・土山 祐之・坂本 稔「国立歴史民俗博物館における酸素同位体比年輪年代法の新拠点形成」日本文化財科学会第40回記念大会, 2023年10月

#### 二 主な研究教育活動

##### 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

###### ① 歴博（基幹・基盤・開発型, 国内交流事業）

基幹研究「先史から近代における日朝交流史像の再構築 —航海・港市・交流に生きた人びとの視点から—」（研究代表者：松田陸彦）2022～2024年度

基幹研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」（研究代表者：阿部昭典）2023～2025年度

##### 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究）

科学研究費補助金（若手）「弥生・古墳時代移行期の関東地方における土器胎土の分析からみた土器の移動」研究代表者, 2023～2024年度

#### 三 社会活動等

##### 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

「土器からみる古墳出現前後の霞ヶ浦」上高津貝塚ふるさと歴史の広場第26回企画展記念シンポジウム「霞ヶ

浦の前期古墳と地域社会の成り立ち」2023年11月23日

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

「弥生時代における近江系土器の地域色に関する調査研究」に取り組み、滋賀県守山市出土の弥生土器、同県米原市出土の弥生・古墳時代の土器を対象とした実見・観察調査を各所蔵機関で実施した。調査成果の一部は、上記、「一 研究業績」の「古墳時代前期の顔戸遺跡群一本遺跡出土遺物の検討を中心として」として公表した。

### 山田 慎也 YAMADA Shinya 教授 (2019.7～), 副館長 (2022.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～), 生年：1968

【学歴】慶應義塾大学法学部法律学科 (1992年卒業), 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程 (1994年修了), 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程 (1997年単位取得退学)

【職歴】国立民族学博物館講師 (COE非常勤研究員) (1997), 東京外国語大学非常勤講師 (1997), 国立歴史民俗博物館民俗研究部助手 (1998), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手 (2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2019.7～), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2019.7～), 広報連携センター長併任 (2020.4～2022.3), 副館長 (2022.4～), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】社会学博士 (慶應義塾大学) (2000年取得) 【専門分野】民俗学・文化人類学 【主な研究テーマ】葬制と死生観・儀礼研究 【所属学会】日本民俗学会, 日本文化人類学会, 日本宗教学会, 宗教と社会学会, 葬送文化学会 【研究目的・研究状況】<http://www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/kenkyuusya/yamada/index.html>

#### ●主要業績

1. 【単著】『現代日本の死と葬儀—葬祭業の展開と死生観の変容』350頁, 東京大学出版会, 2007年9月
2. 【編著】山田慎也・土居浩編『無縁社会の葬儀と墓—死者との過去・現在・未来』245頁, 2022年7月
3. 【論文】「告別式の平準化と作法書」『国立歴史民俗博物館研究報告』第205集, pp.137-166, 2017年3月 (査読有)
4. 【研究報告特集号：編著】『民俗儀礼の変容に関する資料論的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第205集, 490頁, 2017年3月
5. 【資料図録：編著】『ライデン民族学博物館・国立歴史民俗博物館所蔵死絵』, 2016年3月

#### ●2023年度の研究教育活動

##### 一 研究業績

- 1 著書
- 2 論文

「作法書に見られる情報と正統性」冠婚葬祭総合研究所論文集 (令和4年度), 冠婚葬祭総合研究所, pp.20-25, 2023年5月31日 (査読なし)

##### 5 学会外部研究会発表

「仏壇のリメイク事業にみられる仏壇の継承とその課題」日本宗教学会第82回学術大会, 東京外国語大学, 2023年9月10日

「パネル「病院は死者をいかに遇することができるか～病院における「死者へのケア」～」へのコメント」日本スピリチュアルケア学会

2023年度第16回学術大会, 2023年11月4日

「葬送儀礼に見られる戦争の徴」第41回人文機構シンポジウム「戦争をめぐる生と死」, コモレ四谷タワーコンファレンス, 人間文化研究機構, 2024年1月28日

「間食と食事との相互変化—民俗学の見た食文化研究より」食の文化フォーラム「間食の功罪：食事とはなにかを逆照射する」TKP ガーデンシティ Premium 東京駅丸の内中央, 公益財団法人味の素の文化センター, 2024年3月2日

## 7 その他

「肉親の火葬中でも会食が当然とされつつある訳と危機：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの41」『月刊住職』293, 興山舎, pp.118-122,2023年4月1日

「葬儀をしない者が増えるのは個人のせいだけなのか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの42」『月刊住職』294, 興山舎, pp.63-67,2023年5月1日

「日本特有の企業による葬儀「社葬」が行われ始めた訳：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの43」『月刊住職』295, 興山舎, pp.133-137,2023年6月1日

「葬儀の激変でお寺はどうなるか現場調査で見た事実：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの44」『月刊住職』297, 興山舎, pp.110-114,2023年8月1日

「過疎化に伴って寺院に永代合葬墓の時代が来るわけ：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの45」『月刊住職』298, 興山舎, pp.108-112,2023年9月1日

「研究者としてより自ら喪主となり分かった尊いこと：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの46」『月刊住職』299, 興山舎, pp.124-128,2023年10月1日

「祭壇の飾りが消え出棺の頭の向きも規制される時代に：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの47」『月刊住職』300, 興山舎, pp.102-106,2023年11月1日

「訃報を出すべきか香奠を受けるべきかを考えた訳：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの48」『月刊住職』301, 興山舎, pp.104-108,2023年12月1日

「多数が施設で亡くなる現実に施設は何をしているのか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの49」『月刊住職』303, 興山舎, pp.121-125,2024年2月1日

「祭壇」『文部科学教育通信』561号, ジアース, p.2,2022年8月14日

「仏壇」『REKIHAKU』6号, 国立歴史民俗博物館, pp.102-104,2023年6月26日

「変はり続けるおせち料理」『神社新報』3664号, 神社新報社, p.11,2024年1月1日付

## 二 主な研究教育活動

## 1 主な共同研究等参加状況

## ① 歴博

基幹研究「高齢多死社会における生前から死後の移行に関する統合的研究」(研究代表者：山田慎也) 2023～2025年, 代表

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」(研究代表者：上野祥史) 2023～2025年, 分担者

歴博研究映像共同研究「歴博研究映像の総合的活用の方法論の構築—沖縄地域の映像を中心に」(研究代表者：春日聡) 2022～2024年, 分担者

機構連携研究「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」(研究代表者：川村清志) 2022～2027年, 分担者

## 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究 (B)「超高齢多死社会を見据えた葬制システムの再構築：多様な生前と死後をつなぐために」(研究代表者：山田慎也) 2021年度～2024年度, 研究代表者

科学研究費基盤研究 (B)「病院は死者をいかに遇することができるか：医療現場での『無宗教』者への死者へのケア」(研究代表者：山本佳世子) 2021年度～2024年度, 研究分担者

## 4 主な展示・資料活動

企画展示「時代を映す錦絵」展示プロジェクト委員 会期：2025年3月25日～5月6日

特集展示第3室「歴史・文化の中の国姓爺」展示プロジェクト委員, 会期：2024年11月26日～2025年1月26日

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員総合展示第4室「おそれと祈り」展示プロジェクト委員

## 5 教育

## 三 社会活動等

## 1 館外における各種委員 日本葬送文化学会副会長

冠婚葬祭総合研究所客員研究員

全国冠婚葬祭互助協会葬儀品質認定制度審査会委員

供養の日普及推進協会顧問

## 2 講演・カルチャーセンターなど

「現代社会の状況と「葬儀」と「墓」のこれから」フューネラルビジネスシンポジウム2023, 総合ユニコム株式会社, パシフィコ横浜, 2023年6月21日

「近代化と葬送儀礼の変容」教派神道連合会第22回神道講座, 國學院大學, 2022年6月9日

「葬送の歴史と変容—過去・現代・未来—」メモリアルアートの大野屋社員研修会, SYDホール, メモリアルアートの大野屋, 2023年7月25日

「社会の変化と多様化する葬儀への対応」曹洞宗兵庫県第一宗務所令和4年現職研修会, 神戸三田ホテル, 2023年9月4日

「近親者なき故人の葬送と困窮高齢者の意思の実現」第8回<公開>連続講座「看取りの文化を構築する」, 東洋英和女学院大学死生学研究所, 2024年1月20日

「超高齢社会における死と葬儀への対応」「教学館」月例学習会, 真宗大谷派東京教区, 2024年2月15日

## 3 マスコミ

「滝野隆治の掃苔記 ひとりで泣くことは」『毎日新聞』2023年4月9日

「[関心アリ!] 飼っていた昆虫を弔う」『読売新聞』2023年6月27日

「[死と生を見つめて] 多様な研究(4) 遺影 人格も重ねて拝む」『読売新聞』2023年9月20日

「ザ・バックヤード」『NHK』Eテレ 2023年9月6日, 再放送9月12日

「身寄りのない人 死後の尊厳を 火葬前に親族探し 保管長期化」『中日新聞』2023年11月15日

「おせち, 何を入れる? 時代と共に変遷, 「ごちそう」詰め込んだお重」withnews 2023年12月26日 (<https://withnews.jp/article/f0231226001qq0000000000000000W0ih10101qq000026475A>)

## 4 社会連携

## ② 共同研究

「冠婚葬祭と情報化に関する研究」研究代表者山田慎也, 冠婚葬祭総合研究所, 2021~2023年

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

儀礼における食のあり方について, 儀礼の食事は通常の食事とは異なった位置づけであるため, 食事としての料理の提供だけでなく, 菓子などの嗜好品も多用され, 多様な展開していることが明らかになった。

## 吉井 文美 YOSHII Fumi, 准教授 (2018.4~)

【学歴】東京大学文学部卒業 (2008年), 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了 (2010年), 同博士課程修了 (2014年)

【職歴】東京大学史料編纂所リサーチ・アシスタント (2013~2014年), 山形大学人文学部専任講師 (2014~2017年), 国立台湾師範大学兼任助理教授 (2016~2017年), 山形大学人文社会科学部専任講師 (2017~2018年)

【学位】博士 (文学, 東京大学) 【専門分野】日本近代史, 東アジア国際関係史 【主な研究テーマ】近代日本の対中政策とその国際的影響, 日本の帝国支配をめぐる外交史的研究 【所属学会】史学会, 日本植民地研究会

## ●主要業績

- 【論文】「日本の中国支配と海関政策の展開：人事問題を中心として」『日本歴史』865号 (2020年)
- 【論文】「日中戦争下における揚子江航行問題—日本の華中支配と対英米協調路線の蹉跌—」『史学雑誌』第127編第3号 (2018年)
- 【共著】『日中戦争の国際共同研究5 中国の戦時経済と変容する社会』(担当範囲: 日本の華北支配と開港炭鉱) (慶應義塾大学出版会, 2014年)
- 【論文】「一九三五年の『新生』不敬記事事件」『日本歴史』789号 (2014年)
- 【論文】「『満洲国』創出と門戸開放原則の変容—「条約上の権利」をめぐる攻防—」『史学雑誌』第122編第7号 (2013年)

## ●2023年度の研究教育活動

## 一 研究業績



## 5 学会・外部研究会発表

「日本の中国占領地支配」中国現代史研究会，明治大学，2024年3月10日

## 7 その他

第5セッション指定討論，第8回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性，日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性実行委員会，オンライン，2023年8月9日

## 二 主な研究教育活動

## 4 主な展示・資料活動

総合展示第5室・第6室リニューアル委員

## 三 社会活動等

## 四 活動報告

## 3 研究・調査プロジェクト報告

「満洲国」における外資企業の位置づけについて，「満洲国」成立（1932年3月）前と後の状況について，日本の外務省や陸軍省の史料のほか，イギリス外務省の史料やイギリス系企業の史料などに基づいて実証的に明らかにした。これにより，日本の満洲支配における外資企業の果たした役割が，国際関係史の文脈から明らかになった。本テーマと関わる研究報告を，2024年3月に行った。

## 吉村 郊子 YOSHIMURA Satoko 助教（2007～）

【学歴】奈良女子大学理学部生物学科（1992年卒業），京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程人間・環境学専攻（1994年修了），ナミビア大学学際研究センター社会科学部門（共同研究生：1995～1998年），京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・環境学専攻（2000年研究指導認定退学）【職歴】国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）【学位】人間・環境学修士（京都大学）（1994年取得）【専門分野】生態人類学，文化人類学【主な研究テーマ】日本の山間地域における人・生業・自然に関する人類学的研究，アフリカ南部の牧畜民に関する人類学的研究，自然と信仰・音に関する研究【所属学会】日本文化人類学会，日本アフリカ学会，生態人類学会，日本葬送文化学会

## ●主要業績

1. 【論文】「身近な人の死と想いを，わたしたちはどう受容し，生きていくのか」『葬送文化』第24号（2023年，査読無）pp.110-123
2. 【論文】「遺された／生きる者にとっての墓—牧畜民ヒンバの事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第181集（2014年，査読有）pp.81-109
3. 【論文】「ナミビアの牧畜民ヒンバと土地のかかわり—その歴史と現在」『国立歴史民俗博物館研究報告』第145集（2008年，査読有）pp.145-229
4. 【分担執筆】「第7章 土地と人をつなぐもの—ナミビアの牧畜民ヒンバにとっての墓」田中二郎他編『遊動民（ノマッド）—アフリカの原野に生きる』（明石書店，2004年）pp.439-464
5. 【分担執筆】「第4章 炭焼きとして現代を生きぬく」篠原 徹編『現代民俗誌の地平1. 越境』（2003年，朝倉書店）pp.70-96

## ●2023年度の研究教育活動

## 一 研究業績

## 7 その他

『REKIHAKU—特集：歴史をつなぐ』（2023年10月発行）編集担当

## 二 主な研究教育活動

## 5 教育

早稲田大学非常勤講師（教育学部「文化人類学研究Ⅰ」「文化人類学研究Ⅱ」）

#### 四 活動報告

##### 3 研究・調査プロジェクト報告

今年度は過去の海外調査で得た資料を整理しつつ、関連する先行研究や文献資料の収集・調査を行い、また国内で現地調査を行った。現地調査では、山口および関西で亡くなり、弔われた人の事例について聞き取り調査を行い、墓地と墓に関する現地調査では墓の移転・改修や無縁塔について調査を行った。

## 若木 重行 WAKAKI Shigeyuki 准教授（2023～）

【学歴】名古屋大学理学部地球惑星科学科（2003年卒業）、名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻博士前期過程（2005年修了）、名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻博士後期過程（2008年修了）【職歴】北海道大学理学研究院自然史科学部門 博士研究員（2008）、独立行政法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 技術研究員（2012）、国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 副主任研究員（2021）、名古屋大学宇宙地球環境研究所 客員准教授（2021-）、大学共同利用機関法人人間文化 研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2023-）、国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 招聘主任研究員（2023-）【学位】博士（理学）（名古屋大学、2008年取得）【専門分野】同位体地球化学、分析化学、文化財科学【主な研究テーマ】先端的同位体分析を駆使した地球史・人類史の解説、湿式化学分析・質量分析を活用した先端的同位体分析手法の開発、文化財・出土資料の自然科学的分析による材質・技法・産地・年代の研究【所属学会】日本地球化学会、日本文化財科学会、日本地球惑星科学連合、Geochemical Society、Meteoritical Society【研究目的・研究状況】本格的に「人類の」歴史を研究対象にすることになったので、既存の研究分野の枠や壁にとらわれずに大小問わず「面白い問題」を探したいと意気込んでいる。

#### ●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

1. 【論文】[S. Wakaki](#), J. Aoki, R. Shimode, K. Suzuki, T. Miyazaki, J. Robberts, H. Vollstaedt, S. Sasaki and Y. Takagai (2022) A part per trillion isotope ratio analysis of  $90\text{Sr}/88\text{Sr}$  using energy-filtered thermal ionization mass spectrometry, *Scientific Reports* 12, 1151 (10 pp) . (査読あり)
2. 【論文】[S. Wakaki](#) and T. Ishikawa (2018) Isotope analysis of nanogram to sub-nanogram sized Nd samples by total evaporation normalization thermal ionization mass spectrometry, *International Journal of Mass Spectrometry* 424, 40-48. (査読あり)
3. 【論文】[S. Wakaki](#), H. Obata, H. Tazoe and T. Ishikawa (2017) Precise and accurate analysis of deep and surface seawater Sr stable isotopic composition by double-spike thermal ionization mass spectrometry, *Geochemical Journal* 51, 227-239. (査読あり)
4. 【論文】[S. Wakaki](#), S. Itoh, T. Tanaka and H. Yurimoto (2013) Petrology, trace element abundances and oxygen isotopic compositions of a compound CAI-chondrule object from Allende, *Geochimica et Cosmochimica Acta* 102, 261-279. (査読あり)
5. 【論文】[S. Wakaki](#) and T. Tanaka (2012) Stable isotope analysis of Nd by double spike thermal ionization mass spectrometry, *International Journal of Mass Spectrometry* 323-324, 45-54. (査読あり)

#### ●2023年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

##### 一 研究業績（公開、発表、刊行済みのもの）

##### 2 論文（査読あり、なしを明記）

S. Kikuchi, T. Kashiwabara, M. Kurisu and [S. Wakaki](#) (2024) Speciation of iodine on biogenic iron oxyhydroxides by I K-edge and LIII-edge XANES, *Chemistry Letters* 53, upae023, 1-4, 2024年2月（査読あり）

佐藤興平, 南雅代, [若木重行](#) (2024) フォッサマグナ地域の新第三紀—第四紀火成岩類のSr同位体組成：時空分布の特徴, 群馬県立自然史博物館研究報告 28, 2024年3月（査読なし）

##### 5 学会・外部研究会発表

[若木重行](#), 堀川恵司, 小畑元, 石川剛志. 放射起源Sr同位体比 ( $87\text{Sr}/86\text{Sr}$ ) の海水中における均質性の再検討,

日本地球化学会第70回年会, 東京海洋大学, 2023年9月

若木重行, 山田琴子, 松木武彦, 齋藤努. Rb-Sr同位体系分析による緑色凝灰岩材の産地推定の可能性, 日本文化財科学会第40回記念大会, 天理市, 2023年10月

若木重行, 山田琴子, 松木武彦, 齋藤努. 碧玉原材料としての緑色凝灰岩-碧玉の原産地推定を目的とした基礎的研究, 2023年度名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学, 2024年2月

A. D. Sproson, T. Yoshimura, S. Wakaki, T. Aze, T. Ishikawa, Y. Yokoyama, and N. Ohkouchi. The impact of Antarctic ice sheet expansion (ca. 34 Ma) on silicate weathering and the carbon cycle: insights from Mg and Li isotopes, Goldschmidt conference 2023, Lyon (France), 2023年7月

C. kato, R. Aso, S. Fukutani, R. Nakada, K. Nagaishi, S. Wakaki and T. Fujii. Gallium isotopic composition of GSJ rock reference samples, Goldschmidt conference 2023, Lyon (France), 2023年7月

J. Aoki, M. Goto, S. Wakaki, T. Miyazaki, K. Suzuki and Y. Takagai. Direct Quantification of  $^{90}\text{Sr}$  in Biosamples Using Isotope Dilution-Thermal Ionization Mass Spectrometry Assisted by Quadrupole Energy Filtering, Goldschmidt conference 2023, Lyon (France), 2023年7月

加藤千図, 麻生陸也, 福谷哲, 中田亮一, 永石一弥, 若木重行, 藤井俊行. 地球岩石試料の高精度ガリウム同位体分析, 日本原子力学会 2023年秋の大会, 名古屋大学, 2023年9月

菊池早希子, 柏原輝彦, 栗栖美奈子, 若木重行. XANES法を用いた微生物生成水酸化鉄に吸着したヨウ素のスペシエーション, 日本地球化学会第70回年会, 東京海洋大学, 2023年9月

吉村寿紘, 若木重行, 岩崎望, 石川剛志, 大河内直彦. 宝石サンゴのカルサイト骨格におけるSr安定同位体 ( $^{88}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$ ) 分別, 日本地球化学会第70回年会, 東京海洋大学, 2023年9月

木本ゆうな, 若公良太, 高柳栄子, 黒柳あずみ, 若木重行, 井龍康文. オーストラリア西岸沖における最終氷期最盛期と完新世の水塊構造, 日本サンゴ礁学会第26回大会, 東北大学, 2023年11月

南雅代・若木重行, 佐藤亜星. 火葬骨の土中での分解: 考古人骨の分析からの考察, 質量分析学会同位体比部会 2023, 青森市, 2023年11月

川島葉南, 高柳栄子, 黒柳あずみ, 若木重行, 木本ゆうな, 若公良太, 石川剛志, 井龍康文. 複数の氷期-間氷期におけるルーウィン海流の動態変化とその要因, 日本古生物学会第173回例会, 東北大学, 2024年01月

赤松星哉, 加藤千図, 麻生陸也, 岡田一輝, 福谷哲, 中田亮一, 永石一弥, 若木重行, 藤井俊行. アザクラウンエーテルを用いた化学交換法における亜鉛の同位体分別, 第21回同位体科学研究会, 芝浦工業大学, 2024年3月

#### 7 その他 (『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

「歴博研究最前線 遠くて近い文化財科学と地球化学」, 歴史民俗博物館振興会編『国立歴史民俗博物館友の会ニュース 歴博友の会』第230号, 歴博友の会, 2023年12月

## 二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

### 2 外部資金による研究

科学研究費補助金 挑戦的研究 (萌芽) 「漆塗膜の多成分・多元素同位体分析による漆工芸品の製作地推定に向けた試み」(2021年度-2023年度) 研究代表者

科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「火葬骨のヒドロキシアパタイトのマルチ同位体分析による食性解析」(研究代表者: 南雅代, 2021年度-2025年度) 研究分担者

科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「Sr-90の中長期の地下浸透を予測支援する一滴質量分析法の開発」(研究代表者: 高貝慶隆, 2020年度-2023年度) 研究分担者

## 三 社会活動等

### 1 館外における各種委員

一般社団法人 日本地球化学会 理事 (2021.9-2023.9)

一般社団法人 日本地球化学会 理事・企画幹事 (2023.9-)

一般社団法人 日本地球化学会 和文誌『地球化学』編集委員 (2014.1-)

公益社団法人 日本地球惑星科学連合 プログラム委員会委員 (2023.11-)

高知大学 海洋コア国際研究所 課題選定委員会委員 (2022.4-2024.3)

## 四 活動報告

### 1 受賞歴

日本文化財科学会ポスター賞, 若木重行, 山田琴子, 松木武彦, 齋藤努. Rb-Sr同位体系分析による緑色凝灰岩材の産地推定の可能性, 2023年10月, 日本文化財科学会.

### 3 研究・調査プロジェクト報告

質量分析機器の実験環境の立ち上げを行い, 部屋の真ん中にポツンと分析機器だけが置かれた状態から, 単離済みSr試料があれば放射起源Sr同位体データを出すことが可能な状態まで辿り着いた。肝心の湿式化学実験環境の立ち上げはほとんど手付かずで次年度の課題。